

横須賀市
障害者福祉アンケート
調査結果報告書

令和3年1月

横 須 賀 市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	2
II	調査結果	3
1	回答者属性	3
2	福祉サービス等について	17
3	日中活動について	34
4	仕事について	45
5	医療ケアについて	68
6	教育・療育について	71
7	相談相手や情報の入手について	75
8	権利擁護について	79
9	災害時の避難等について	84
III	障害児	88

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、障害児者及び特定医療費（指定難病）受給者証所持者の現状やニーズを把握し、障害福祉計画の策定資料および今後の市の施策決定の参考資料とすることを目的として実施したものです。

2 調査対象

- ①身体障害者（65歳未満の身体障害者手帳所持者）
882人（うち18歳未満40人）対象総数の約30%
- ②知的障害者（療育手帳所持者）
874人（うち18歳未満264人）対象総数の約30%
- ③精神障害者（65歳未満の精神障害者保健福祉手帳所持者）
886人（うち18歳未満12人）対象総数の約30%
- ④特定医療費（指定難病）受給者証所持者（順次配布）
43人

3 調査期間

令和2年6月8日から令和2年6月30日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
身体障害	882 (40)	510 (17)	57.8% (42.5%)
知的障害	874 (264)	484 (131)	55.4% (49.6%)
精神障害	886 (12)	486 (6)	54.9% (50.0%)
指定難病	43 (0)	24 (0)	55.8% (0%)
合計	2,685 (316)	1,504 (154)	56.0% (48.7%)

※（）内は18歳未満で内数

6 調査結果の表示方法

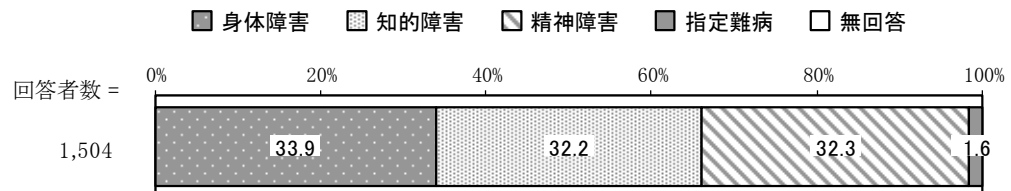
- 回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- 調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）

Ⅱ 調査結果

1 回答者属性

(1) 障害種類

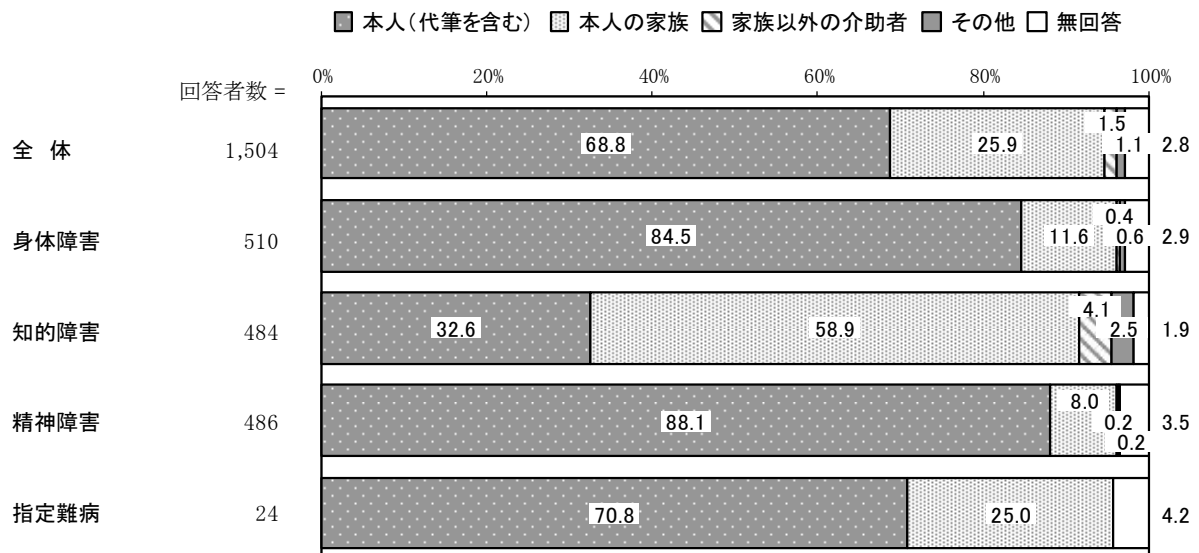
全体では、「身体障害」の割合が33.9%と最も高く、次いで「精神障害」の割合が32.3%、「知的障害」の割合が32.2%となっています。



(2) 回答者

全体では、「本人（代筆を含む）」の割合が68.8%と最も高く、次いで「本人の家族」の割合が25.9%となっています。

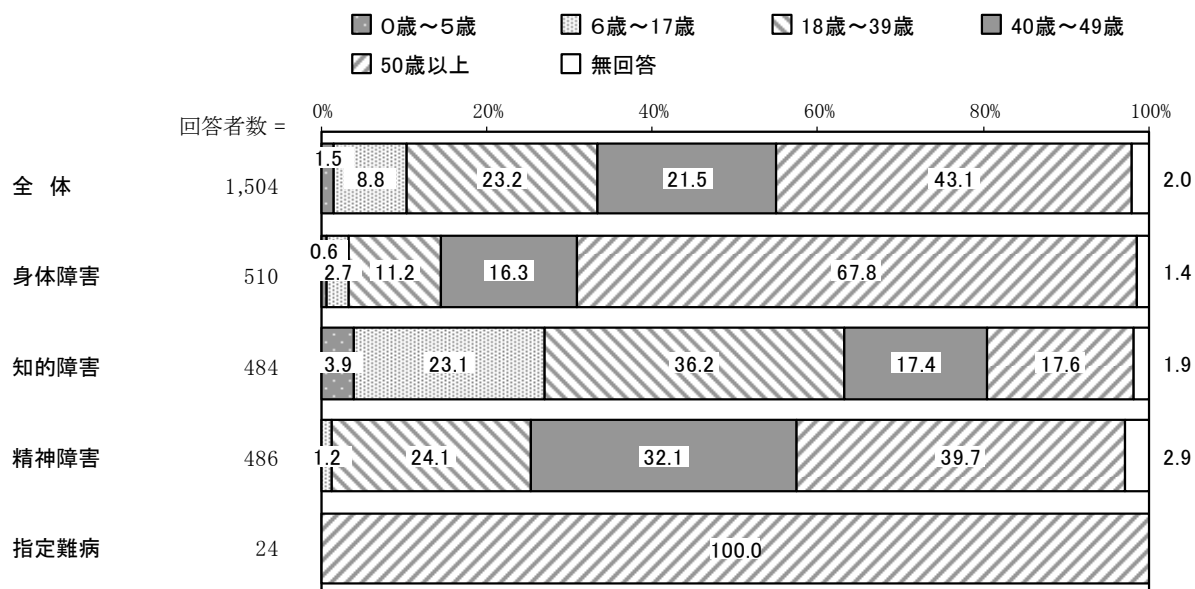
障害別でみると、他に比べ、身体障害、精神障害で「本人（代筆を含む）」の割合が高く、8割を超えています。また、知的障害で「本人の家族」の割合が高く、約6割となっています。



(3) 年齢

全体では、「50 歳以上」の割合が 43.1%と最も高く、次いで「18 歳～39 歳」の割合が 23.2%、「40 歳～49 歳」の割合が 21.5%となっています。

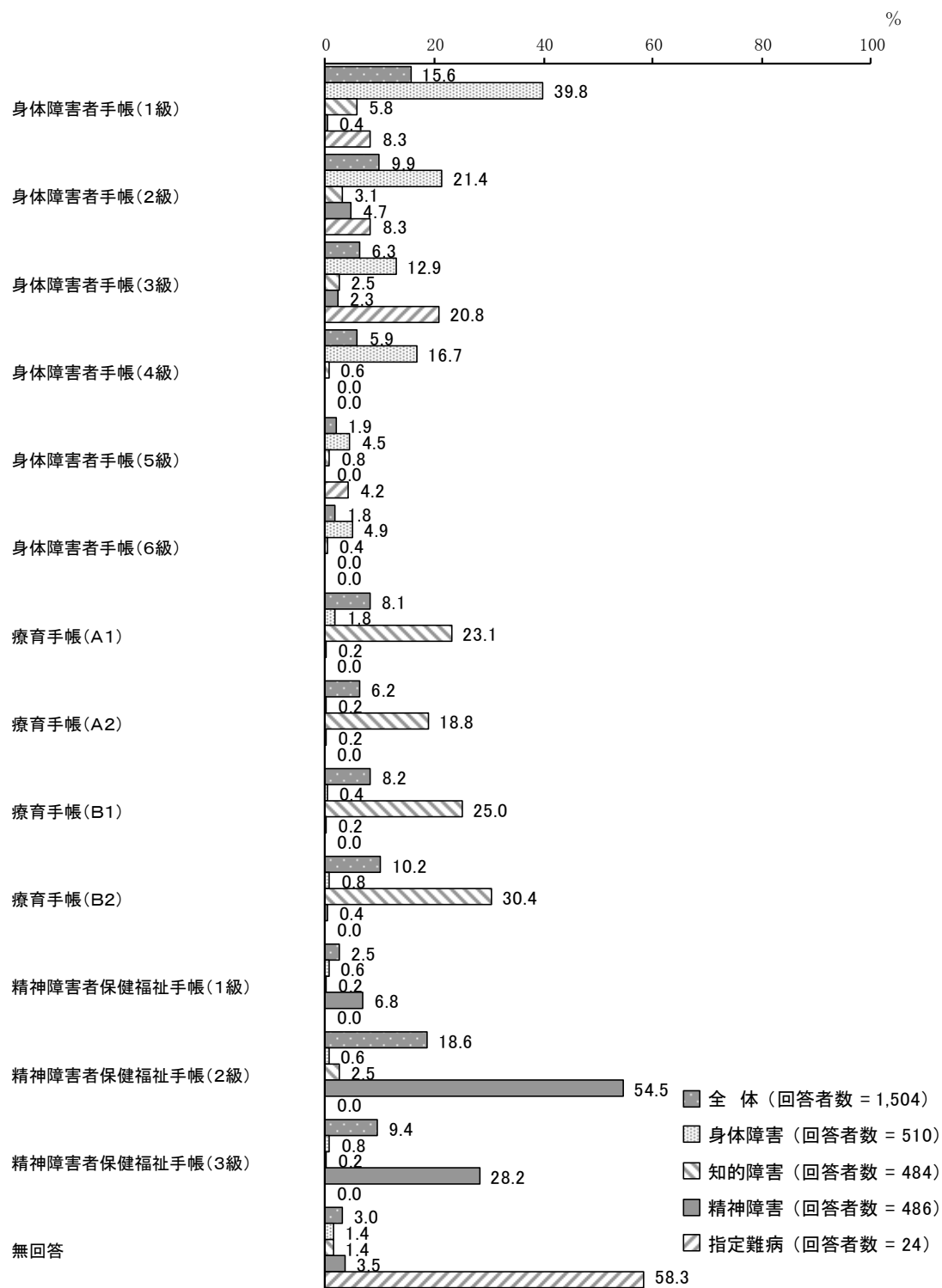
障害別でみると、他に比べ、身体障害で「50 歳以上」の割合が高く、約 7 割となっています。また、知的障害で「6 歳～17 歳」「18 歳～39 歳」の割合が高くなっています。



(4) 障害者手帳の手帳種別と障害程度

全体では、「精神障害者保健福祉手帳（２級）」の割合が 18.6%と最も高く、次いで「身体障害者手帳（１級）」の割合が 15.6%、「療育手帳（Ｂ２）」の割合が 10.2%となっています。

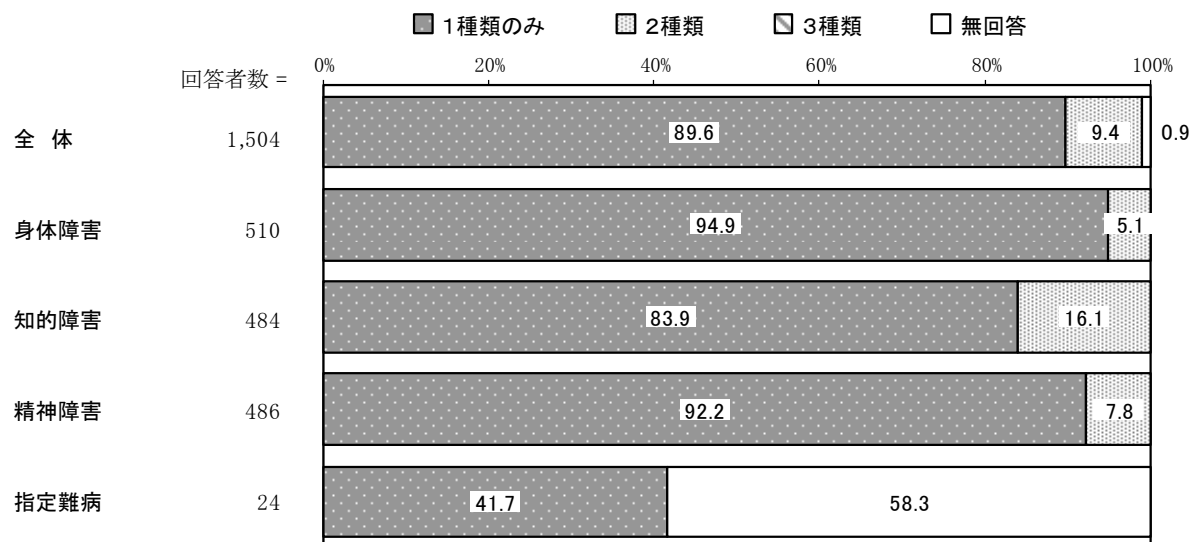
障害別でみると、他に比べ、身体障害で「身体障害者手帳（１級）」の割合が高く、約４割となっています。また、知的障害で「療育手帳（Ｂ２）」の割合が高く、約３割となっているほか、精神障害で「精神障害者保健福祉手帳（２級）」の割合が高く、５割台半ばとなっています。



<障害者手帳複数所持者>

障害者手帳を複数所持している人については、全体の9.4%となっています。

障害別でみると、他に比べ、知的障害で16.1%と高くなっています。



<手帳を複数所有している人の内訳>

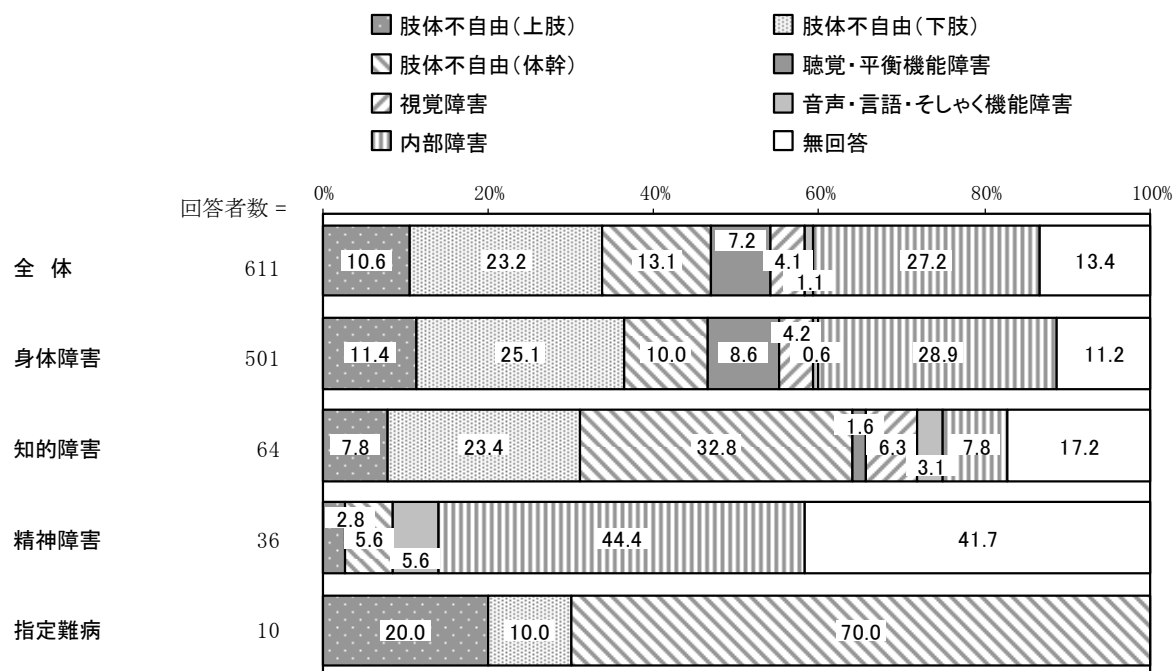
単位：人

区分	有効回答数 (件)	身体障害者手帳 (1級)	身体障害者手帳 (2級)	身体障害者手帳 (3級)	身体障害者手帳 (4級)	身体障害者手帳 (5級)	身体障害者手帳 (6級)	療育手帳 (A1)	療育手帳 (A2)	療育手帳 (B1)	療育手帳 (B2)	精神障害者保健福祉手帳 (1級)	精神障害者保健福祉手帳 (2級)	精神障害者保健福祉手帳 (3級)
全 体	142	43	43	26	5	4	3	57	9	11	15	4	17	7
身体障害者手帳(1級)	43	-	-	-	-	-	-	34	3	1	-	1	-	1
身体障害者手帳(2級)	43	-	-	-	-	-	-	9	1	1	2	2	1	1
身体障害者手帳(3級)	26	-	-	-	-	-	-	7	3	2	1	-	1	1
身体障害者手帳(4級)	5	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	-	1	-
身体障害者手帳(5級)	4	-	-	-	-	-	-	3	-	-	1	-	-	-
身体障害者手帳(6級)	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1
療育手帳(A1)	57	34	9	7	1	3	-	-	1	1	1	-	2	1
療育手帳(A2)	9	3	1	3	1	-	-	1	-	1	1	-	-	1
療育手帳(B1)	11	1	1	2	1	-	1	1	1	-	1	-	3	1
療育手帳(B2)	15	-	2	1	1	1	1	1	1	1	-	-	7	3
精神障害者保健福祉手帳(1級)	4	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
精神障害者保健福祉手帳(2級)	17	-	1	1	1	-	-	2	-	3	7	-	-	1
精神障害者保健福祉手帳(3級)	7	1	1	1	-	-	1	1	1	1	3	-	1	-

（５）身体障害の主な障害部位

全体では、「内部障害」の割合が 27.2%と最も高く、次いで「肢体不自由（下肢）」の割合が 23.2%、「肢体不自由（体幹）」の割合が 13.1%となっています。

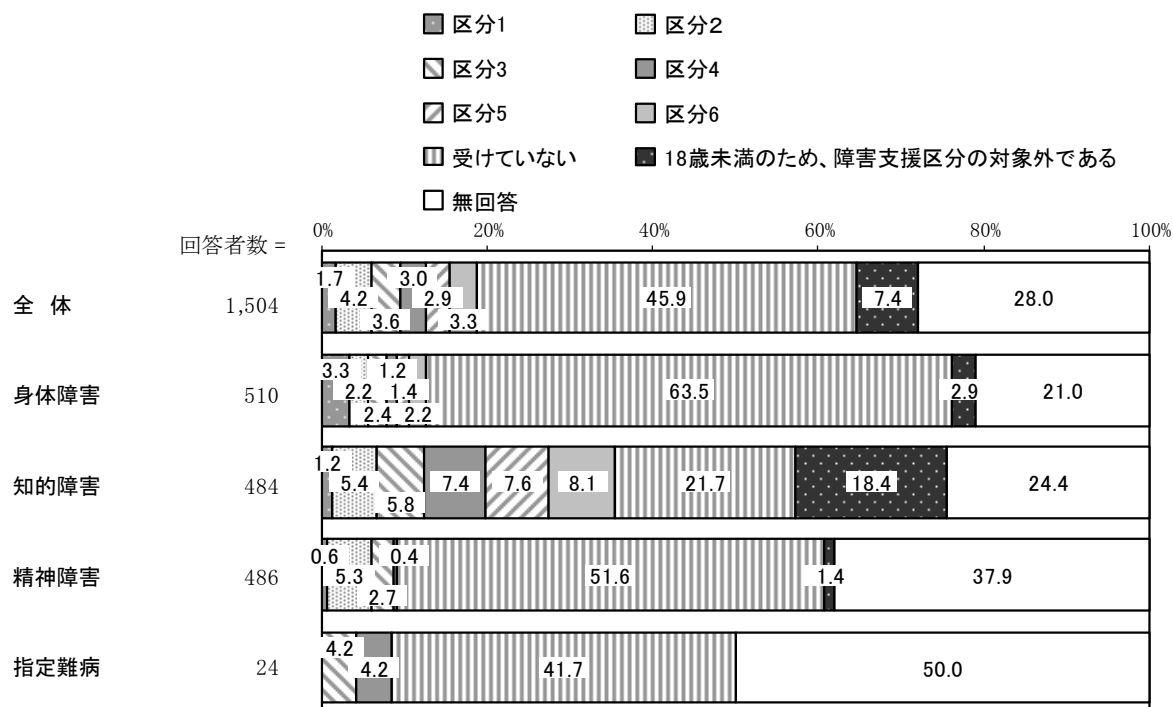
障害別でみると、他に比べ、精神障害で「内部障害」の割合が高く、４割台半ばとなっています。また、知的障害で「肢体不自由（体幹）」の割合が高く、約３割となっています。



（６）障害支援区分の認定

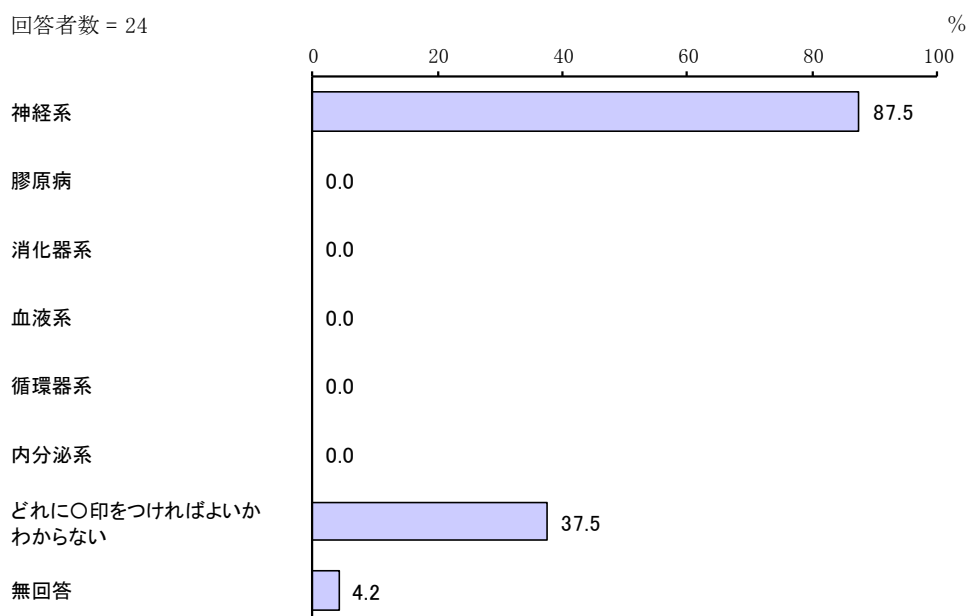
全体では、「受けていない」の割合が 45.9%と最も高くなっています。

障害別でみると、他に比べ、身体障害で「受けていない」の割合が高く、約 6 割となっています。



（７）指定難病の種類

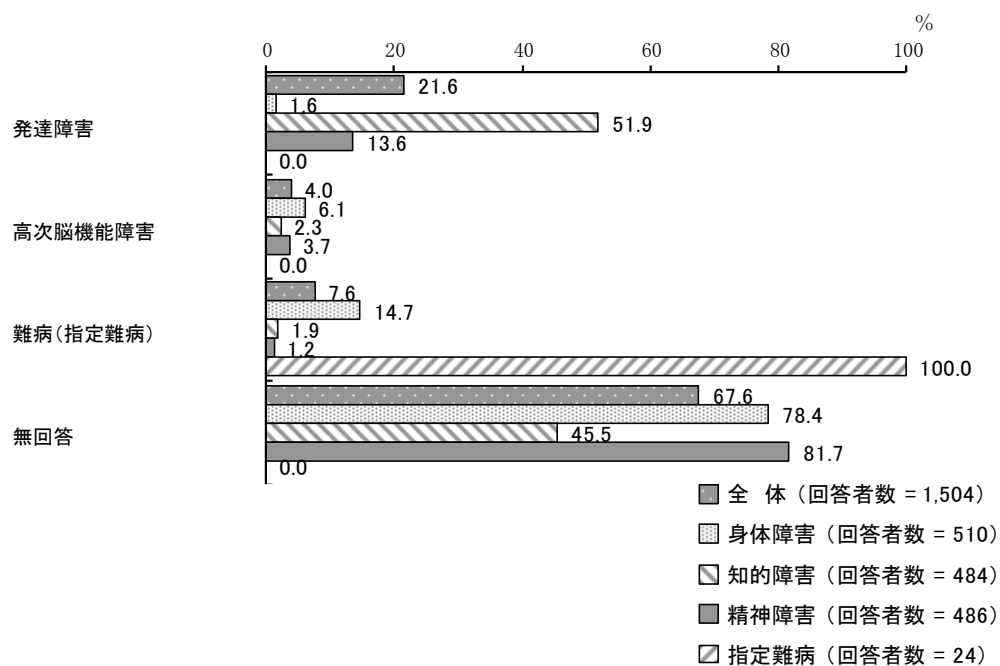
指定難病では、「神経系」の割合が 87.5%と最も高く、次いで「どれに○印をつければよいかわからない」の割合が 37.5%となっています。



(8) 発達障害、高次脳機能障害、指定難病について

全体では、「発達障害」の割合が21.6%と最も高くなっています。

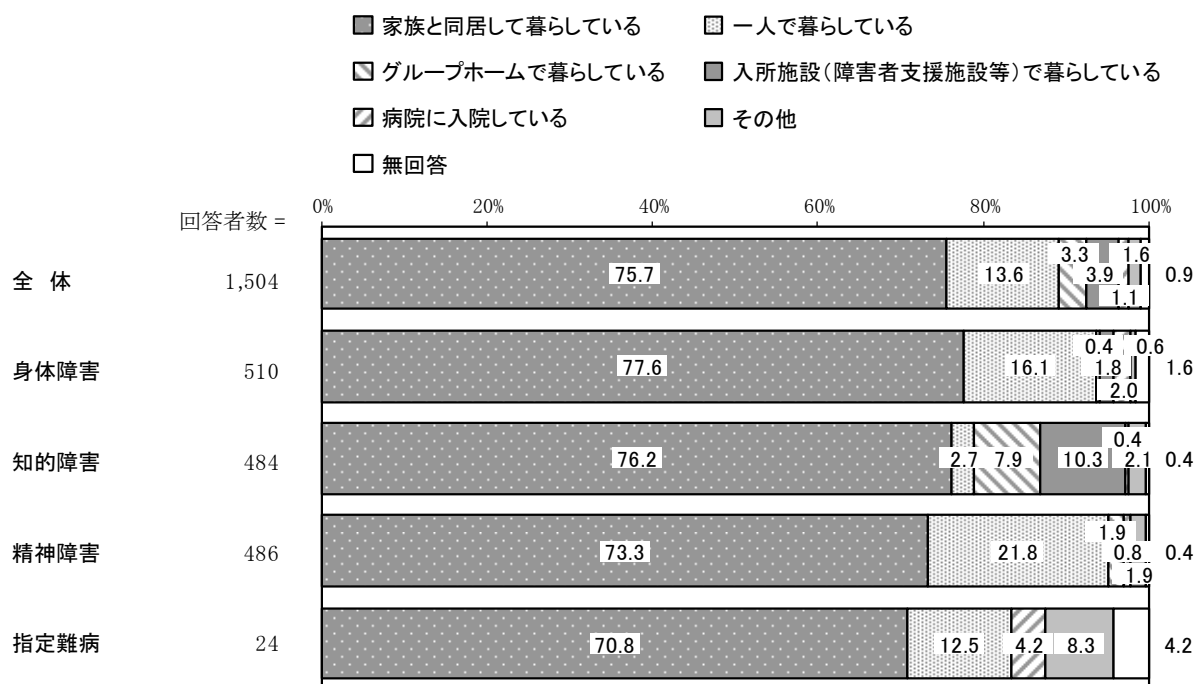
障害別でみると、他に比べ、知的障害で「発達障害」の割合が高く、約5割となっています。



（９）現在の暮らしの状況

全体では、「家族と同居して暮らしている」の割合が 75.7%と最も高く、次いで「一人で暮らしている」の割合が 13.6%となっています。

障害別でみると、他に比べ、精神障害で「一人で暮らしている」の割合が高く、約 2 割となっています。また、知的障害で「入所施設（障害者支援施設等）で暮らしている」の割合が高く、約 1 割となっています。



【年齢別】

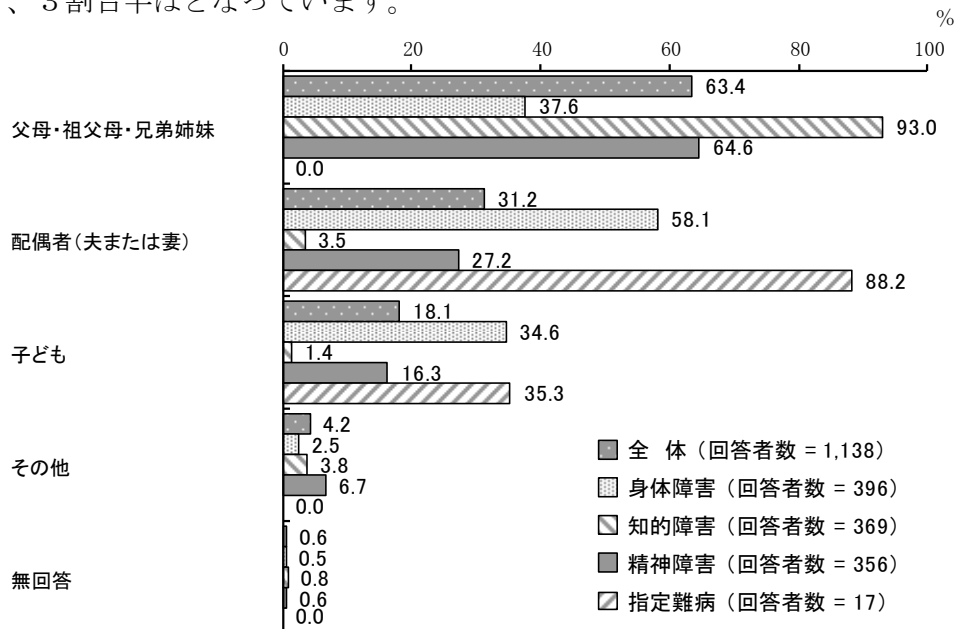
年齢別でみると、年齢が下がるにつれ「家族と同居して暮らしている」の割合が高く、年齢が上がるにつれ「一人で暮らしている」の割合が高くなっています。



(10)「家族と同居して暮らしている」人が一緒に暮らしている人

全体では、「父母・祖父母・兄弟姉妹」の割合が 63.4%と最も高く、次いで「配偶者（夫または妻）」の割合が 31.2%、「子ども」の割合が 18.1%となっています。

障害別でみると、知的障害で「父母・祖父母・兄弟姉妹」の割合が、指定難病で「配偶者（夫または妻）」の割合が高く、約 9 割となっています。また、身体障害、指定難病で「子ども」の割合が高く、3 割台半ばとなっています。



【年齢別】

年齢別でみると、年齢が下がるにつれ「父母・祖父母・兄弟姉妹」の割合が、年齢が上がるにつれ「配偶者（夫または妻）」「子ども」の割合が高くなっています。

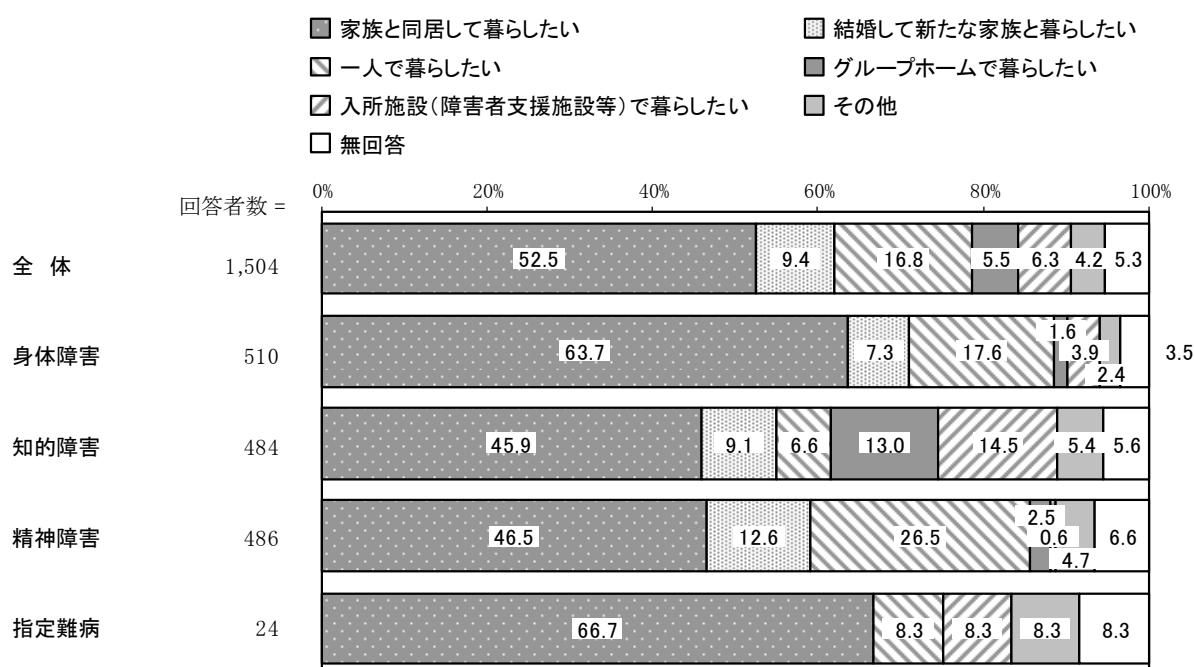
単位：％

区分	回答者数 (件)	父母・祖父母・ 兄弟姉妹	配偶者 (夫または妻)	子ども	その他	無回答
0歳～5歳	22	100.0	—	—	9.1	—
6歳～17歳	127	97.6	0.8	0.8	1.6	—
18歳～39歳	291	84.5	13.1	7.2	4.5	0.3
40歳～49歳	248	62.5	29.0	21.4	5.6	1.2
50歳以上	435	37.7	55.4	29.9	3.7	0.5

(11) 今後の暮らしの希望

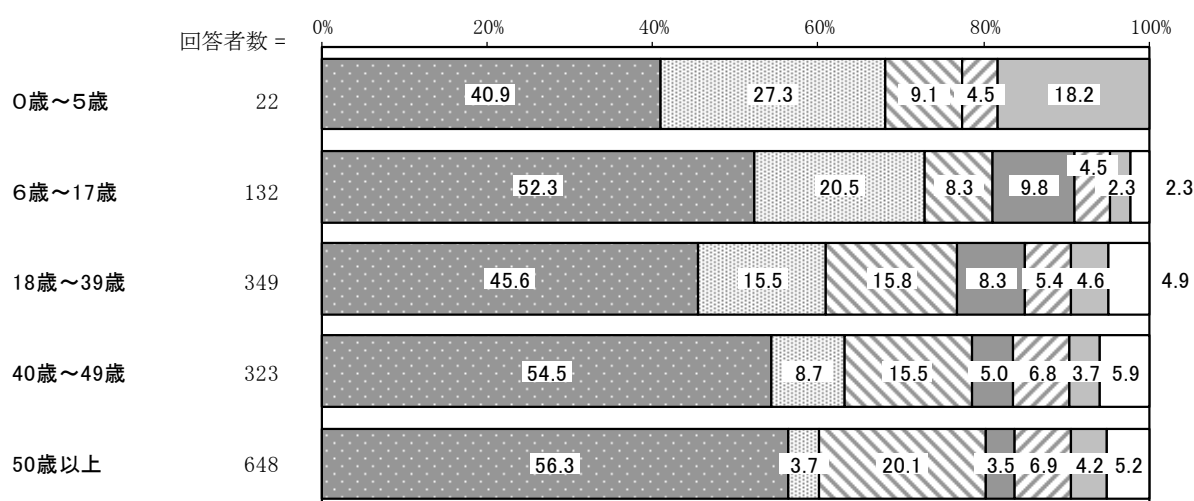
全体では、「家族と同居して暮らしたい」の割合が 52.5%と最も高く、次いで「一人で暮らしたい」の割合が 16.8%となっています。

障害別でみると、他に比べ、身体障害、指定難病で「家族と同居して暮らしたい」の割合が高く、6割台半ばとなっています。また、精神障害で「一人で暮らしたい」の割合が、知的障害で「グループホームで暮らしたい」「入所施設（障害者支援施設等）で暮らしたい」の割合が高くなっています。



【年齢別】

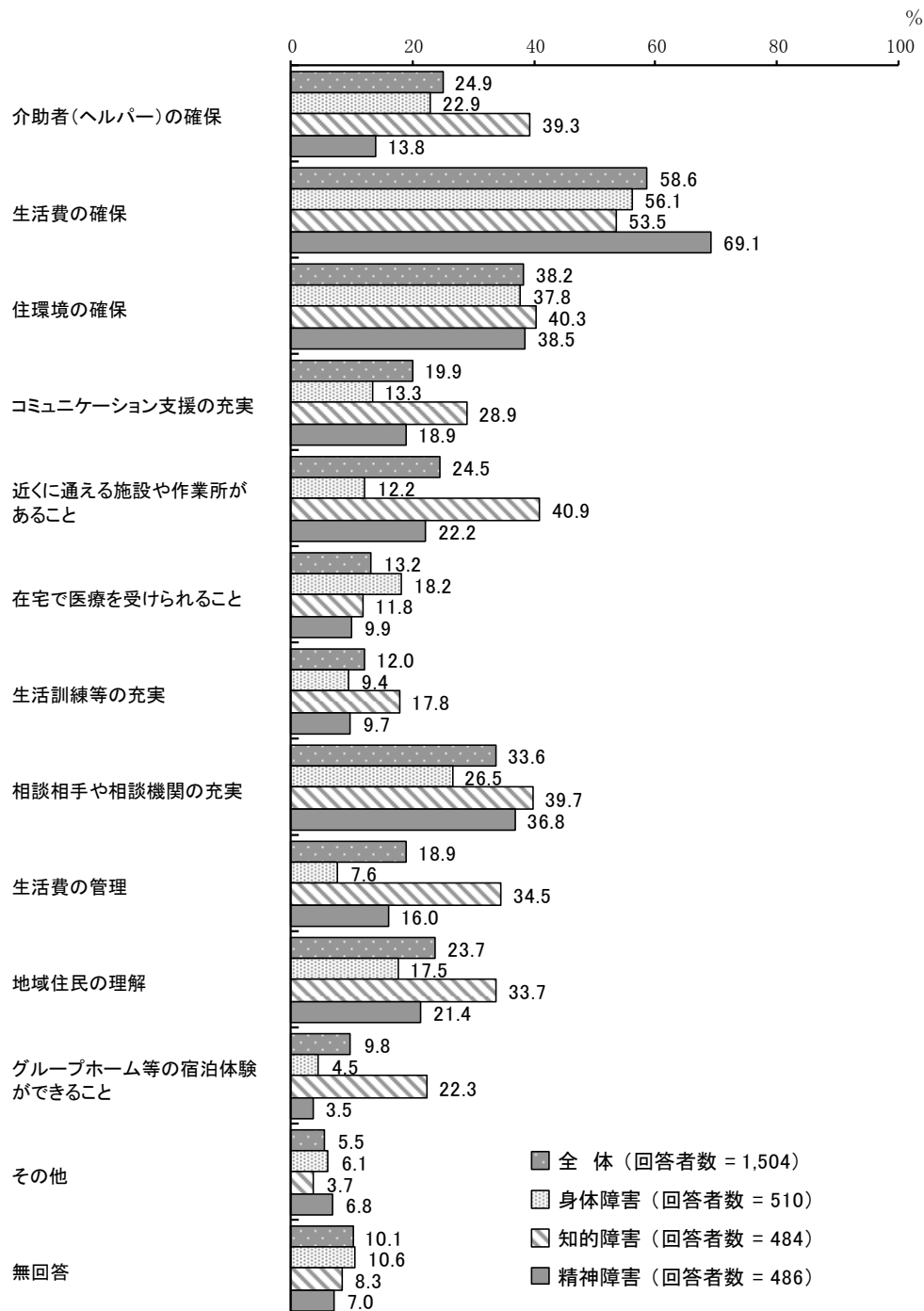
年齢別でみると、年齢が下がるにつれ「結婚して新たな家族と暮らしたい」の割合が、年齢が上がるにつれ「一人で暮らしたい」の割合が高くなる傾向がみられます。



(12) 地域で暮らす条件としての希望

身体障害・知的障害・精神障害では、「生活費の確保」の割合が58.6%と最も高く、次いで「住環境の確保」の割合が38.2%、「相談相手や相談機関の充実」の割合が33.6%となっています。

障害別でみると、他に比べ、精神障害で「生活費の確保」の割合が高く、約7割となっています。また、知的障害で「介助者（ヘルパー）の確保」「コミュニケーション支援の充実」「近くに通える施設や作業所があること」「生活訓練等の充実」「生活費の管理」「地域住民の理解」「グループホーム等の宿泊体験ができること」の割合が高くなっています。

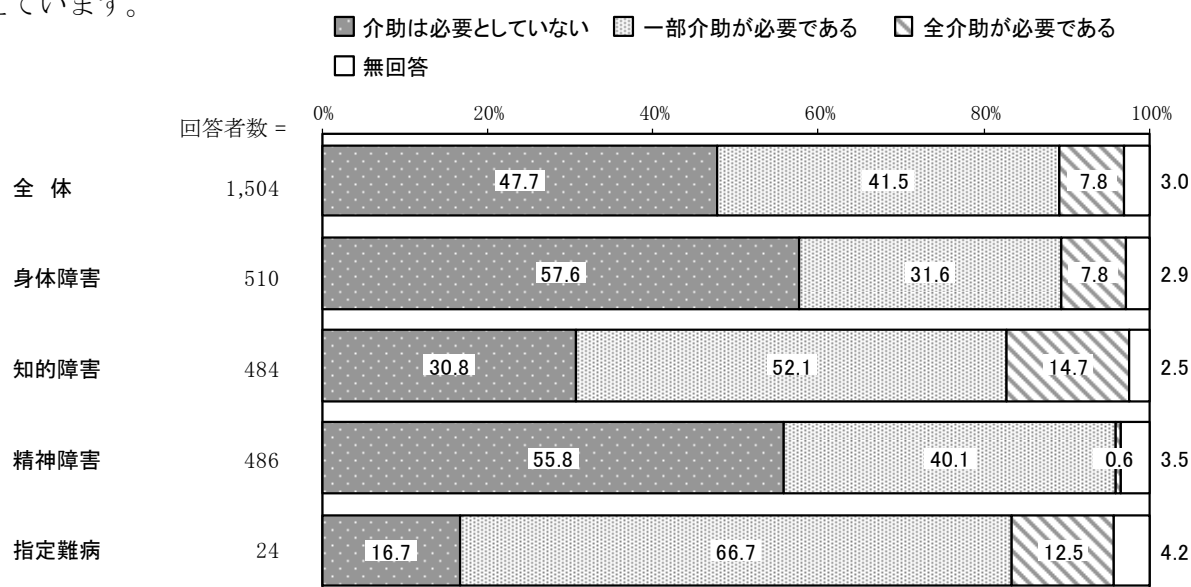


「その他」の地域で暮らす条件としての希望	件数
仕事の継続、自立	6
自分に合った就労場所	5
医療機関の充実	5
精神的にも落ちつけられる居住環境	4
ショートステイ	2
外出の補助	2
災害時の対応の充実	2
安全な道路環境	2
障害者が働きやすい社会	2
病気への理解ある職場	1
医療費負担の軽減	1
家族が付き添うリハビリ	1
各種手続きの簡素化	1
給料の底上げ	1
交通機関利用への企業理解、協力	1
障害者団体との関わり	1
支援級が整っている学校	1
家賃補助	1
生活全般に係るヘルパー	1
短期入院のハードルをさげる	1
地域住民の理解	1
リハビリ、支援の充実	1

(13) 日常生活での介助の必要の有無

全体では、「介助は必要としていない」の割合が 47.7%と最も高く、次いで「一部介助が必要である」の割合が 41.5%となっています。

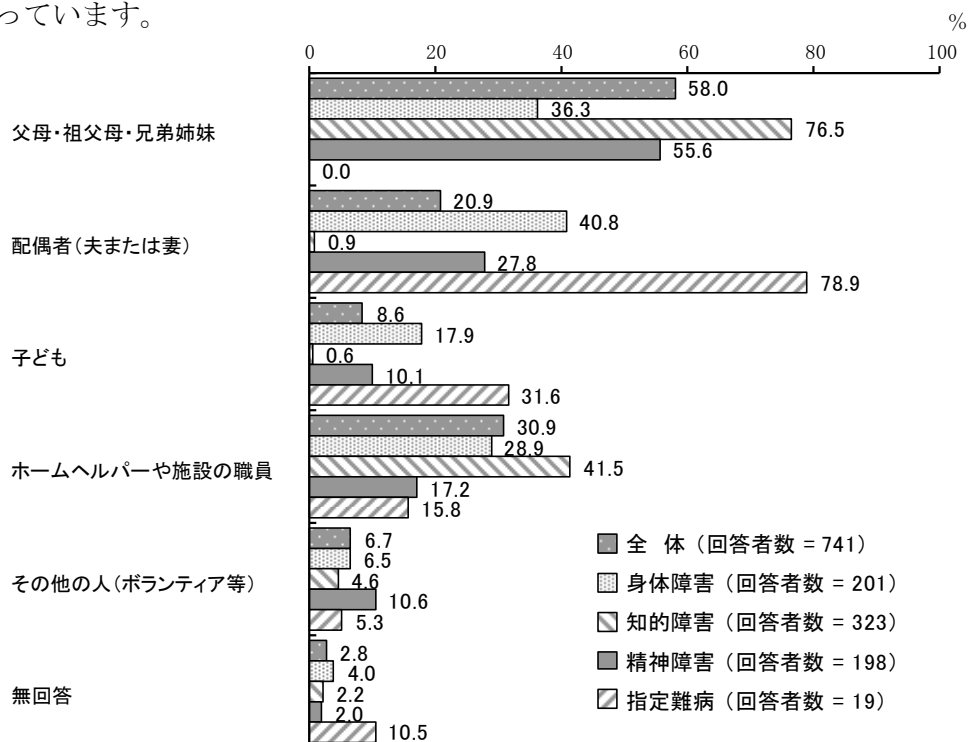
障害別でみると、他に比べ、指定難病で「一部介助が必要である」の割合が高く、6割台半ばとなっています。また、知的障害、指定難病で「全介助が必要である」の割合が高く、1割を超えています。



(14) 介助してくれる人

全体では、「父母・祖父母・兄弟姉妹」の割合が 58.0%と最も高く、次いで「ホームヘルパーや施設の職員」の割合が 30.9%、「配偶者（夫または妻）」の割合が 20.9%となっています。

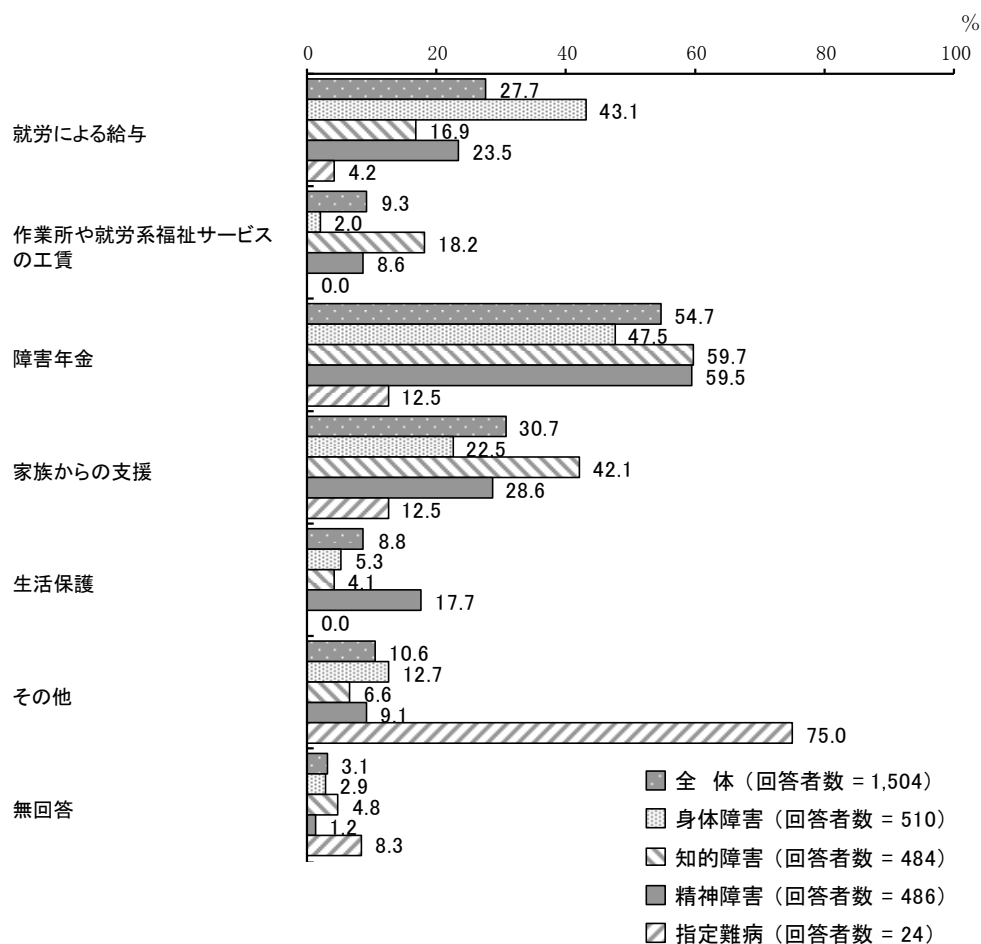
障害別でみると、他に比べ、知的障害で「父母・祖父母・兄弟姉妹」の割合が高く、7割台半ばとなっています。



(15) 収入の状況

全体では、「障害年金」の割合が 54.7%と最も高く、次いで「家族からの支援」の割合が 30.7%、「就労による給与」の割合が 27.7%となっています。

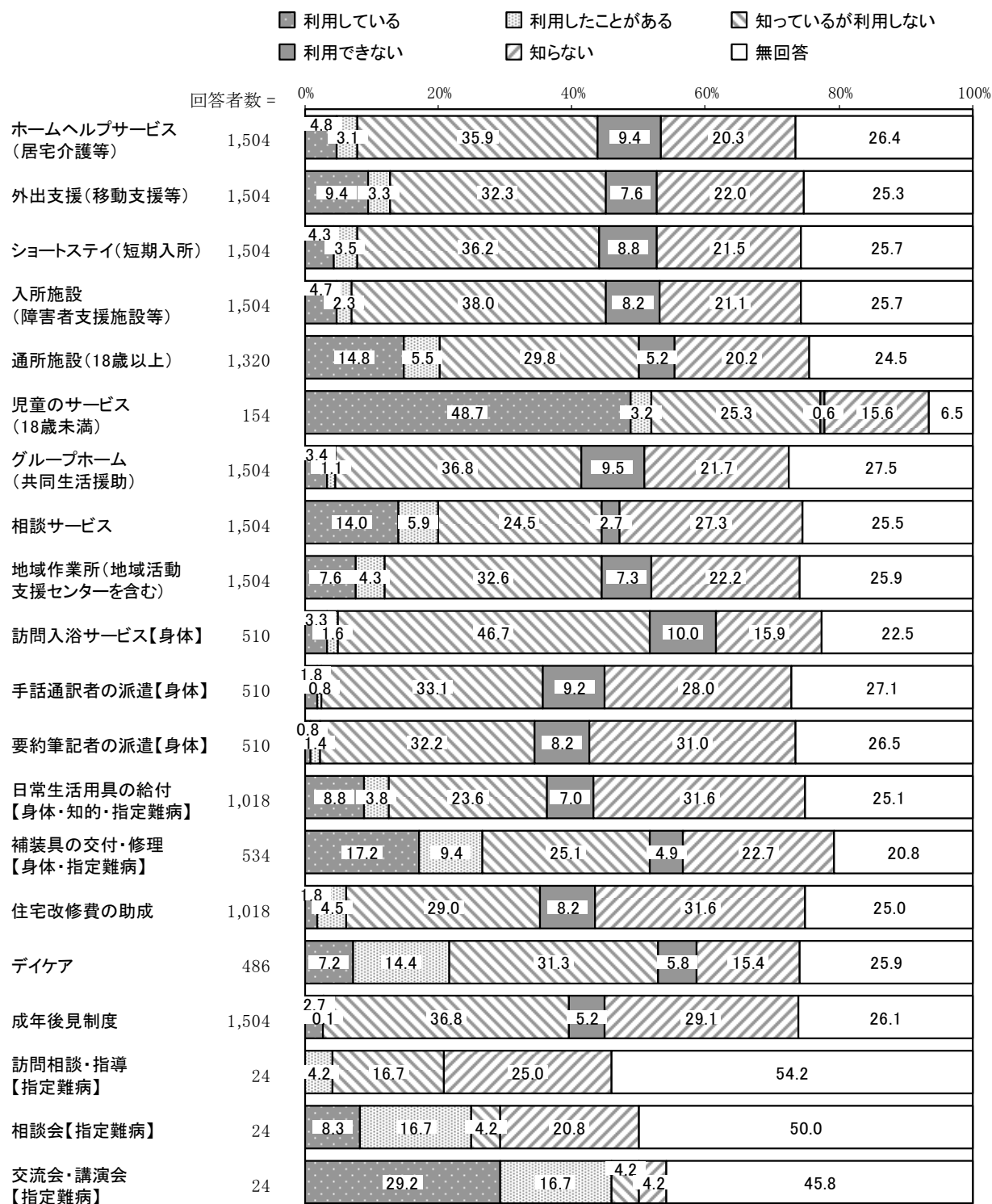
障害別でみると、他に比べ、知的障害、精神障害で「障害年金」の割合が高く、約 6 割となっています。また、身体障害で「就労による給与」の割合が、知的障害で「家族からの支援」の割合が高く、約 4 割となっています。



2 福祉サービス等について

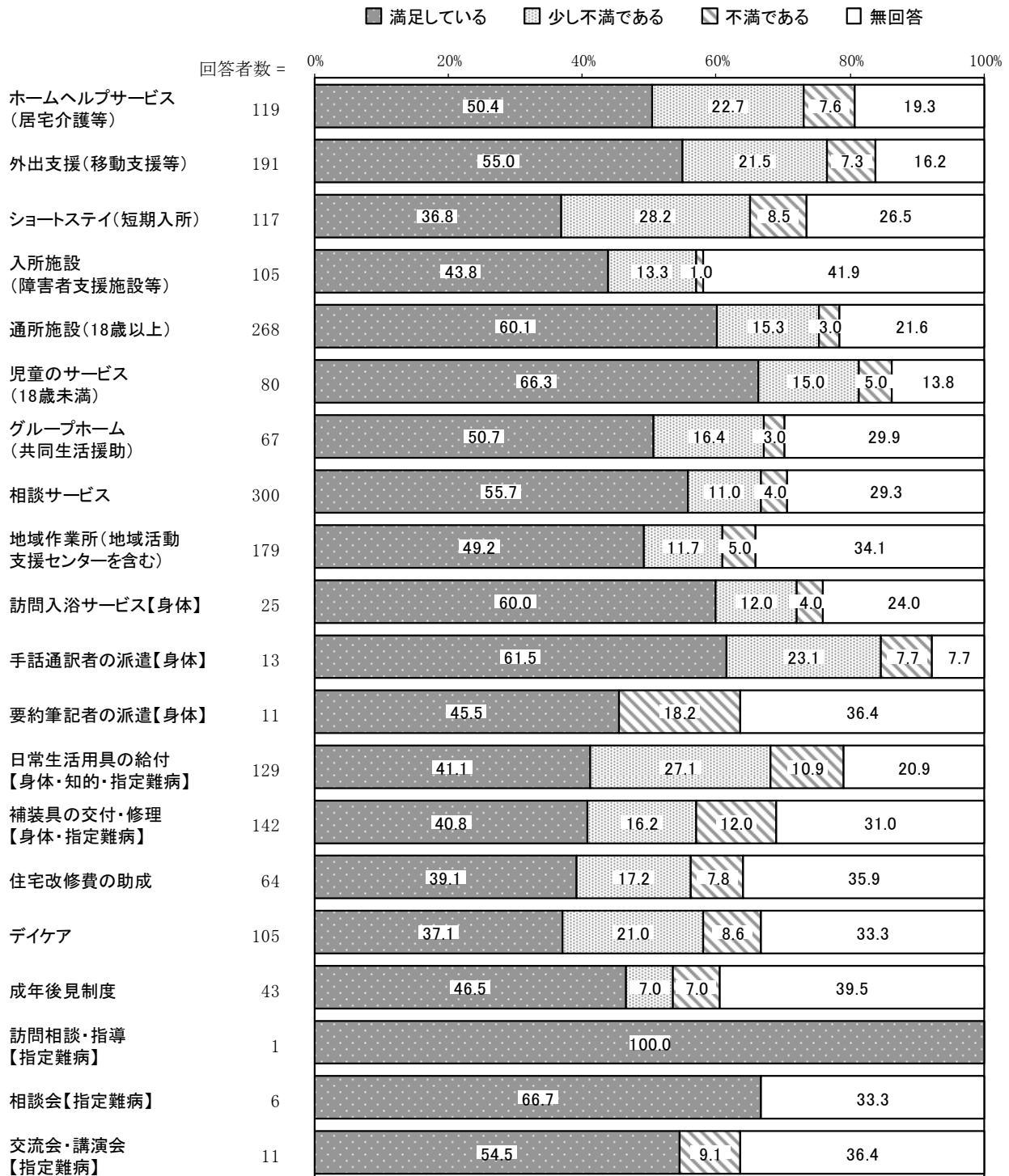
(1) 福祉サービスの利用状況

全体では、『通所施設（18歳以上）』、『児童のサービス（18歳未満）』、『相談サービス』『補装具の交付・修理』『交流会・講演会』で「利用している」の割合が1割を超えており、中でも『児童のサービス（18歳未満）』で約5割となっています。



（２）福祉サービスの満足度（利用経験のある方）

全体では、『通所施設（18歳以上）』『児童のサービス（18歳未満）』『訪問入浴サービス』『手話通訳者の派遣』で「満足している」の割合が高く、6割を超えています。一方、『日常生活用具の給付』で「少し不満である」と「不満である」をあわせた“不満である”の割合が高く、約4割となっています。

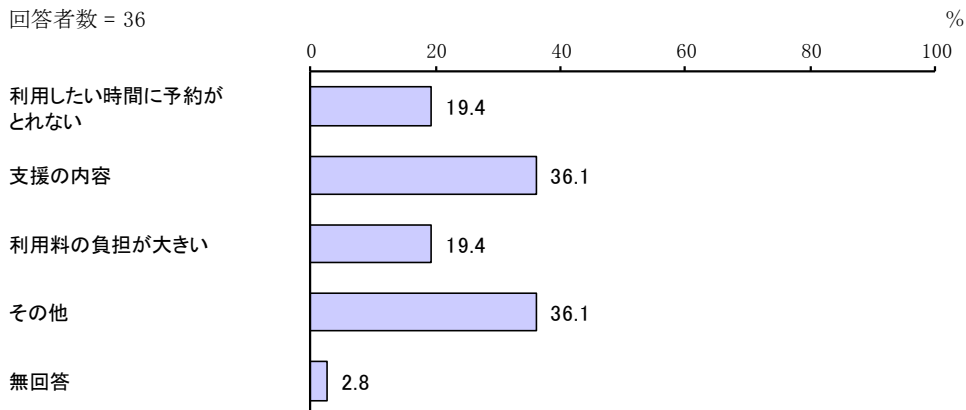


（３）不満である理由（「不満である」または「少し不満である」方）

①ホームヘルプサービス（居宅介護等）

全体では、「支援の内容」の割合が 36.1%と最も高く、次いで「利用したい時間に予約がとれない」、「利用料の負担が大きい」の割合が 19.4%となっています。

回答者数 = 36

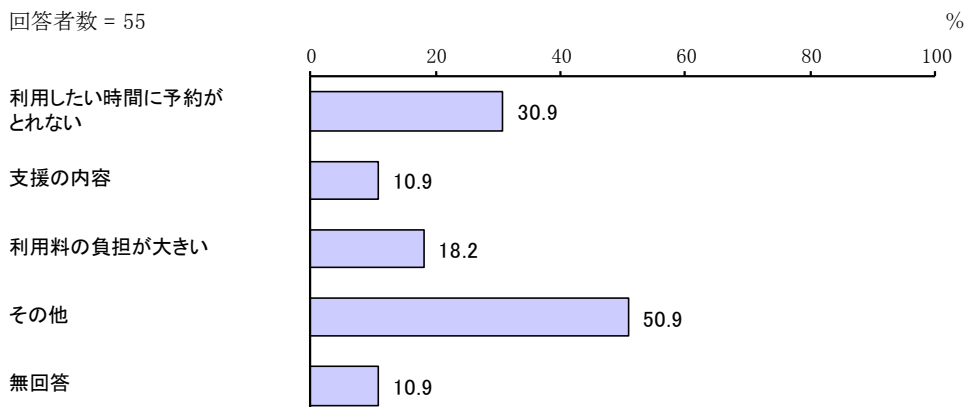


「その他」の不満内容	件数
ヘルパーの質	9
家族で介護している	8
希望する支援と合っていない	7
家族の反対	2
利用料の負担が大きい	1
利用できる事業所が少ない	1

②外出支援（移動支援等）

全体では、「利用したい時間に予約がとれない」の割合が 30.9%と最も高く、次いで「利用料の負担が大きい」の割合が 18.2%、「支援の内容」の割合が 10.9%となっています。

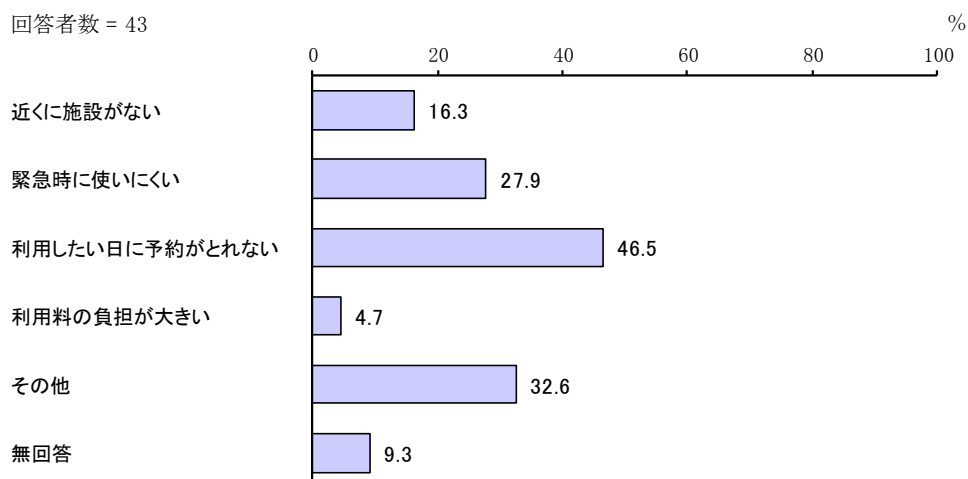
回答者数 = 55



「その他」の不満内容	件数
サービス提供不足	20
利用対象に該当しない	10
ヘルパーの質	5
予約が取れない	3
自由な行動ができない	2
緊急利用が難しい	2
時間が遅い	2
費用が高い	2
窓口がわかりづらい	1
サービス提供範囲がわからず、契約しづらい。	1

③ショートステイ（短期入所）

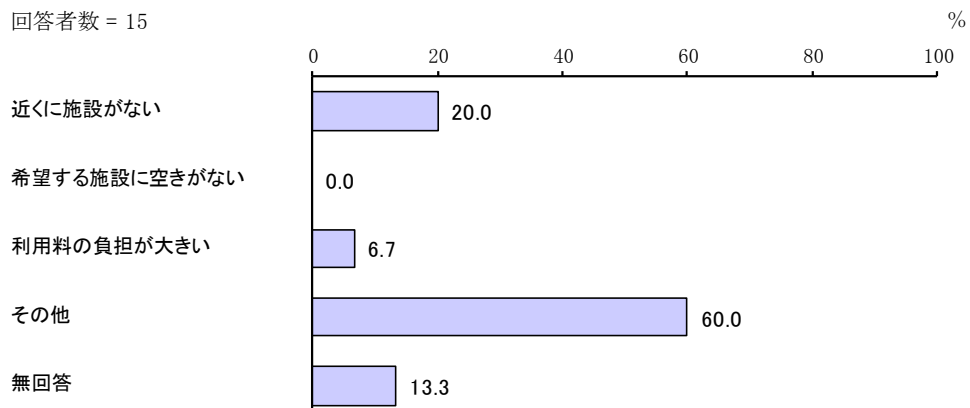
全体では、「利用したい日に予約がとれない」の割合が 46.5%と最も高く、次いで「緊急時に使いにくい」の割合が 27.9%、「近くに施設がない」の割合が 16.3%となっています。



「その他」の不満内容	件数
サービス利用日数が不足	4
施設から利用を断られた	3
本人への扱いがひどい	2
場所が遠い。	1
緊急時に依頼できない	1
時間が限られている。	1
医療行為ができない	1
新しい場所を探しているが見つからない	1
登録するまで時間がかかる	1
食事が冷めている。	1
予約がとれない	1
個室に 1 人での時間が長い。	1
何もすることがなく脳の機能が落ちる	1

④入所施設（障害者支援施設等）

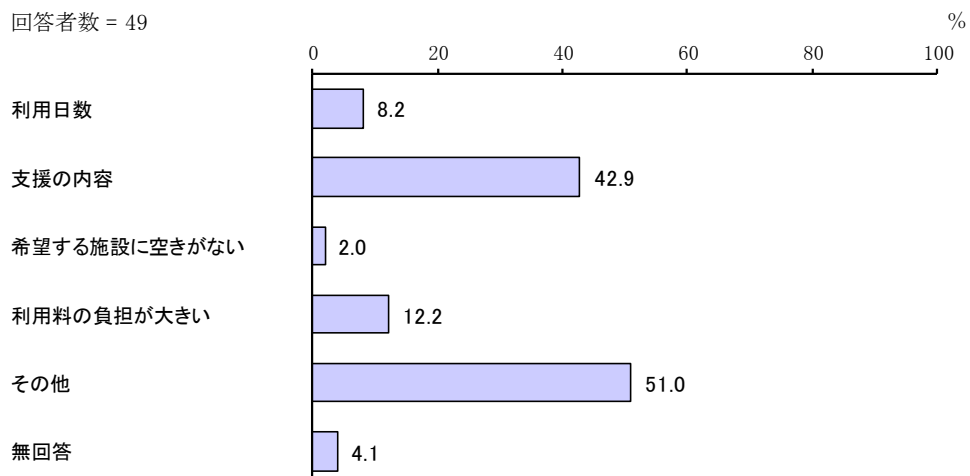
全体では、「近くに施設がない」の割合が 20.0%と最も高くなっています。



「その他」の不満内容	件数
行動の制限	2
利用を断られた	2
リハビリ時間が少ない	1
他の利用者の行動で落ちつかない	1
空きがない	1
職員の態度が悪い	1
地域生活移行の支援計画がたてきれていない。	1
若い世代の人が入りづらい	1
困ったことなどを伝達できない	1

⑤通所施設（18 歳以上）

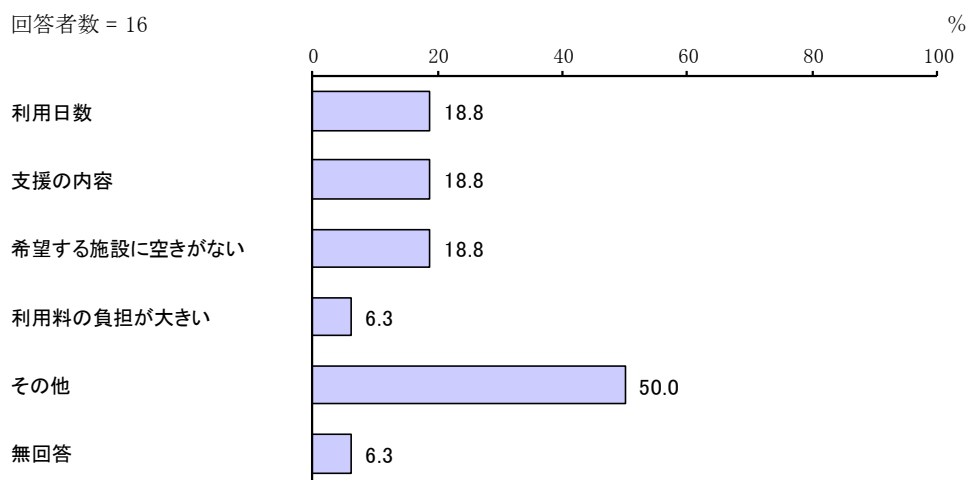
全体では、「支援の内容」の割合が 42.9%と最も高く、次いで「利用料の負担が大きい」の割合が 12.2%となっています。



「その他」の不満内容	件数
スタッフの経験不足および知識不足	3
工賃が少ない	3
他の利用者が気になり作業ができない	2
スタッフの人員不足	2
スタッフの対応が悪い	2
利用者同士の人間関係	2
集団行動が疲れる	1
作業内容に変化がない	1
時間が短い	1
体力を使う事が少ない	1
夕飯が出ない	1
就労自立支援などのサポート不足	1
新型コロナウイルス感染症の影響による休みの増加	1
高齢者が多く、若い人が通にくい	1
送迎がない	1

⑥児童のサービス（18歳未満）

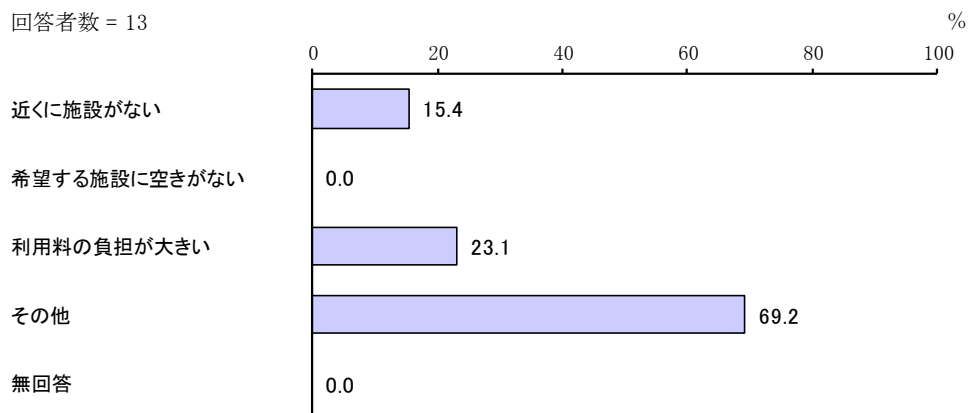
全体では、「利用日数」、「支援の内容」、「希望する施設に空きがない」の割合が 18.8%と最も高くなっています。



「その他」の不満内容	件数
送迎の負担が大きい	5
施設・サービス提供料が少ない	5
障害特性により断られる	2
スタッフの質	2
コミュニケーションの場がない	1
内容がわかりにくい	1
指導員の専門知識の不足	1
先生が頻繁に変わる	1
中学生以上はサービスが減る	1

⑦グループホーム（共同生活援助）

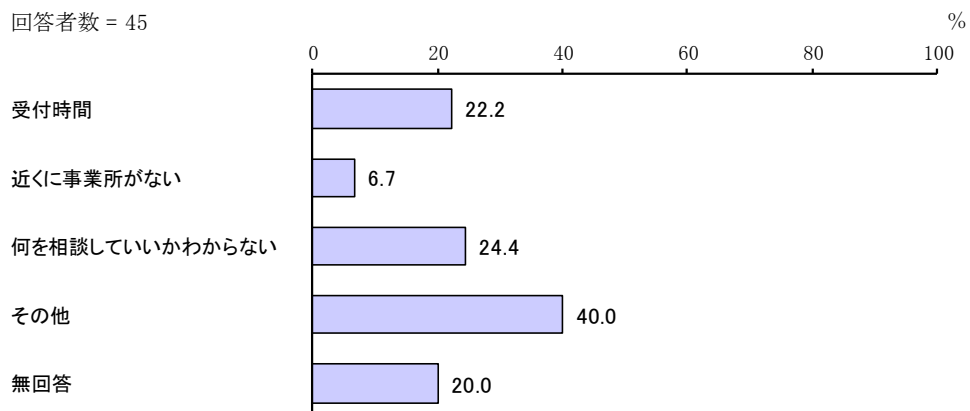
全体では、「利用料の負担が大きい」の割合が 23.1%と最も高く、次いで「近くに施設がない」の割合が 15.4%となっています。



「その他」の不満内容	件数
同居利用者とのトラブル	8
週末・日中支援がない	1
支援員の質	1
施設の不足	1
相談窓口の知識不足	1
時間の余裕のなさ	1

⑧相談サービス

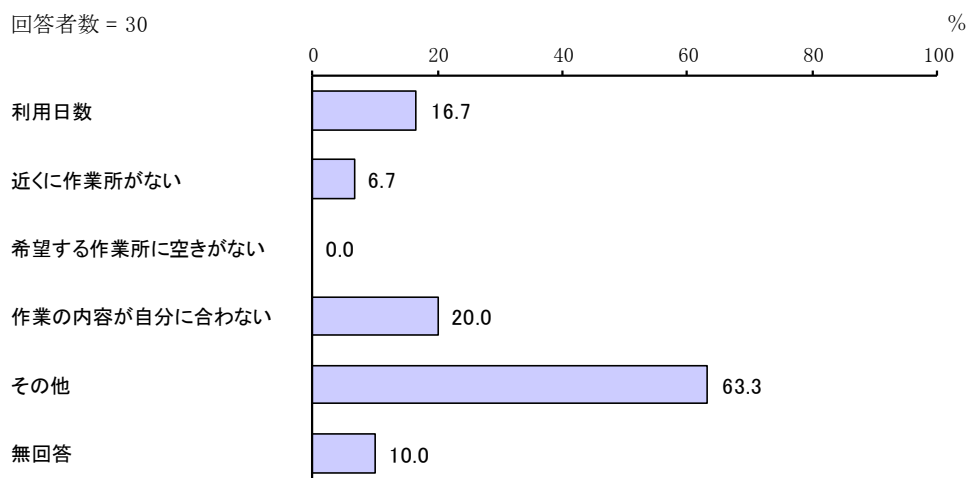
全体では、「何を相談していいかわからない」の割合が24.4%と最も高く、次いで「受付時間」の割合が22.2%となっています。



「その他」の不満内容	件数
相談しづらい	8
相談しても解決できない	6
連絡がとれない、連絡が来ない	5
担当者の質	5
障害への理解が薄い	4
担当者の変更	3
受付時間、曜日	2
窓口がわからない	1
近くに相談場所がない	1
サービス提供事業者の閉業	1

⑨地域作業所（地域活動支援センターを含む）

全体では、「作業の内容が自分に合わない」の割合が20.0%と最も高く、次いで「利用日数」の割合が16.7%となっています。



「その他」の不満内容	件数
工賃の安さ	8
職員の対応、暴言、暴力	5
利用者同士のトラブル、人間関係	5
作業所の運営方針、雰囲気	2
定員の多さ	1
職員の人数不足	1
送迎の負担	1
利用日数	1

⑩訪問入浴サービス【身体】

身体障害では、「サービス提供の時間帯」が3件、「利用回数」が2件、「対象となる人の範囲」が1件となっています。

「その他」の不満内容	件数
利用回数が少ない	2
利用料金が高い	2
サービス中に吸引できる人が必要	1

⑪手話通訳者の派遣【身体】

身体障害では、「趣味や余暇に使えない」が2件となっています。

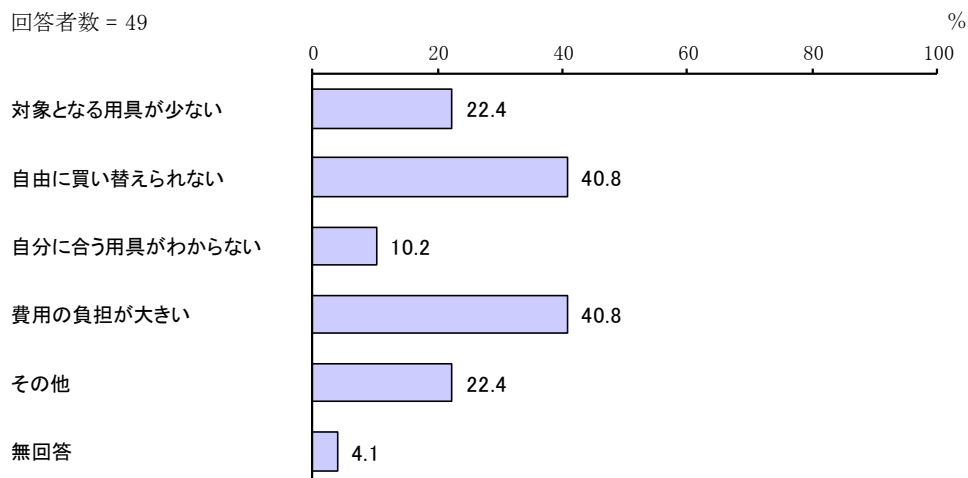
「その他」の不満内容	件数
利用が認められない	3
プライバシーの確保	1
周囲の理解が得られない	1
謝礼金	1

⑫要約筆記者の派遣【身体】

「その他」の不満内容	件数
利用が認められない	3
パソコン通訳ができない	1
音としてしか聞きとれない	1

⑬日常生活用具の給付【身体・知的・指定難病】

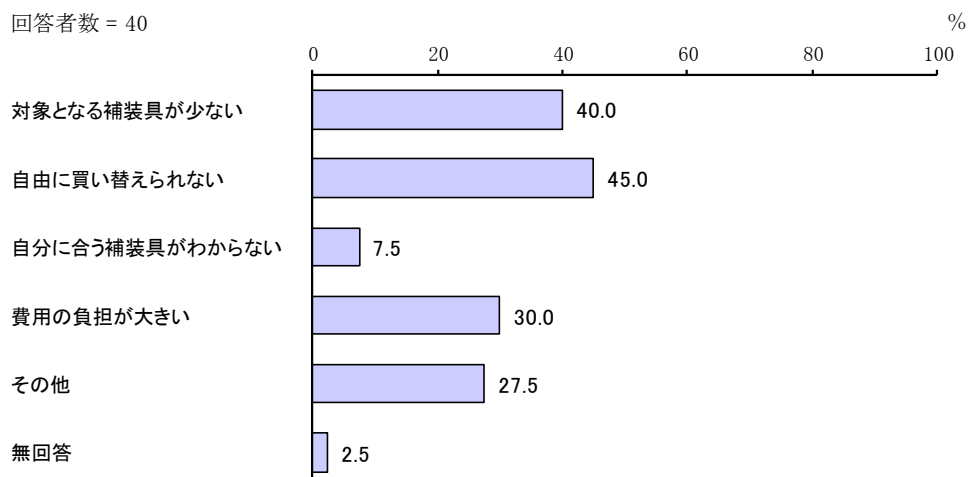
身体障害、知的障害、指定難病では、「自由に買い替えられない」、「費用の負担が大きい」の割合が40.8%と最も高く、次いで「対象となる用具が少ない」の割合が22.4%となっています。



「その他」の不満内容	件数
申請から判定に時間がかかる	4
手続きが煩雑	3
利用条件が厳しい	2
自治体により給付額が異なる	2
購入してからの給付が認められない	2
再交付の期間が長い	1
給付額が少ない	1
対象品目が少ない	1
耐用年数が短い	1

⑭補装具の交付・修理【身体・指定難病】

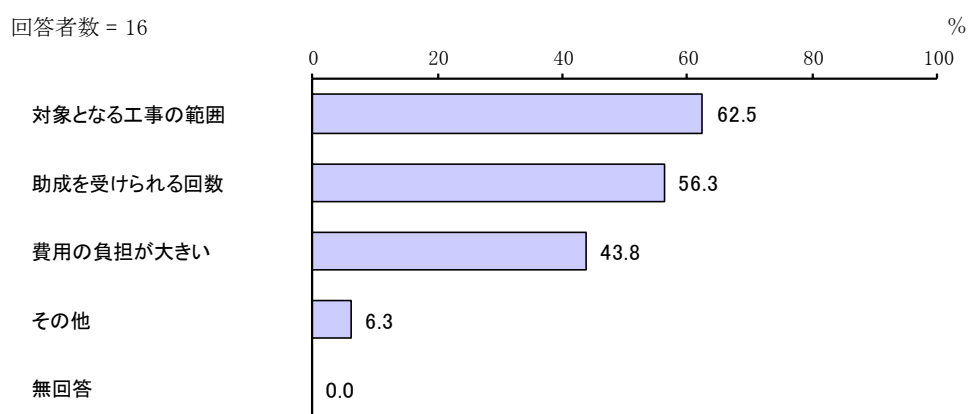
身体障害、指定難病では、「自由に買い替えられない」の割合が45.0%と最も高く、次いで「対象となる補装具が少ない」の割合が40.0%、「費用の負担が大きい」の割合が30.0%となっています。



「その他」の不満内容	件数
手続きが煩雑	6
交付・修理に時間がかかる	6
サービス提供内容が不十分	6
条件が厳しい	4
装具の痛み	1
自分に合わない	1

⑮住宅改修費の助成

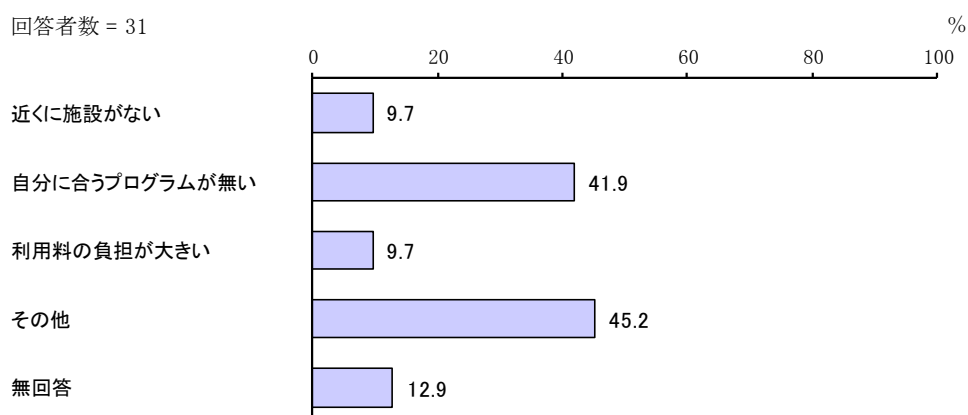
身体障害、知的障害、指定難病では、「対象となる工事の範囲」の割合が 62.5%と最も高く、次いで「助成を受けられる回数」の割合が 56.3%、「費用の負担が大きい」の割合が 43.8%となっています。



「その他」の不満内容	件数
助成が少ない	3
新築が対象外	2
手続きが煩雑	1
介助者が対象にならない	1

⑯デイケア【精神障害】

精神障害では、「自分に合うプログラムが無い」の割合が 41.9%と最も高くなっています。



「その他」の不満内容	件数
利用者同士の人間関係、トラブル	6
スタッフの質	3
やりがいがない	2
利用者が多い	2
自分に合わない	2
夕食の提供がない	1
家族の理解がない	1
カウンセリングの不備	1
スタッフの人員不足	1

⑰成年後見制度

全体では、「その他」が3件、「支援の内容」、「費用が高い」が1件となっています。

⑱訪問相談・始動【指定難病】

指定難病では、有効回答がありませんでした。

⑲相談会【指定難病】

指定難病では、有効回答がありませんでした。

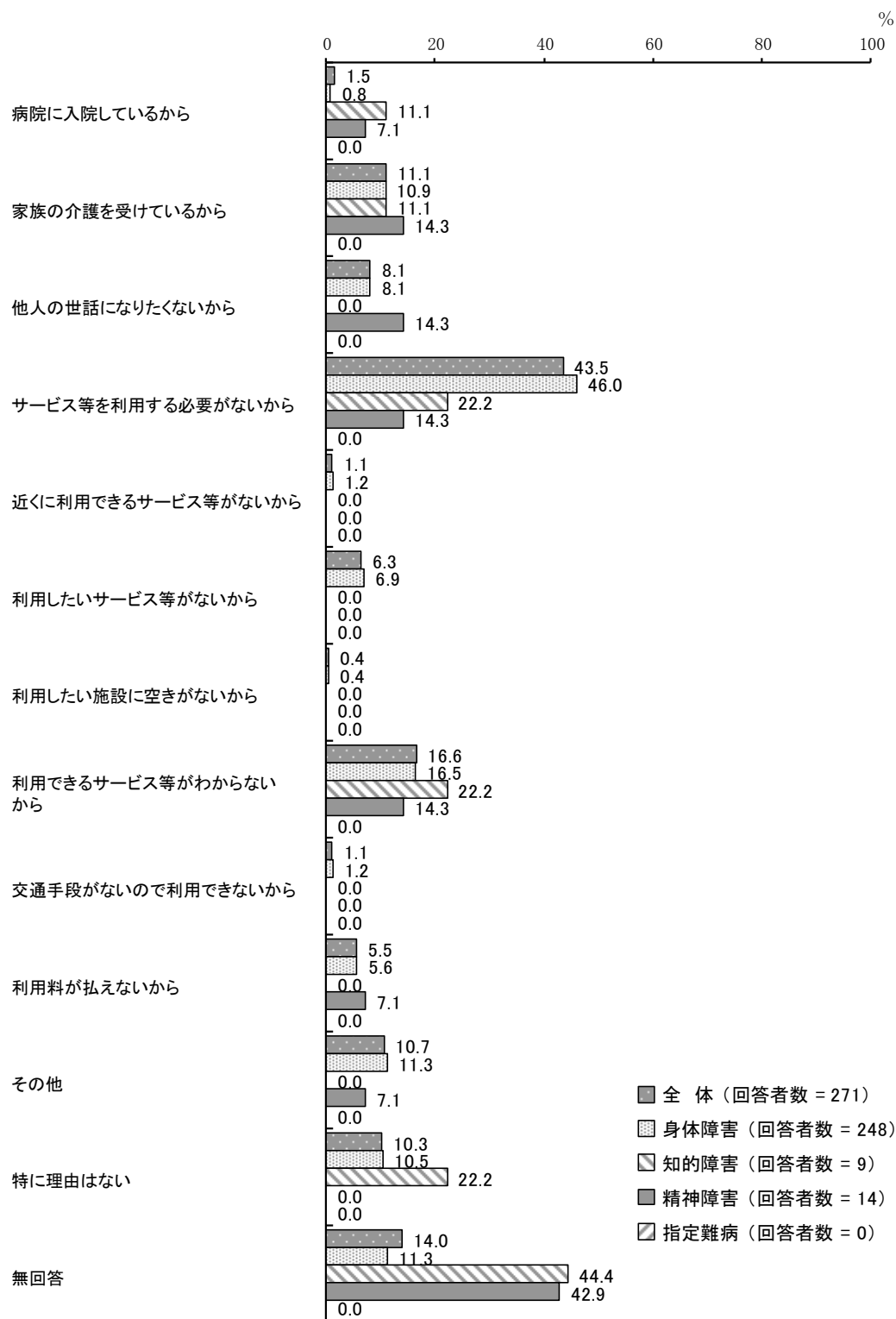
⑳交流会・講演会【指定難病】

指定難病では、有効回答がありませんでした。

（４）福祉サービスを利用していない理由

全体では、「サービス等を利用する必要があるから」の割合が 43.5%と最も高く、次いで「利用できるサービス等がわからないから」の割合が 16.6%、「家族の介護を受けているから」の割合が 11.1%となっています。

障害別でみると、他に比べ、身体障害で「サービス等を利用する必要があるから」の割合が高く、４割台半ばとなっています。

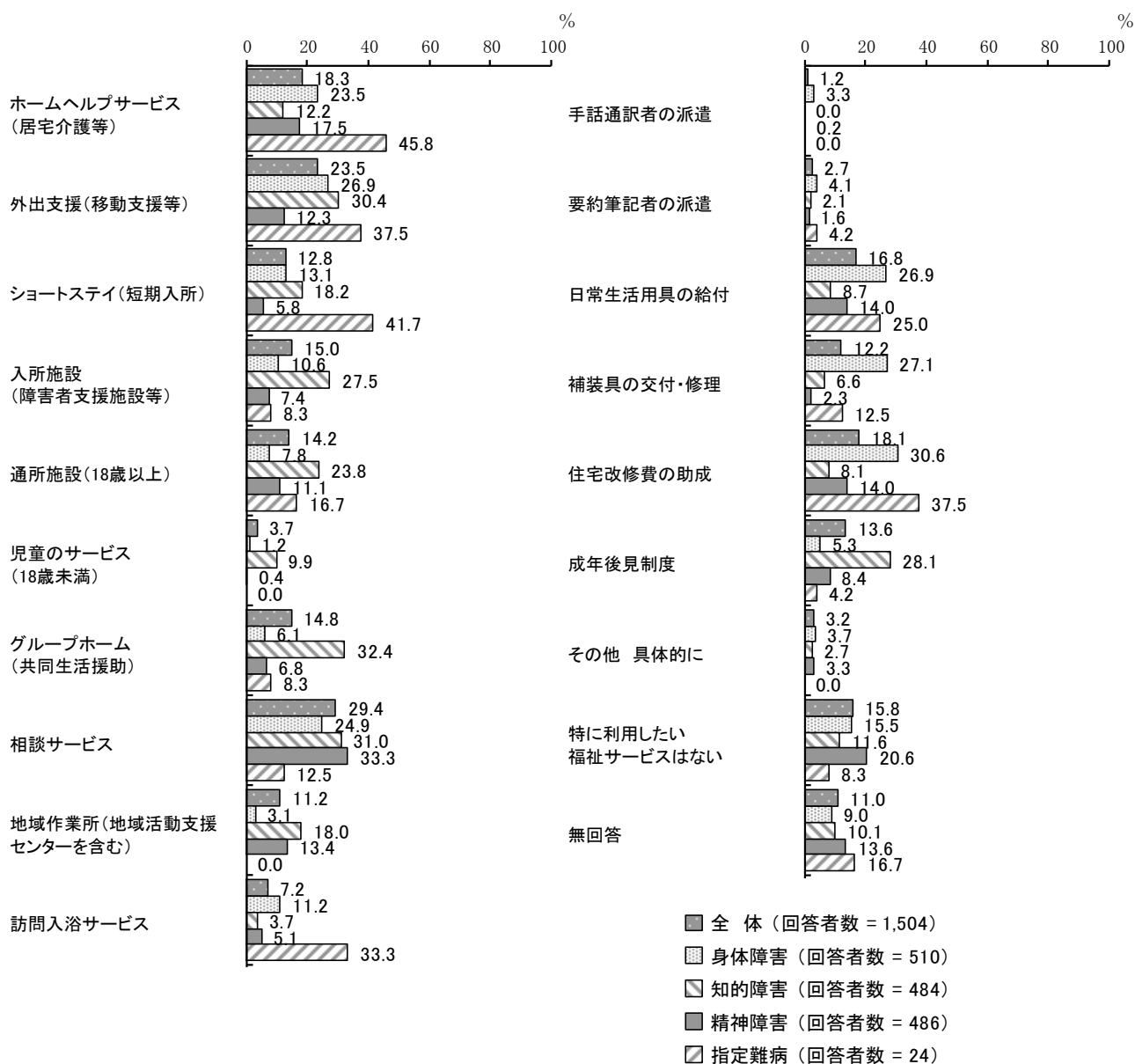


「その他」の福祉サービスを利用していない理由	件数
利用しなくても生活できているから	18
サービス内容が不明	10
必要がない	9
人づきあいができない	7
病状が落ち着かないため	7
本人が嫌がる	6
年齢が低いため	6
利用手続きがわからない	6
自分に合ったサービスがない	5
今後利用したい	5
サービス対象外	4
家族が介護してくれるため	3
通院のため	2
罪悪感のため	2
施設入所中	1
感染症予防のため	1
介護保険サービスを利用	1
労災を利用	1
腰痛	1
移動手段がない	1
趣味のため	1

(5) 今後の福祉サービスの利用希望

全体では、「相談サービス」の割合が29.4%と最も高く、次いで「外出支援（移動支援等）」の割合が23.5%、「ホームヘルプサービス（居宅介護等）」の割合が18.3%となっています。

障害別でみると、他に比べ、指定難病で「ホームヘルプサービス（居宅介護等）」「外出支援（移動支援等）」「ショートステイ（短期入所）」「訪問入浴サービス」「住宅改修費の助成」の割合が高くなっています。また、精神障害で「特に利用したい福祉サービスはない」の割合が高く、約2割となっています。



「その他」の今後の福祉サービスの利用希望	件数
家事代行	3
就職支援、就労支援	3
交通機関の運賃補助	2
介護保険の施設サービス	2
介護保険の通所サービス	2
生活訓練	2
自助グループ	1
相談サービス	1
金銭管理	1
緊急時の子どもへの支援	1
光熱費助成	1
障害年金	1

〔その他、必要と思われるサービス等について、ご意見をお書きください。〕

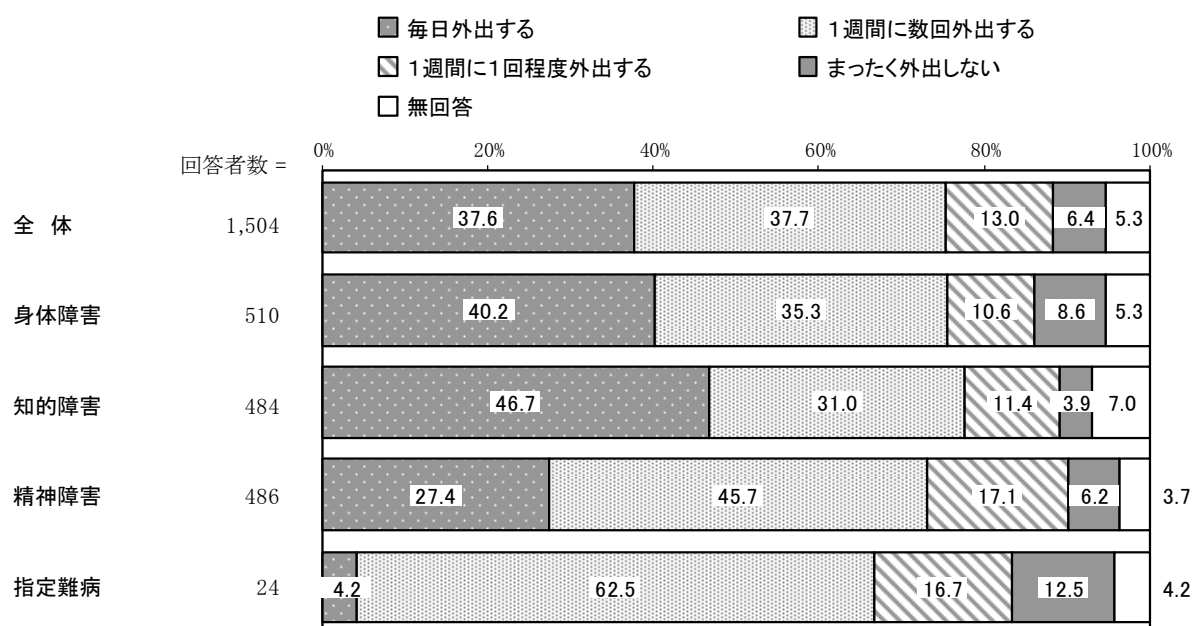
必要と思われるサービス等	件数
障害に対応した入所施設の拡充	15
家事代行、ホームヘルパー	13
職業訓練、就労支援、資格取得支援	10
総合的な相談窓口の拡充	8
独居の人の支援	7
公共交通機関の無料化、運賃補助	7
サービス内容がわかる窓口、パンフレット等の情報提供	7
リハビリテーション	5
医療体制の確保	5
体調の急変、病気になったときの支援	4
福祉に携わる人の待遇改善・研修の充実	4
話し相手、傾聴	4
家賃補助・光熱費減免	4
移動支援	4
日常生活用具の給付の拡充	4
現金給付、年金給付	4
カウンセリングサービス	3
パソコン、タブレット通訳、手話通訳の派遣	3
諸手続きの代行、簡素化、オンライン化	3
親亡き後の生活サービス	3
軽度障害児へのサービス・周囲の理解	3
医療費助成の拡充	2
死後のこと	2
理学療法、作業療法等の活用	2
公共交通機関の拡充	2
介護タクシー等送迎サービス	2
補装具交付の拡充	2
ショートステイの拡充	2
児童の学習支援	2
孤独死の防止	1
生活習慣の訓練	1
オンラインでの在宅医療制度	1
緊急時の子どもの預かり	1
安楽死	1
入浴サービス	1
介助犬の普及	1
自殺防止対策	1
金銭管理	1
理美容サービス	1
日中一時支援の時間拡大	1
障害児保育の拡大	1
介助に必要なスペース確保	1
カフェアシストのための学び	1
住宅改修費助成の拡充	1
障害区分の見直し	1
入院時の付き添い支援	1

3 日中活動について

(1) 1週間の外出頻度

全体では、「1週間に数回外出する」の割合が37.7%と最も高く、次いで「毎日外出する」の割合が37.6%、「1週間に1回程度外出する」の割合が13.0%となっています。

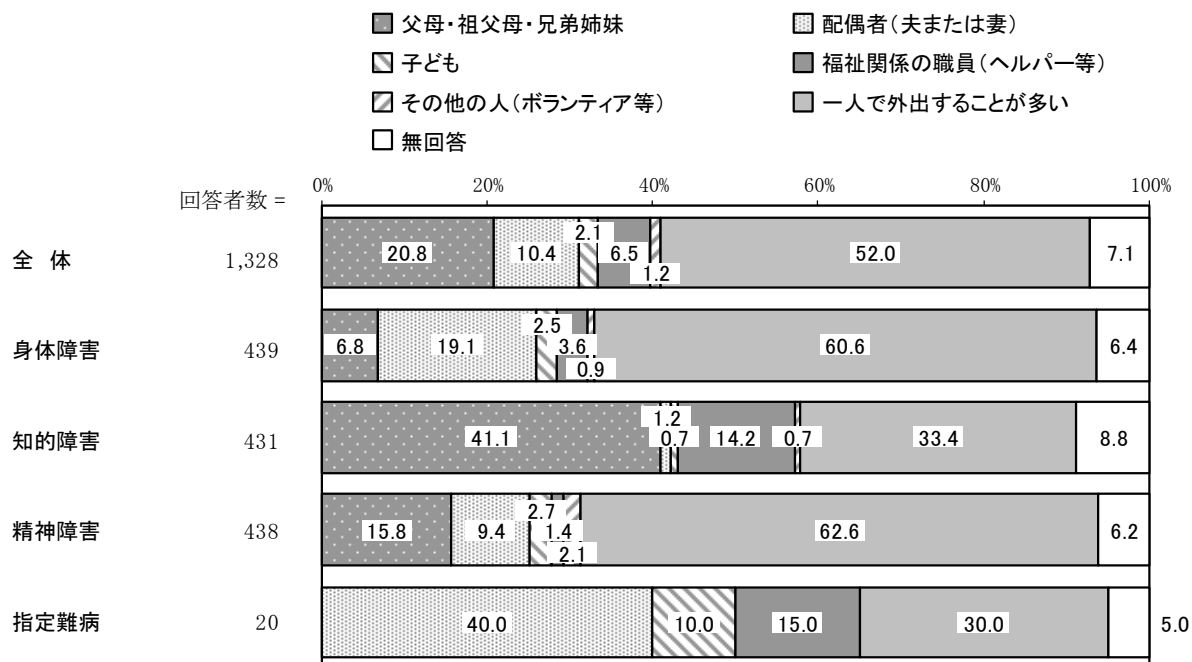
障害別でみると、他に比べ、知的障害で「毎日外出する」の割合が高く、4割台半ばとなっています。また、指定難病で「1週間に数回外出する」の割合が高く、約6割となっています。



（２）外出時の同伴者

全体では、「一人で外出することが多い」の割合が 52.0%と最も高く、次いで「父母・祖父母・兄弟姉妹」の割合が 20.8%、「配偶者（夫または妻）」の割合が 10.4%となっています。

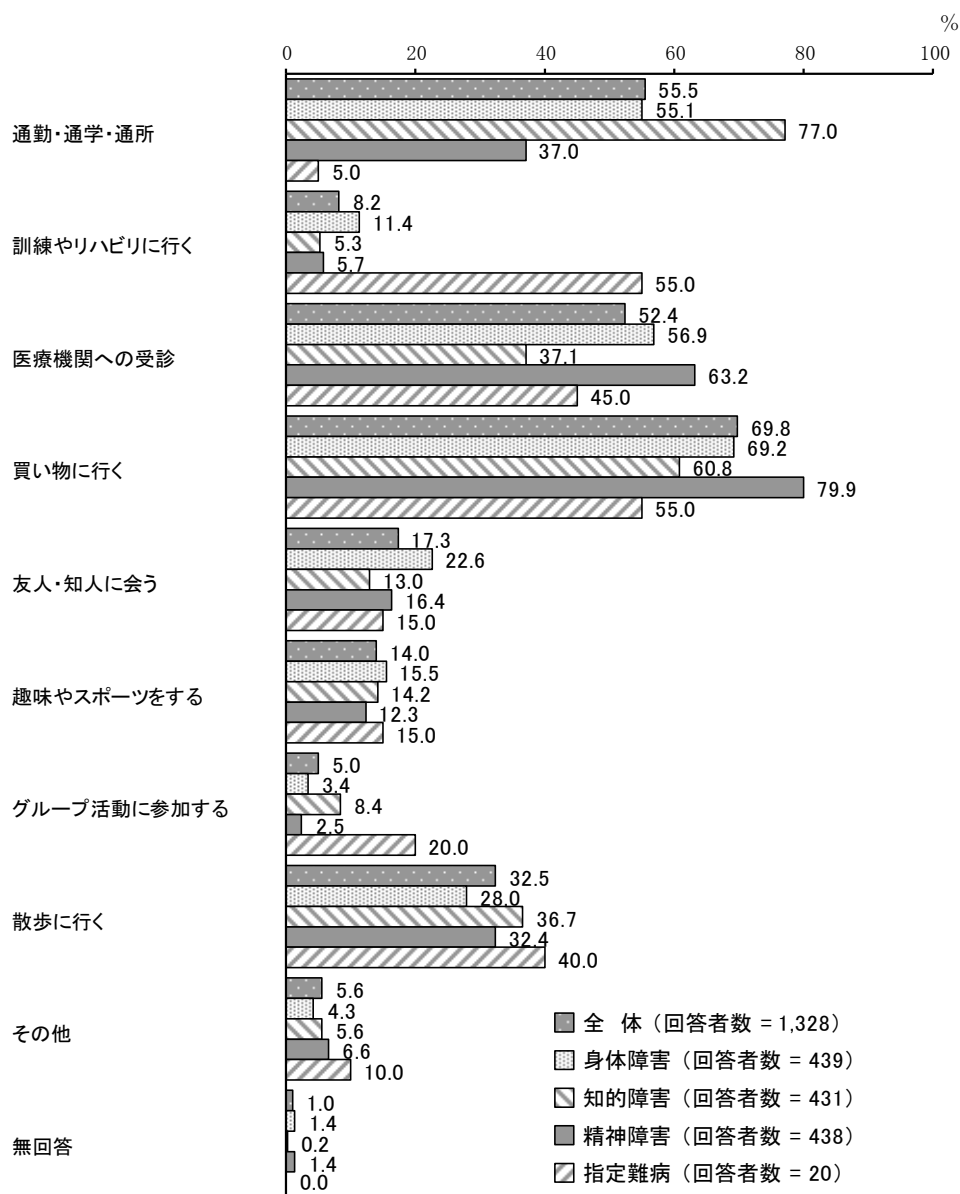
障害別でみると、他に比べ、身体障害、精神障害で「一人で外出することが多い」の割合が高く、約 6 割となっています。また、知的障害で「父母・祖父母・兄弟姉妹」の割合が、指定難病で「配偶者（夫または妻）」の割合が高く、約 4 割となっています。



(3) 外出の目的

全体では、「買い物に行く」の割合が 69.8%と最も高く、次いで「通勤・通学・通所」の割合が 55.5%、「医療機関への受診」の割合が 52.4%となっています。

障害別でみると、知的障害で「通勤・通学・通所」の割合が、精神障害で「医療機関への受診」「買い物に行く」の割合が、指定難病で「訓練やリハビリに行く」「グループ活動に参加する」の割合が高くなっています。

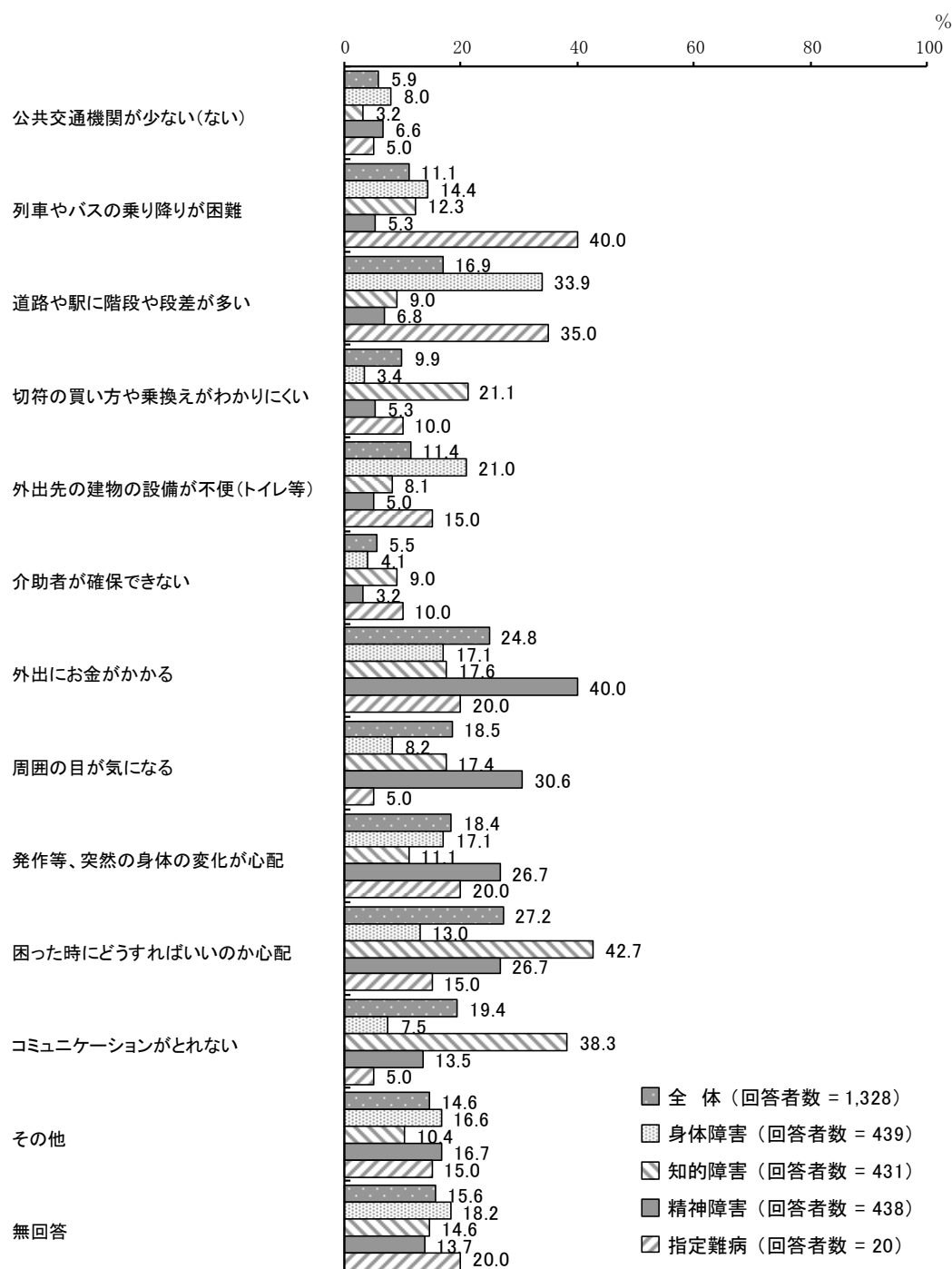


「その他」の外出の目的	件数
仕事、就労、作業所	11
デイサービス、デイケア	10
家族の介護・見舞い、帰省	8
散歩、ウォーキング	7
趣味、習いごと	6
買い物	5
理美容院	5
余暇活動、レジャー	5
外食	5
通院	4
ドライブ	2
ゲーム	2
ボーイスカウト、スポーツなど野外活動	2
公的手続き	2
宗教	2
子どもの送迎	1

(4) 外出時に困ること

全体では、「困った時にどうすればいいのか心配」の割合が27.2%と最も高く、次いで「外出にお金がかかる」の割合が24.8%、「コミュニケーションがとれない」の割合が19.4%となっています。

障害別でみると、他に比べ、知的障害で「困った時にどうすればいいのか心配」「コミュニケーションがとれない」の割合が、精神障害で「外出にお金がかかる」の割合が、指定難病で「列車やバスの乗り降りが困難」の割合が高く、約4割となっています。

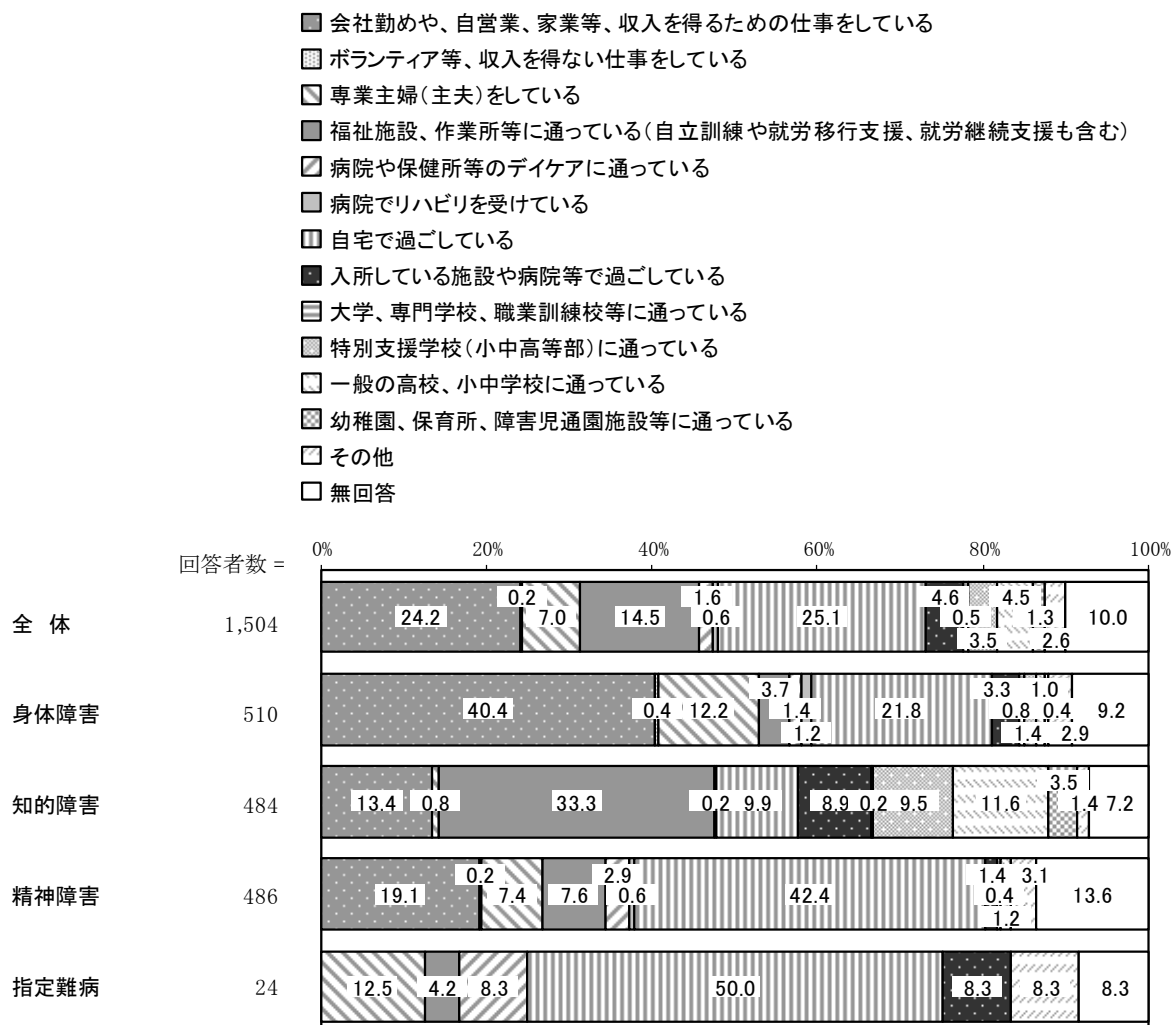


「その他」の外出時に困ること	件数
コミュニケーションが取れない	11
トイレ	6
突発時の状況把握が困難	6
体力がない、運動機能の低下	6
突然の体調不良、パニック発作	6
坂道が多い	6
外出までの支度に手間取る	6
外出が怖い、危険	6
新型コロナウイルス感染症の影響	5
1人で外出できない	5
悪天候時の移動	4
パニック、幻聴等	4
周囲の目、周囲への迷惑	4
障害者とわかってもらえない	4
帰宅後の疲れ	3
介助者が必ず必要	3
電車で座れない	3
料金が高い	3
ヘルパーが利用できない	3
移動手段	3
喧騒が苦手	2
マナーの悪い自動車	2
移乗	2
駐車場	2
足の痛み、トラブル	2
道に迷う	2
長く歩けない	1
買い物量が多い	1
子ども連れ	1
近隣に何も無い	1
外からチラシを持ってくる	1
ストーマの扱い	1
転倒	1
外出できるほど調子のよい日が少ない	1
休憩場所がない	1
日焼け	1
携帯電話との距離	1
段差	1
長時間の外出ができない	1
バスの本数	1
踏切	1
聞こえの問題	1
歩道の整備	1
福祉タクシーを利用できない	1

(5) 平日の日中の過ごし方

全体では、「自宅で過ごしている」の割合が25.1%と最も高く、次いで「会社勤めや、自営業、家業等、収入を得るための仕事をしている」の割合が24.2%、「福祉施設、作業所等に通っている（自立訓練や就労移行支援、就労継続支援も含む）」の割合が14.5%となっています。

障害別でみると、精神障害、指定難病で「自宅で過ごしている」の割合が高く、特に指定難病で5割となっています。また、身体障害で「会社勤めや、自営業、家業等、収入を得るための仕事をしている」の割合が高く、約4割となっています。



「その他」の平日の日中の過ごし方	件数
通院	12
仕事、パート、アルバイト	8
通所	5
入院中	3
デイサービス	3
寝ている	3
買い物	3
散歩	3
高等専修学校	2
家事手伝い	2
カウンセリング	2
図書館	2
動物の世話	1
近隣の人話し相手	1
求職中	1
知人と会う	1
介護	1
部屋にいる	1
趣味	1

（６）ふだんの生活に必要な支援

全体では、『金銭・財産管理』『就労支援』を「１番目」とする割合が約２割と高くなっています。

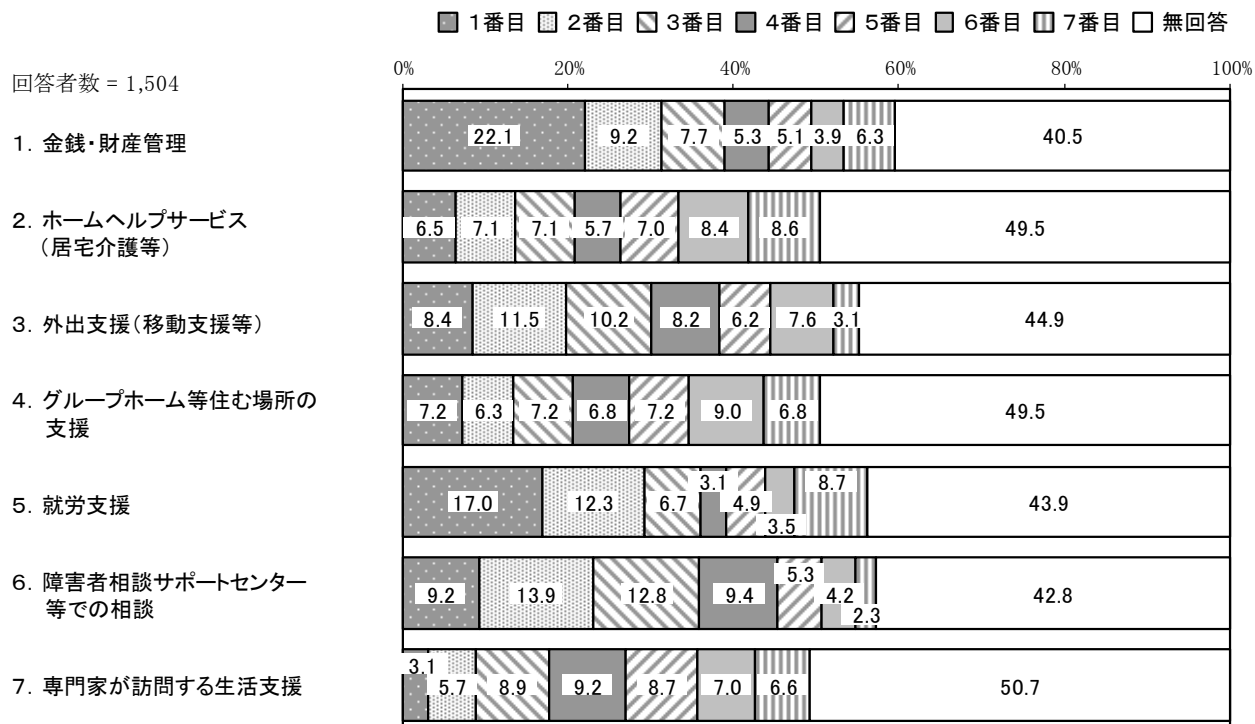
「１番目」を障害別でみると、身体障害では『金銭・財産管理』を割合が 21.2%と最も高く、次いで『就労支援』の割合が 14.5%、『障害者相談サポートセンター等での相談』の割合が 10.4%となっています。

知的障害では、『金銭・財産管理』の割合が 20.2%と最も高く、次いで『グループホーム等住む場所の支援』の割合が 17.1%、「就労支援」の割合が 16.9%となっています。

精神障害では、『金銭・財産管理』の割合が 25.5%と最も高く、次いで『就労支援』の割合が 20.2%、『障害者相談サポートセンター等での相談』の割合が 11.1%となっています。

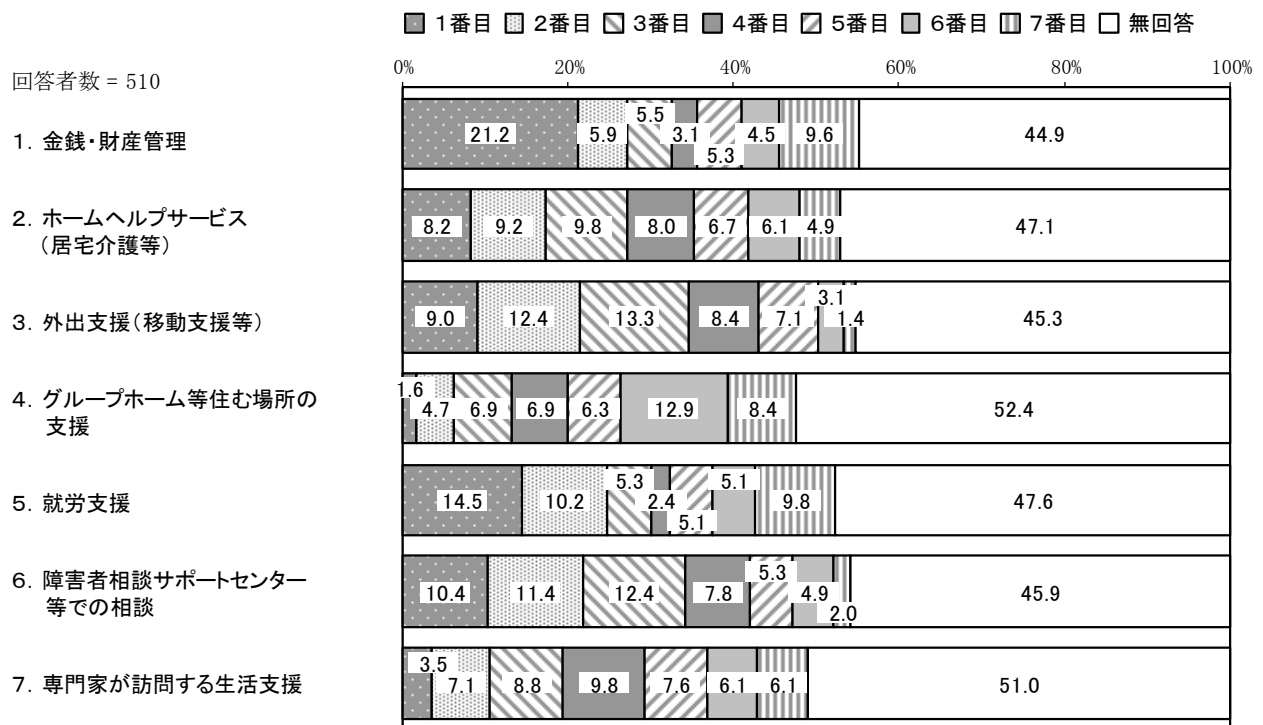
指定難病では、『ホームヘルプサービス（居宅介護等）』の割合が 29.2%と最も高く、次いで『外出支援（移動支援等）』の割合が 25.0%となっています。

【全 体】



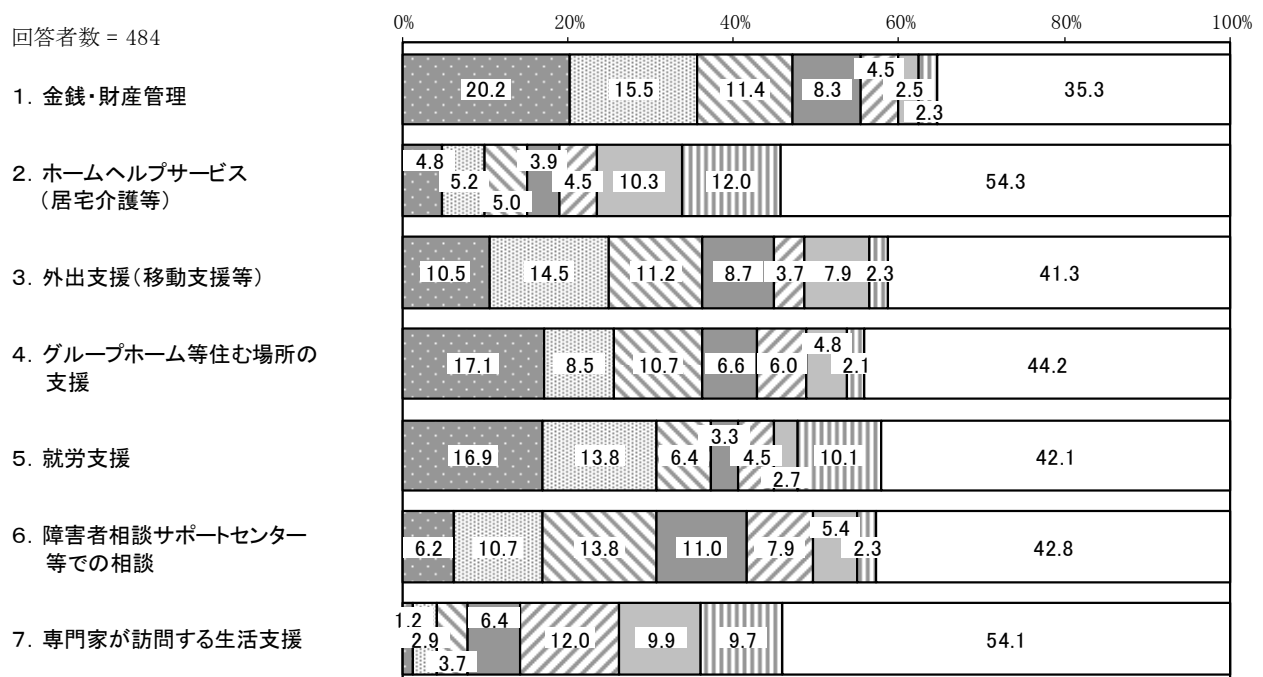
【身体障害】

回答者数 = 510



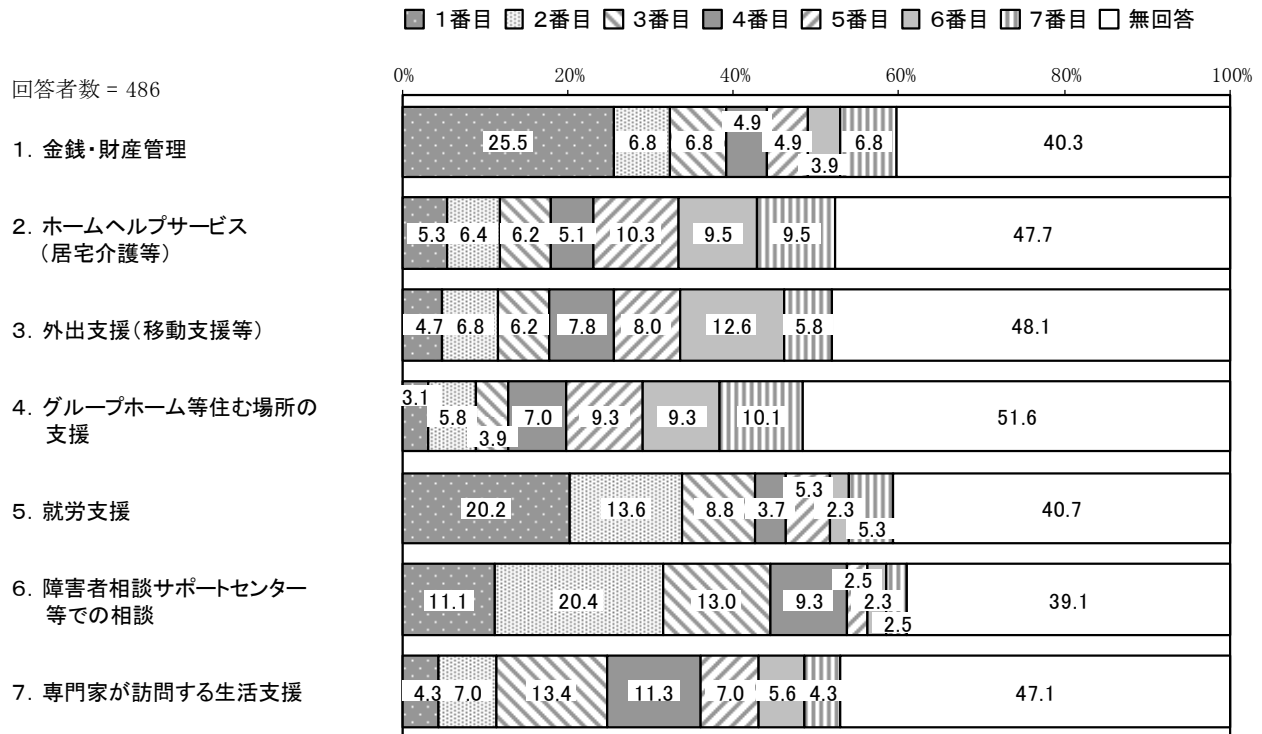
【知的障害】

回答者数 = 484



【精神障害】

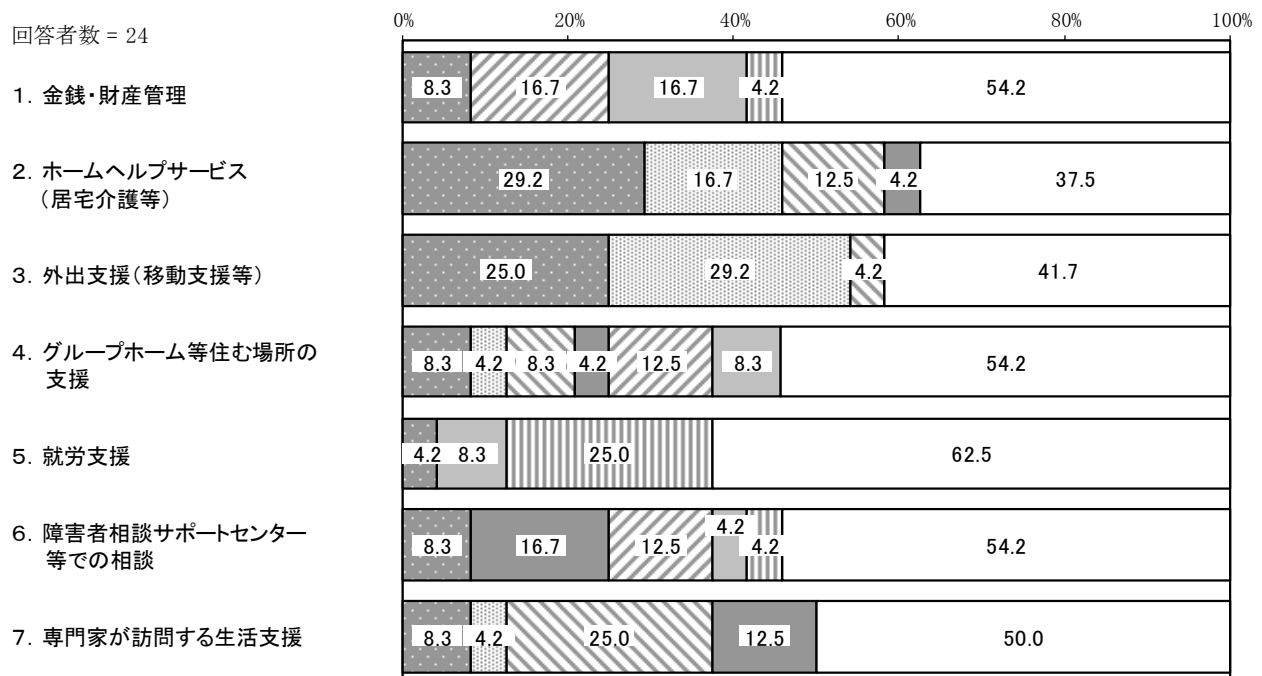
回答者数 = 486



【指定難病】

「2番目」の割合が11.5%と最も高く、次いで「3番目」の割合が10.2%となっています。

回答者数 = 24

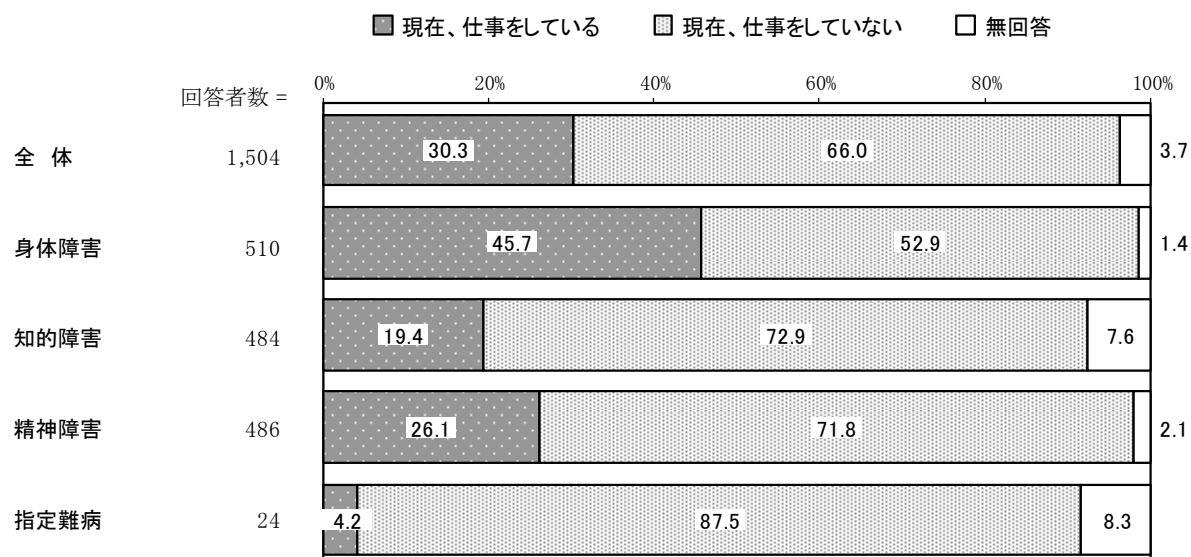


4 仕事について

(1) 仕事の有無

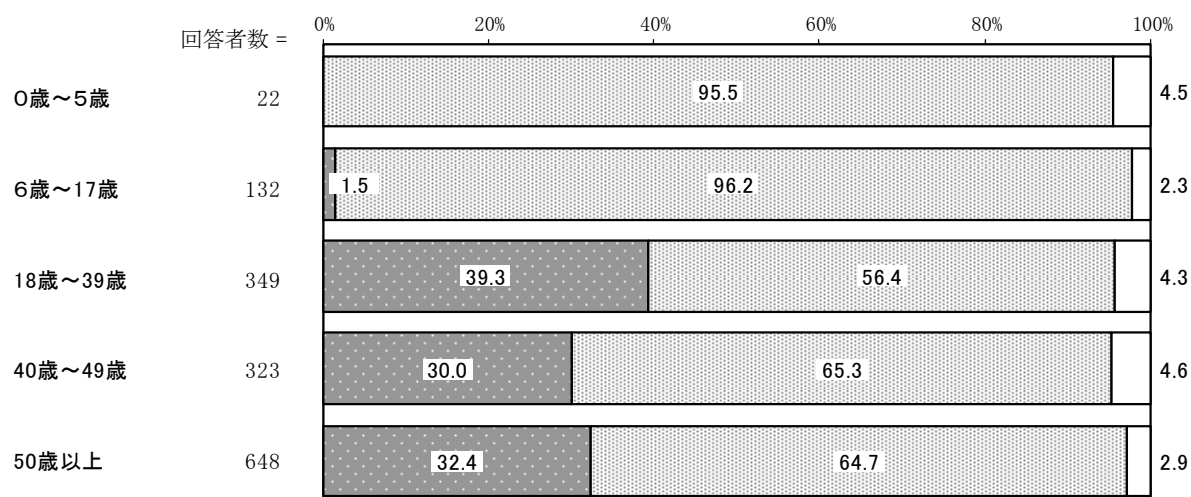
全体では、「現在、仕事をしている」の割合が 30.3%、「現在、仕事をしていない」の割合が 66.0%となっています。

障害別でみると、身体障害で「現在、仕事をしている」の割合が高く、4割台半ばとなっています。また、指定難病で「現在、仕事をしていない」の割合が高く、約9割となっています。



【年齢別】

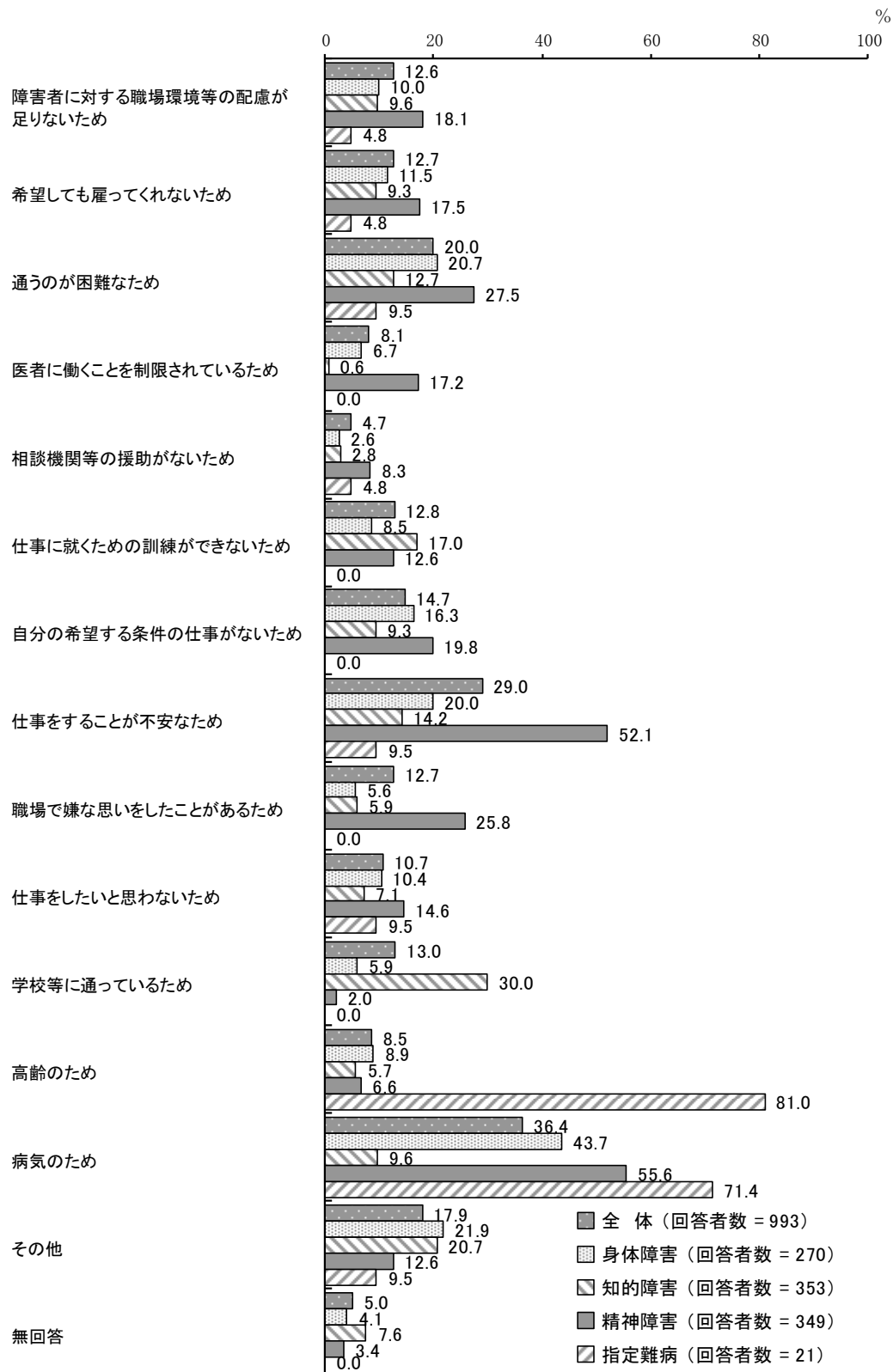
年齢別でみると、他に比べ、18歳～39歳で「現在、仕事をしている」の割合が高く、約4割となっています。



（２）現在仕事をしていない事情

全体では、「病気のため」の割合が36.4%と最も高く、次いで「仕事をするのが不安なため」の割合が29.0%、「通うのが困難なため」の割合が20.0%となっています。

障害別でみると、他に比べ、指定難病で「高齢のため」「病気のため」の割合が高く、特に「高齢のため」の割合が約8割となっています。また、知的障害で「学校等に通っているため」の割合が、精神障害で「障害者に対する職場環境等の配慮が足りないため」「希望しても雇ってくれないため」「通うのが困難なため」「医者に行くことを制限されているため」「仕事をするのが不安なため」「職場で嫌な思いをしたことがあるため」の割合が高くなっています。

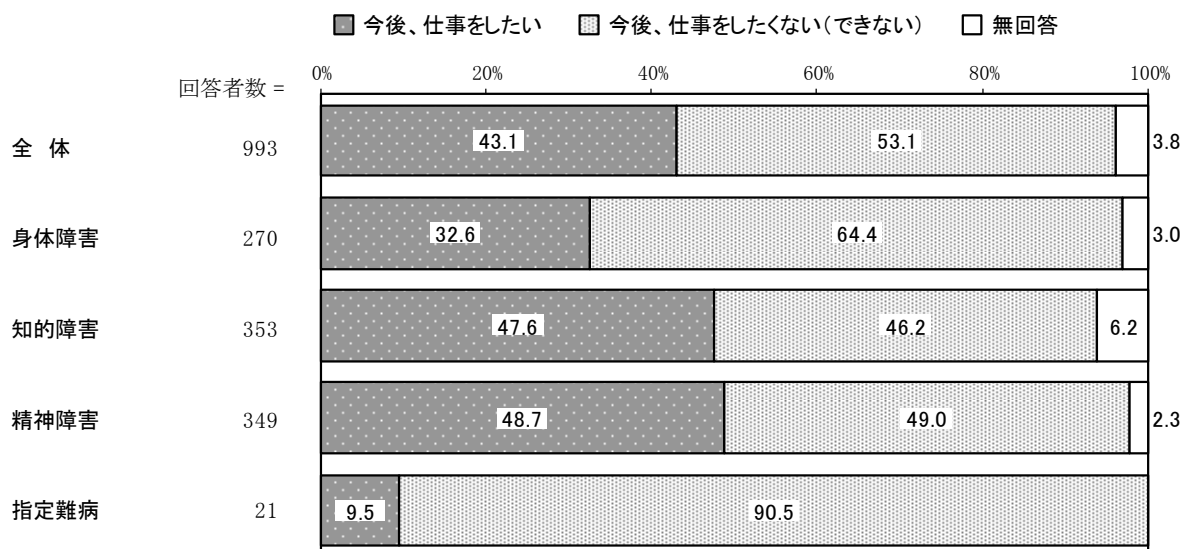


「その他」の平日の日中の過ごし方	件数
仕事ができる状態でない	19
持病、後遺症のため	18
年齢	14
重度障害のため	12
身体的な問題	12
精神的に難しい	8
通所している	7
コミュニケーションがとれない	6
介護のため	6
新型コロナウイルス感染症のため	5
体力的に難しい	5
専業主婦（夫）	4
解雇	4
家事・育児のため	4
働く必要がない	4
就労支援に通っている	3
できる仕事がない、わからない	3
周囲の人	2
パワハラ、セクハラ、傷害	2
スキルが身につかない	2
医師の判断	2
できる仕事がない	1
入院中・入所中	1
専従者	1
介護度が重い	1
休職中	1
あきらめている	1
学歴	1
あこがれの職業がある	1
通える距離に会社がない	1
家業に従事	1
やりたい仕事がない	1
入所している	1
住環境	1
全介助のため	1
年金で暮らしている	1

（３）仕事をしたいかの希望

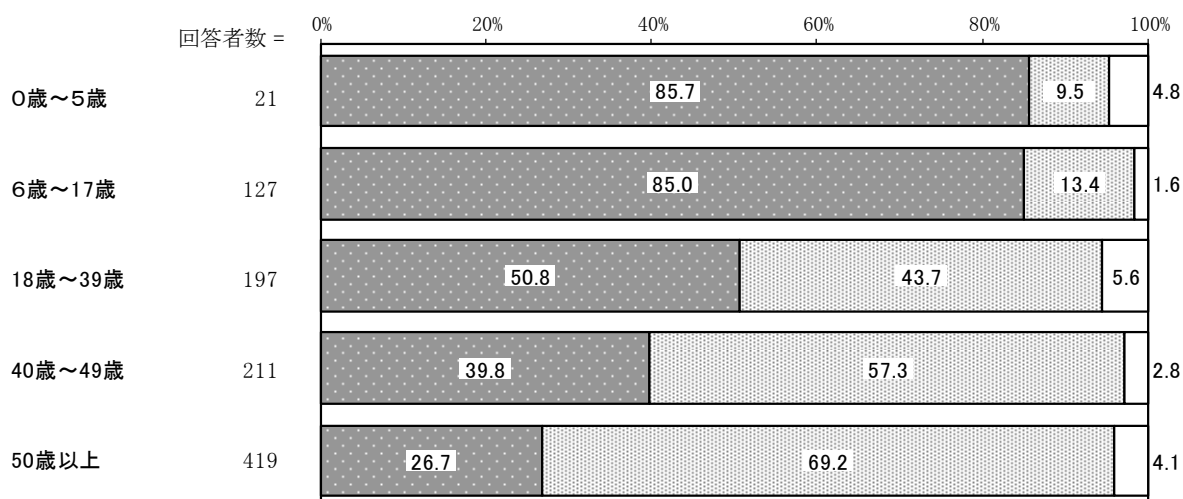
現在仕事をしていない方のうち、「今後、仕事をしたい」の割合が43.1%、「今後、仕事をしたくない（できない）」の割合が53.1%となっています。

障害別でみると、他に比べ、知的障害、精神障害で「今後、仕事をしたい」の割合が高く、約5割となっています。また、指定難病で「今後、仕事をしたくない（できない）」の割合が高く、約9割となっています。



【年齢別】

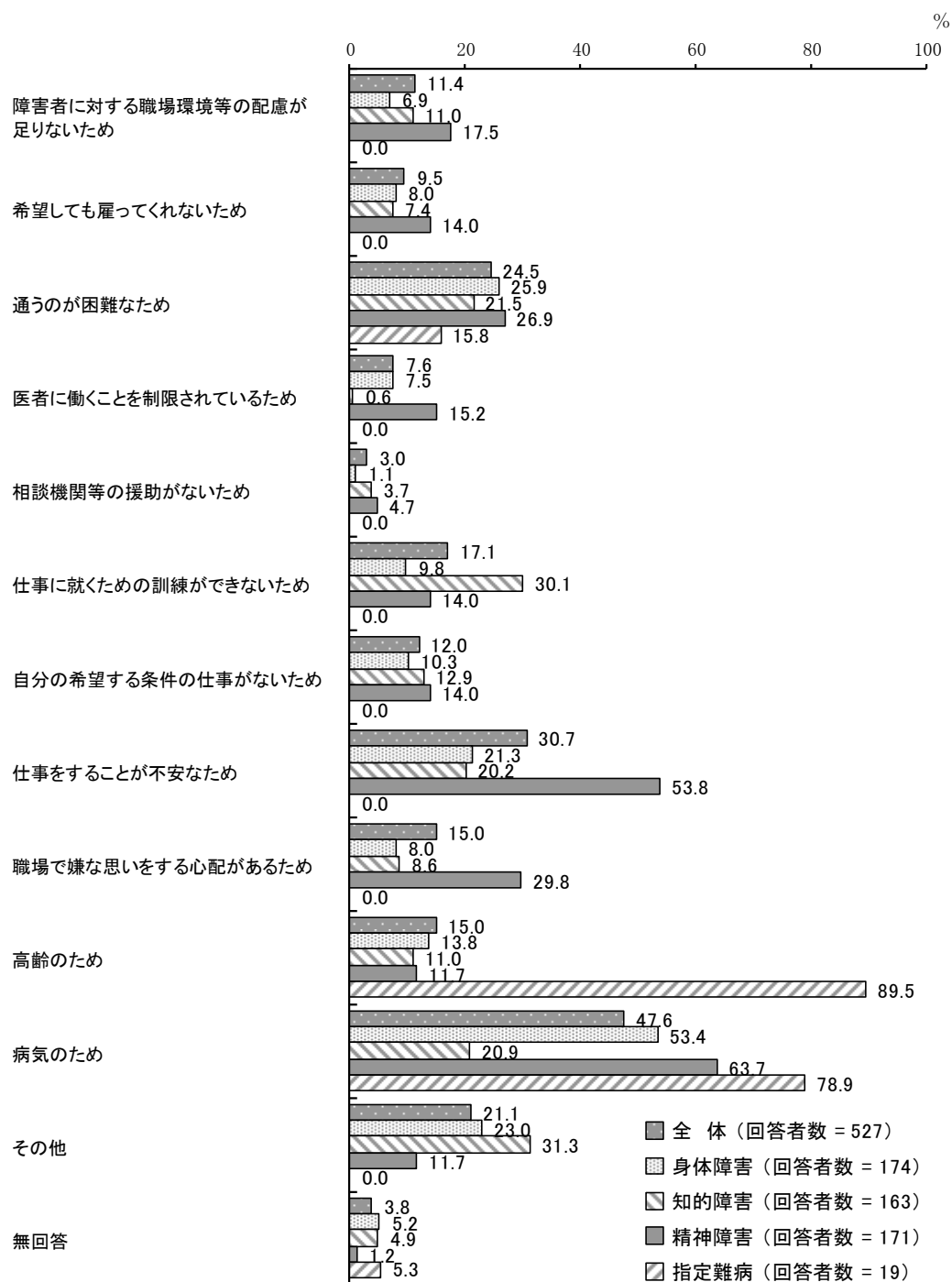
年齢別でみると、年齢が下がるにつれ「今後、仕事をしたい」の割合が高くなっており、0歳～5歳、6歳～17歳で8割台半ばとなっています。



(4) 仕事をしたくない(できない)理由

全体では、「病気のため」の割合が47.6%と最も高く、次いで「仕事をすることが不安なため」の割合が30.7%、「通うのが困難なため」の割合が24.5%となっています。

障害別でみると、他に比べ、指定難病で「高齢のため」「病気のため」の割合が高く、特に「高齢のため」の割合が約9割となっています。また、知的障害で「仕事に就くための訓練ができないため」の割合が、精神障害で「仕事をすることが不安なため」「職場で嫌な思いをする心配があるため」の割合が高くなっています。

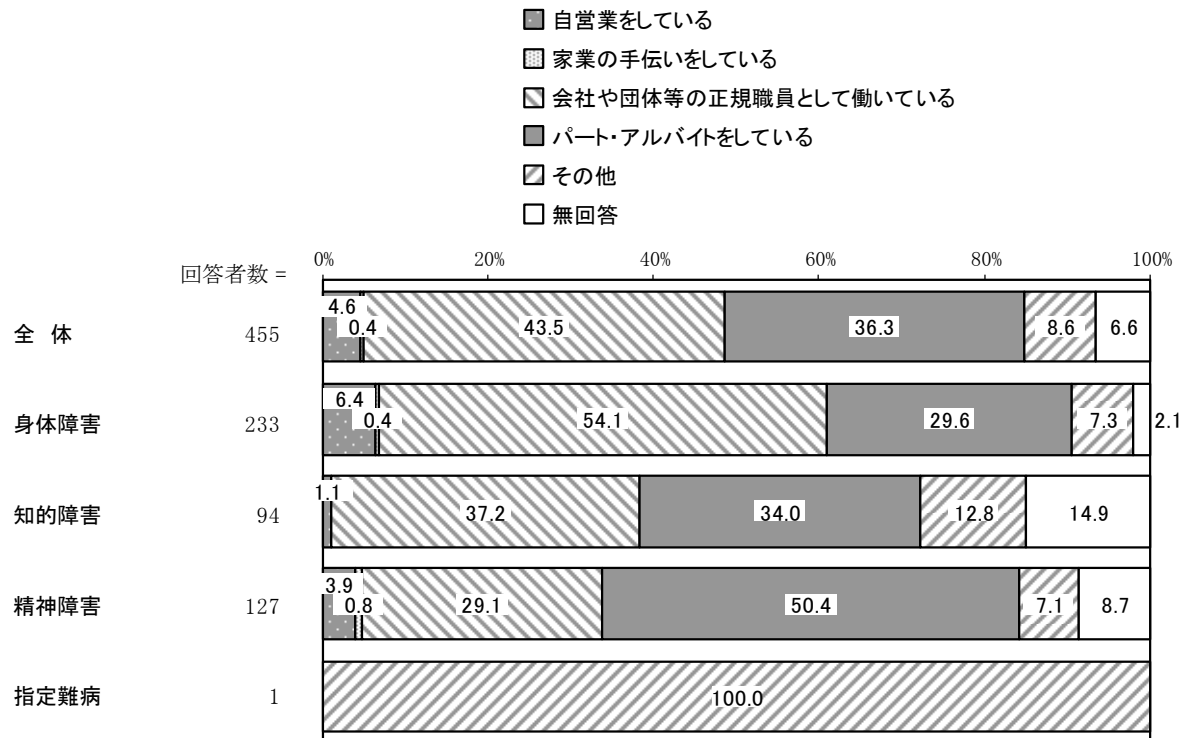


「その他」の仕事をしたくない（できない）理由	件数
障害のため	43
できる仕事がない	13
作業所に通っている	7
働く必要がない	5
働く意思がない	5
入院中	4
精神状態	4
対人関係	3
介護のため	3
病気・通院のため	3
年金を受給している	3
体力がない	3
周囲の理解がない	3
年齢	2
配偶者の扶養に入っている	2
家事	2
外出できない	1
家業の手伝い	1
家庭事情	1

（５）現在仕事をしている方の仕事の内容

全体では、「会社や団体等の正規職員として働いている」の割合が 43.5%と最も高く、次いで「パート・アルバイトをしている」の割合が 36.3%となっています。

障害別でみると、他に比べ、身体障害で「会社や団体等の正規職員として働いている」の割合が、精神障害で「パート・アルバイトをしている」の割合が高く、5割を超えています。

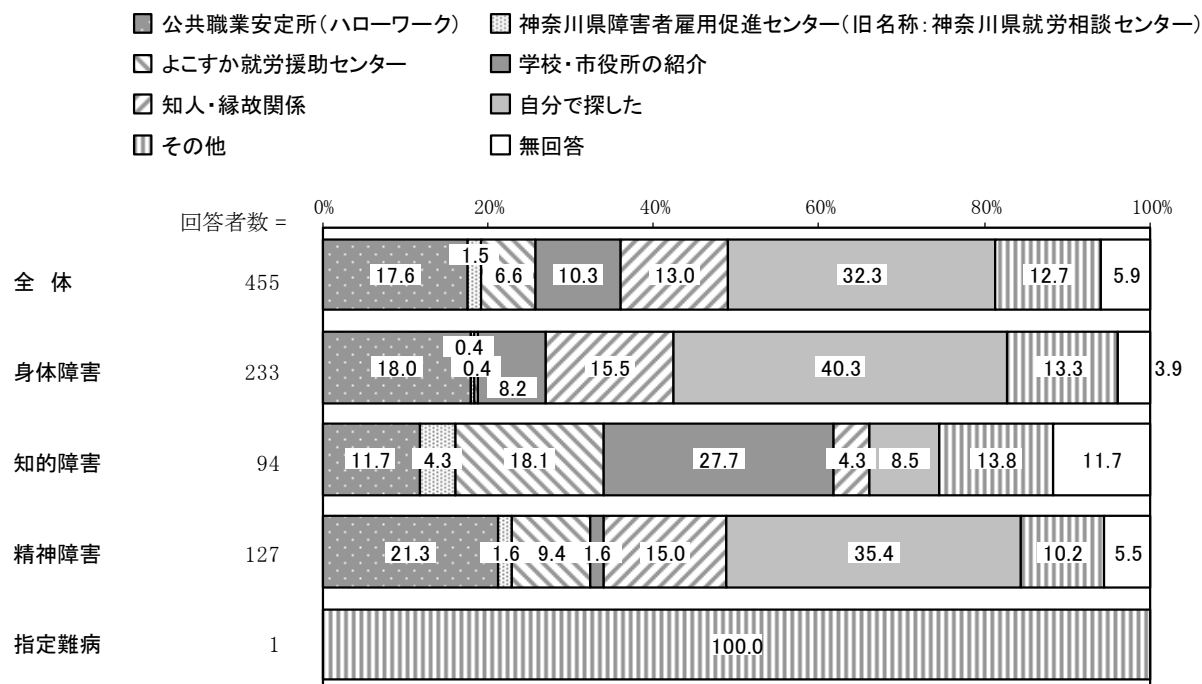


「その他」の仕事内容	件数
非正規社員・非常勤社員	19
会社役員	2
在宅ワーカー	2
フリーランス	1
休職中	1
警備員	1
体操指導員	1
定年後の再雇用	1
ネットショップ	1
清掃	1
派遣社員	1
アパート経営	1

(6) 仕事を見つけた方法

全体では、「自分で探した」の割合が 32.3%と最も高く、次いで「公共職業安定所（ハローワーク）」の割合が 17.6%、「知人・縁故関係」の割合が 13.0%となっています。

障害別でみると、他に比べ、身体障害で「自分で探した」の割合が高く、約 4 割となっています。知的障害で「よこすか就労援助センター」「学校・市役所の紹介」の割合が高くなっています。

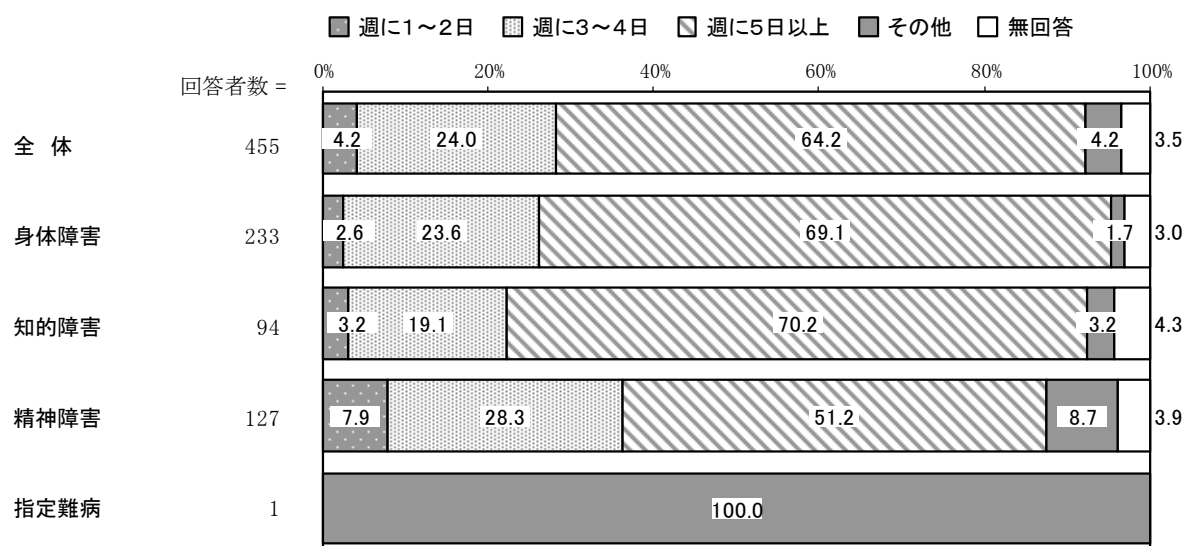


「その他」の仕事を見つけた方法	件数
以前から現職場	17
就労移行支援事業所	10
自営、起業	7
職業あっせん会社	6
家業を継いだ	4
施設からの紹介	4
チラシ、広告	3
Web サイト	3
知人の紹介	2
職業訓練校	1
職業体験実習	1

(7) 1週間あたりの労働日数

全体では、「週に5日以上」の割合が64.2%と最も高く、次いで「週に3～4日」の割合が24.0%となっています。

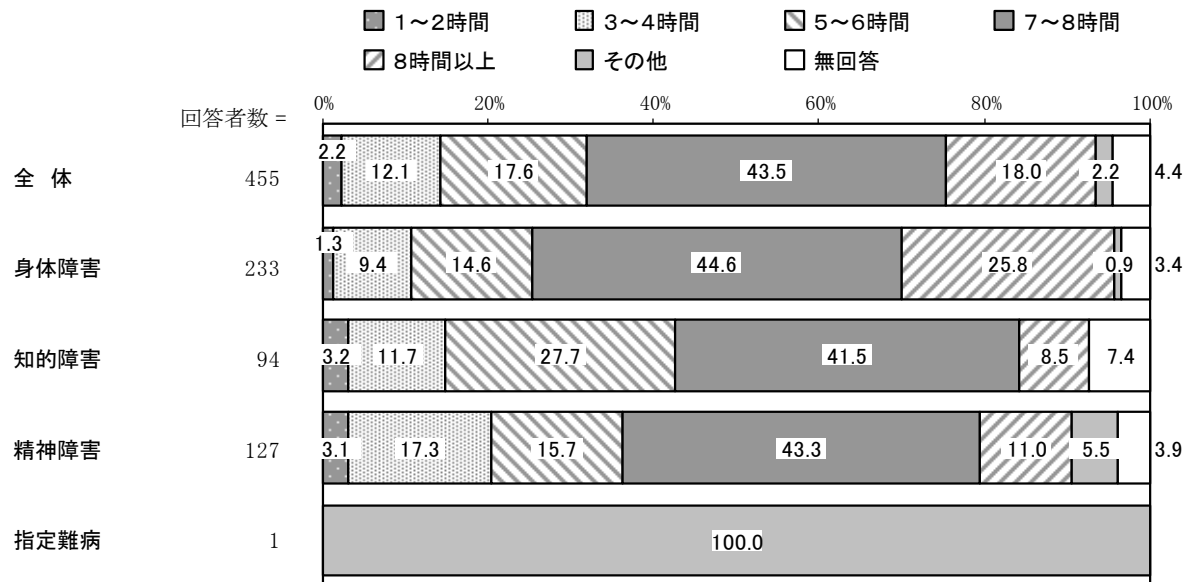
障害別でみると、他に比べ、身体障害、知的障害で「週に5日以上」の割合が高く、約7割となっています。また、精神障害で「週に3～4日」の割合が高く、約3割となっています。



(8) 1日あたりの労働時間

全体では、「7～8時間」の割合が43.5%と最も高く、次いで「8時間以上」の割合が18.0%、「5～6時間」の割合が17.6%となっています。

障害別でみると、他に比べ、身体障害で「8時間以上」の割合が高く、2割台半ばとなっています。また、知的障害で「5～6時間」の割合が、精神障害で「3～4時間」の割合が高くなっています。

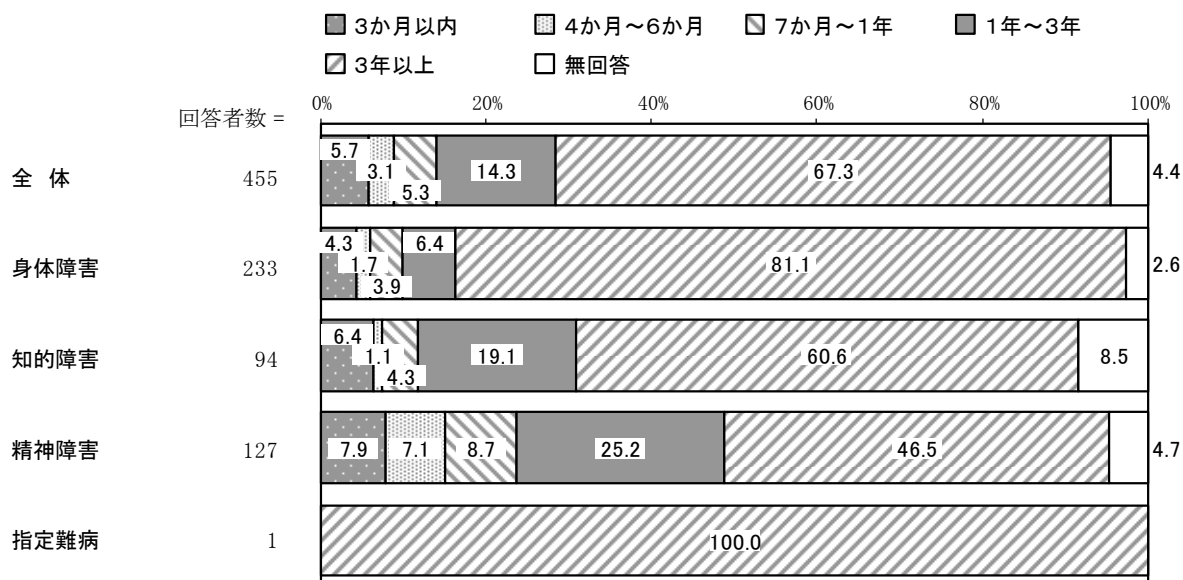


「その他」の仕事を見つけた方法	件数
不定期	2
残業が多い	1
4～5時間	1
月末は6時間	1
変動する	1

(9) 現在の仕事についてからの期間

全体では、「3年以上」の割合が67.3%と最も高く、次いで「1年～3年」の割合が14.3%となっています。

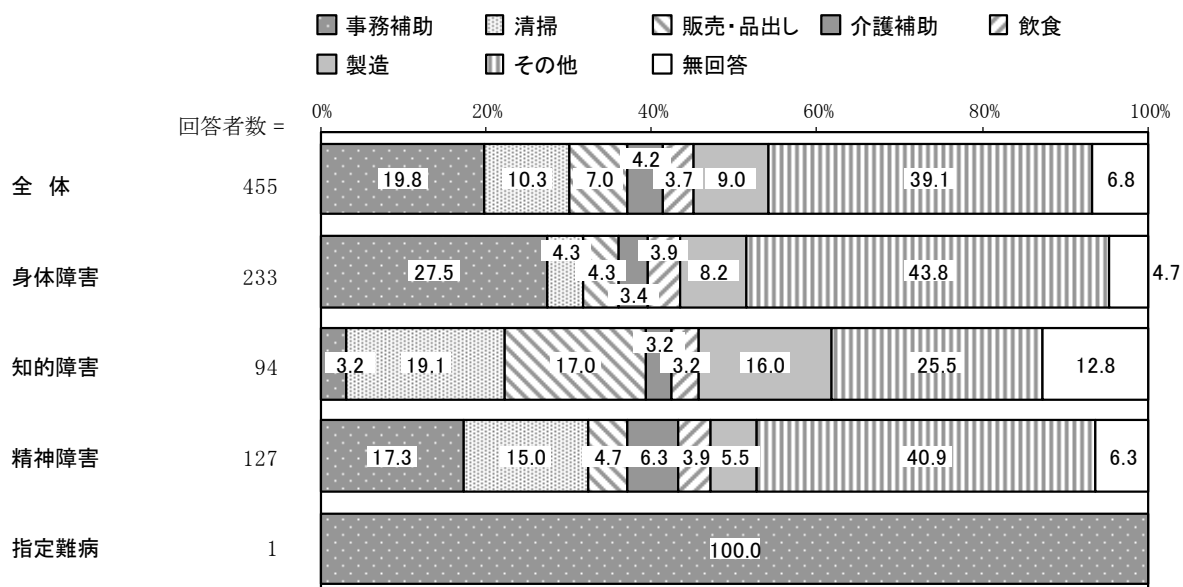
障害別でみると、身体障害で「3年以上」の割合が高く、約8割となっています。また、精神障害で「1年～3年」の割合が高く、2割台半ばとなっています。



(10) 現在の仕事の業務内容

全体では、「事務補助」の割合が19.8%と最も高く、次いで「清掃」の割合が10.3%となっています。

障害別でみると、他に比べ、身体障害で「事務補助」の割合が高く、約3割となっています。また、知的障害で「清掃」「販売・品出し」の割合が高く、約2割となっています。

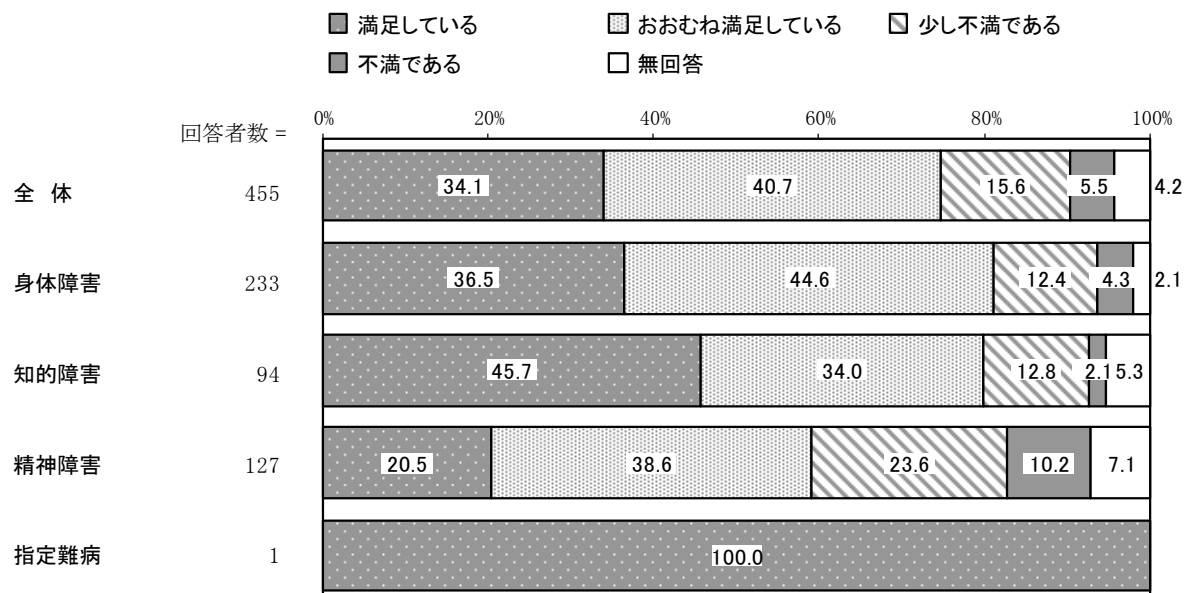


「その他」の仕事を見つけた方法	件数
介護職、介護施設職員	12
建設関係	12
事務	9
運転手、運送業	9
教職員、教育関係	8
警備員	8
軽作業	8
工場内作業	5
人事、総務、経理、法務	5
倉庫業	5
公務員	4
サービス業	4
子どもに携わる仕事	4
小売業、販売業	3
営業	3
医療職	3
あんま、マッサージ	3
I T 関係	3
個人事業主	3
電気工事	3
クリーニング	3
食品関連	3
研究職	2
管理職	2
ビル管理	2
海に携わる仕事	2
接客	2
自動車整備	2
会社員	2
会社役員	2
ライター、イラストレーター	2
技術職	1
商品企画	1
インターネット関連	1
専門職	1
体操指導	1
窓口業務	1
設計	1
新聞配達	1
相談業務	1
農業	1
縫製	1
不動産経営	1
印刷業	1

(11) 現在の仕事の満足度

全体では、「満足している」と「おおむね満足している」をあわせた“満足している”の割合が74.8%、「少し不満である」と「不満である」をあわせた“不満である”の割合が21.1%となっています。

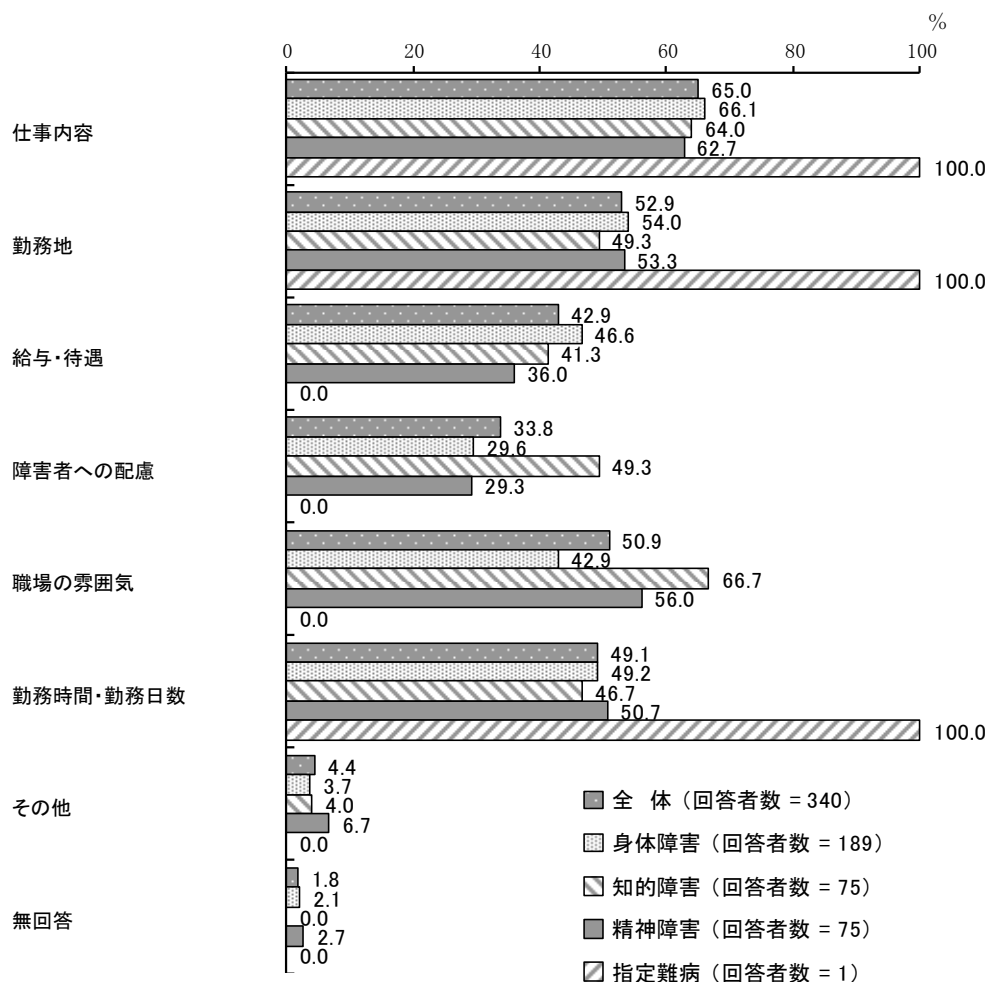
障害別でみると、精神障害に比べ、身体障害、知的障害で“満足している”の割合が高く、約8割となっています。また、精神障害で“不満である”の割合が高く、約3割となっています。



(12) 現在の仕事に満足な点

全体では、「仕事内容」の割合が65.0%と最も高く、次いで「勤務地」の割合が52.9%、「職場の雰囲気」の割合が50.9%となっています。

障害別でみると、他に比べ、知的障害で「障害者への配慮」「職場の雰囲気」の割合が高くなっています。

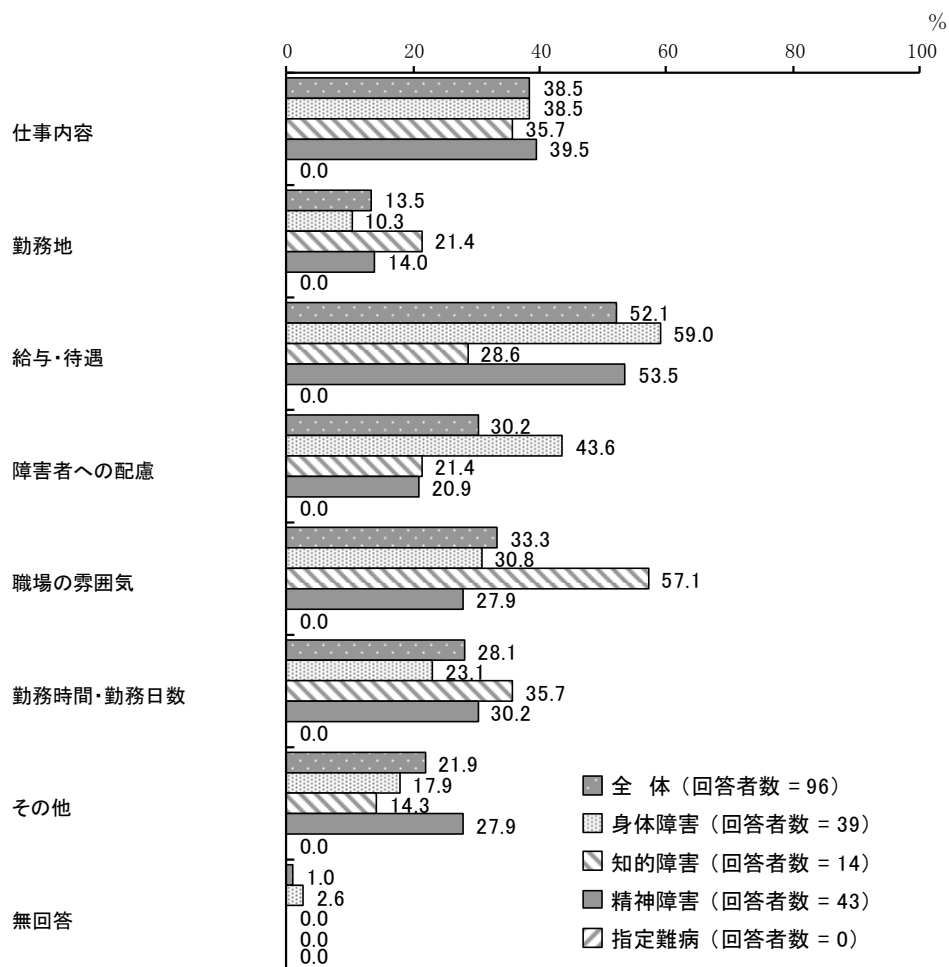


「その他」の現在の仕事に満足な点	件数
人間関係	4
希望の職種だった	2
継続して働けている	2
安全に仕事できる	1
障害を伝えなくてよい	1
働かせてもらえる	1
仲間がいる	1
在宅でできる	1
通院への配慮がある	1
周りの配慮	1
食事が美味しい	1

(13) 現在の仕事の不満な点

全体では、「給与・待遇」の割合が 52.1%と最も高く、次いで「仕事内容」の割合が 38.5%、「職場の雰囲気」の割合が 33.3%となっています。

障害別でみると、他に比べ、身体障害で「給与・待遇」の割合が、知的障害で「職場の雰囲気」の割合が高く、約6割となっています。

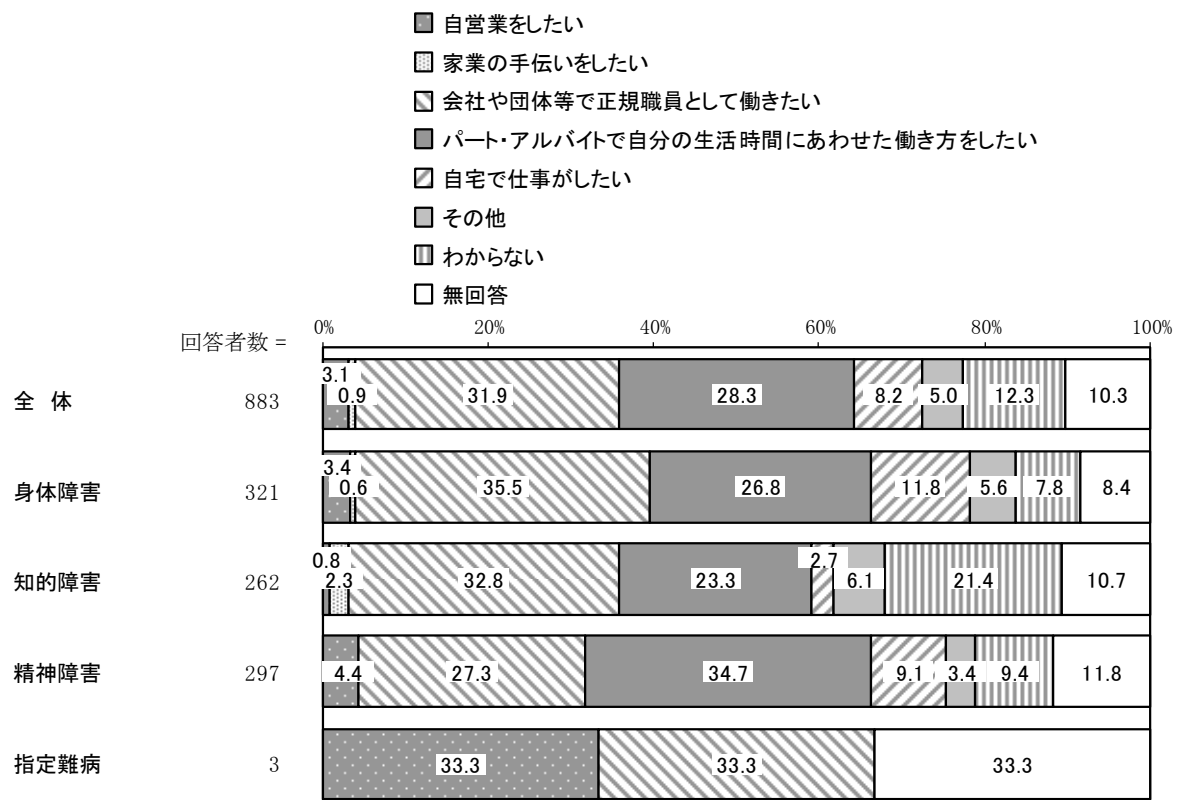


「その他」の現在の仕事に満足な点	件数
人間関係	6
体力	3
仕事を制限される	1
休日出勤	1
見通しがつかない	1
疲れる	1
経済状況に左右される	1
継続雇用の保証がない	1
思うように働けない	1
収入が不安定	1
健常者と同等の働きを求められる	1
パワーハラスメント	1
仕事を与えられない	1
希望の職種でない	1
残業	1
連絡不足	1
働きたくない	1
不規則出勤	1

(14) 今後の希望する働き方

全体では、「会社や団体等で正規職員として働きたい」の割合が31.9%と最も高く、次いで「パート・アルバイトで自分の生活時間にあわせた働き方をしたい」の割合が28.3%、「わからない」の割合が12.3%となっています。

障害別でみると、他に比べ、精神障害で「パート・アルバイトで自分の生活時間にあわせた働き方をしたい」の割合が高く、3割台半ばとなっています。

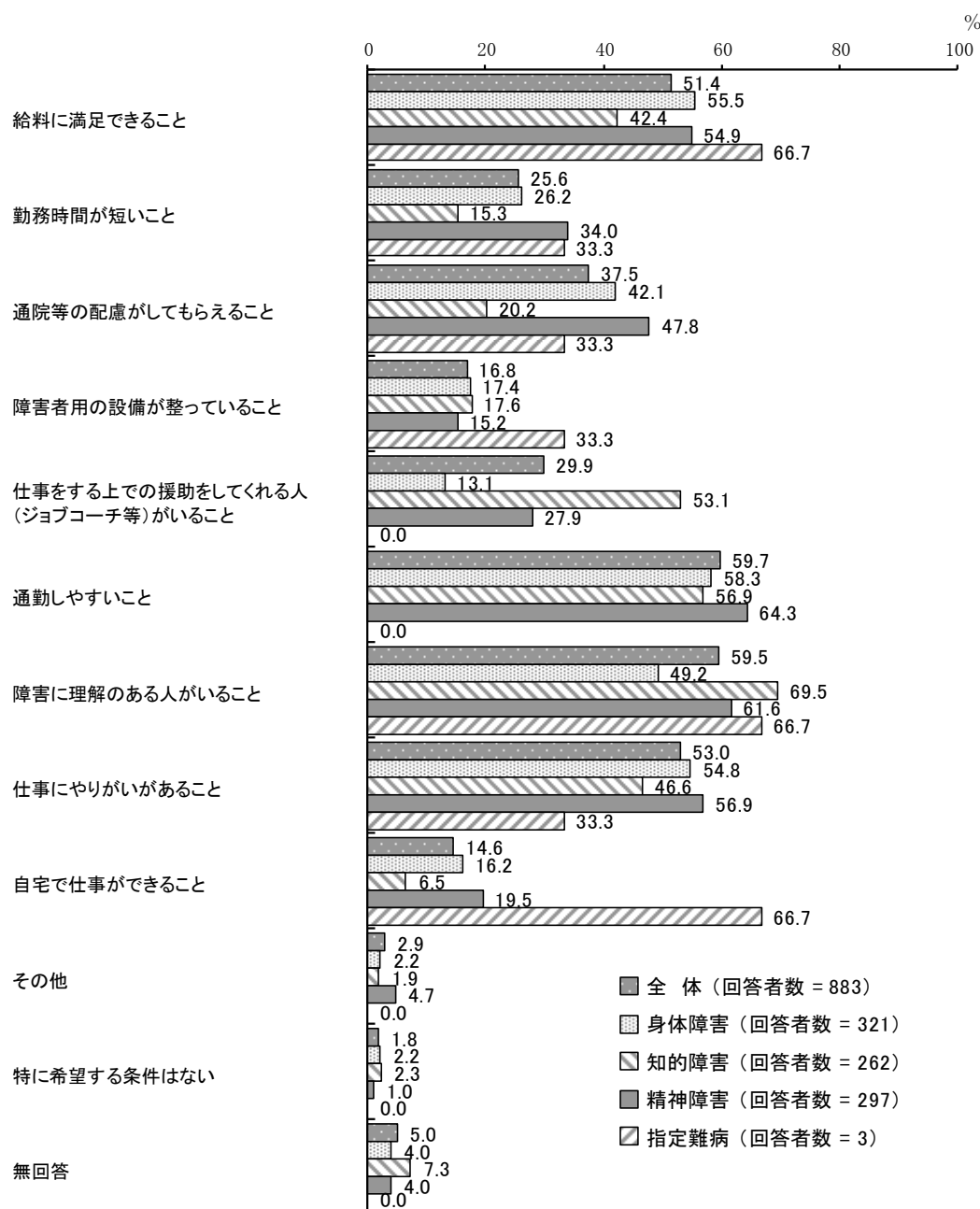


「その他」の今後の希望する働き方	件数
現在のままでよい	12
自分にあった仕事	4
相談支援	4
福祉作業所で働きたい	3
昔からの夢	3
通勤しやすい場所	2
アルバイト	2
公務員	2
社会の役に立つこと	2
在宅ワーク	2
収入を増やしたい	2
障害者施設で働きたい	2
講演活動	1
軽作業	1
資格取得	1
趣味と両立できる	1
芸人	1
会社経営	1
就労支援事業所で就労したい	1
自立したい	1
農業	1
嘱託社員	1
退職したい	1

(15) 仕事を選ぶ際の条件

全体では、「通勤しやすいこと」の割合が 59.7%と最も高く、次いで「障害に理解のある人がいること」の割合が 59.5%、「仕事にやりがいがあること」の割合が 53.0%となっています。

障害別でみると、他に比べ、知的障害で「障害に理解のある人がいること」の割合が高く、約 7割となっています。また、身体障害、精神障害で「給料に満足できること」の割合が高く、5割台半ばとなっています。

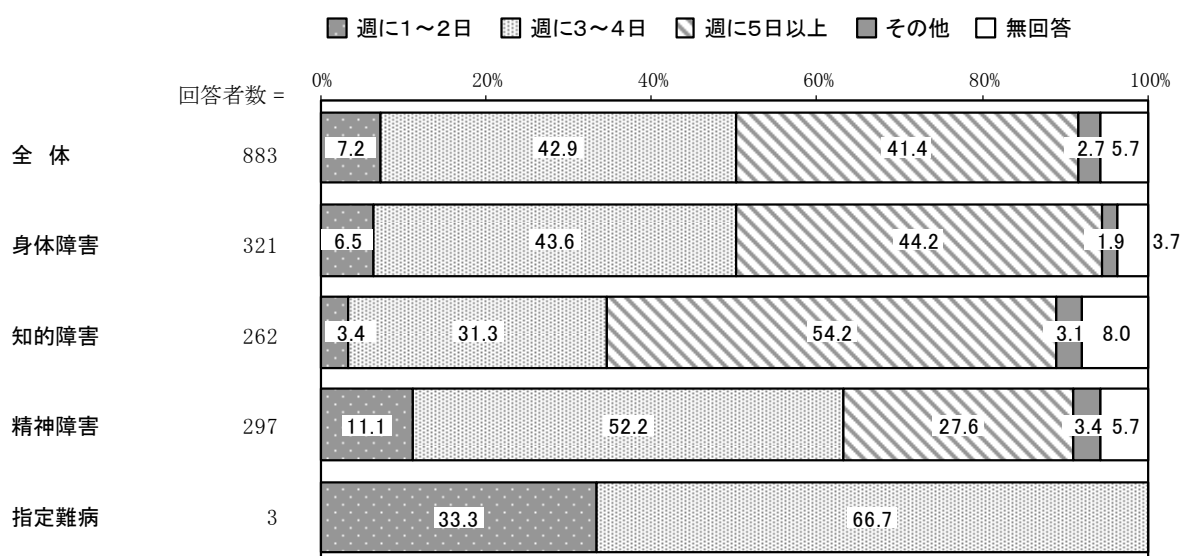


「その他」の仕事を選ぶ際の条件	件数
人間関係	4
休日数	3
本人の適性	3
人の役に立つ、社会貢献	3
障害に理解がある	3
休みのとりやすさ	2
給与	2
通勤方法	1
子育てと両立	1
勤務時間	1
人と接しなくてよい	1
通勤時間	1

(16) 1週間当たりの希望労働日数

全体では、「週に3～4日」の割合が42.9%と最も高く、次いで「週に5日以上」の割合が41.4%となっています。

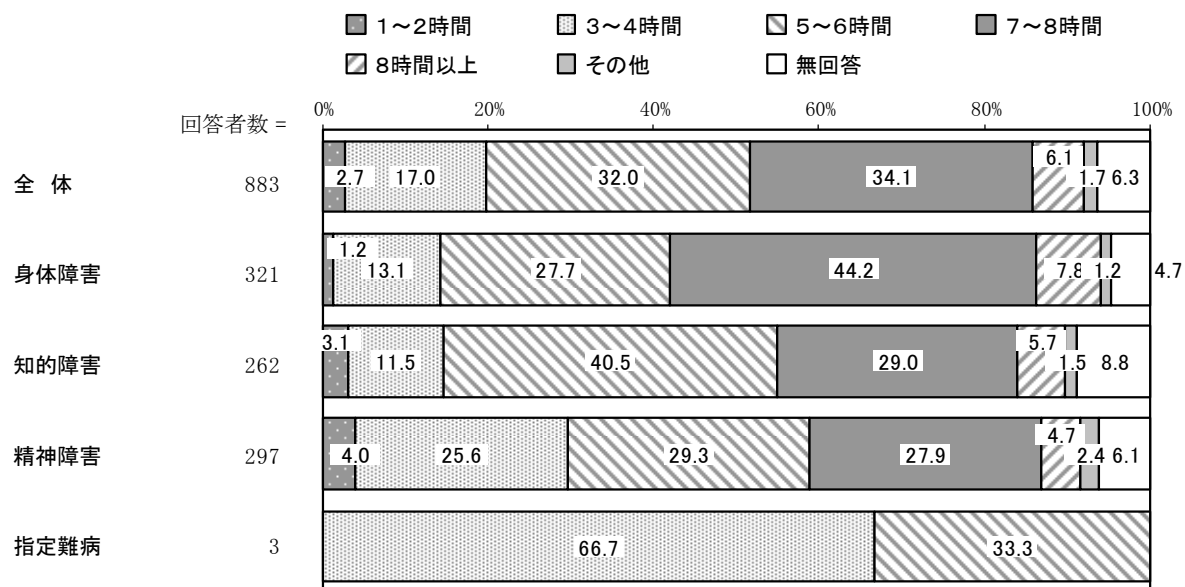
障害別でみると、他に比べ、知的障害で「週に5日以上」の割合が、精神障害で「週に3～4日」の割合が高く、5割を超えています。



(17) 1日あたりの希望労働時間

全体では、「7～8時間」の割合が34.1%と最も高く、次いで「5～6時間」の割合が32.0%、「3～4時間」の割合が17.0%となっています。

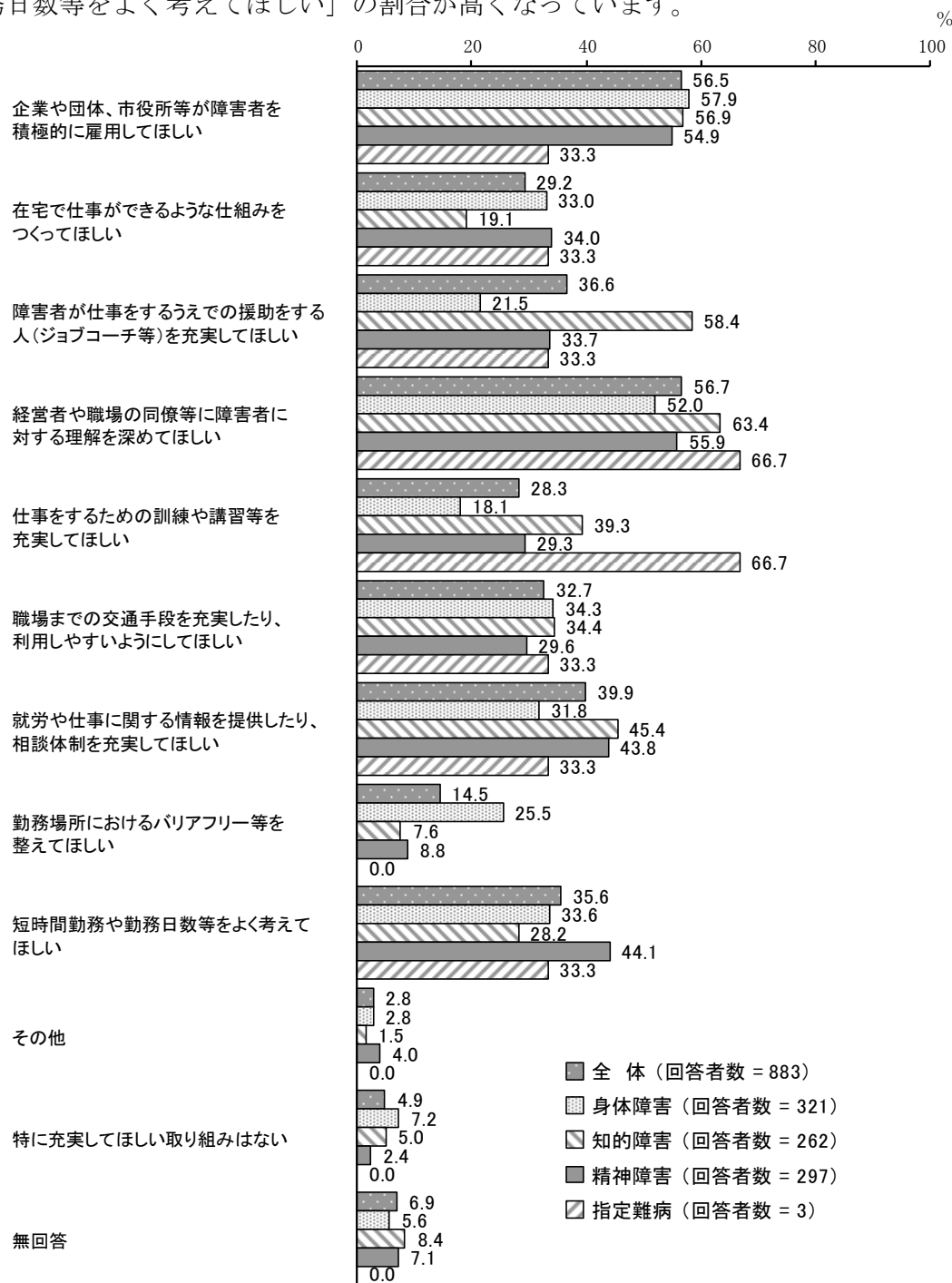
障害別でみると、他に比べ、身体障害で「7～8時間」の割合が、知的障害で「5～6時間」の割合が高く、4割を超えています。



(18) 働くにあたって充実して欲しい取組

全体では、「経営者や職場の同僚等に障害者に対する理解を深めてほしい」の割合が 56.7%と最も高く、次いで「企業や団体、市役所等が障害者を積極的に雇用してほしい」の割合が 56.5%、「就労や仕事に関する情報を提供したり、相談体制を充実してほしい」の割合が 39.9%となっています。

障害別でみると、他に比べ、知的障害で「障害者が仕事をするうえでの援助をする人（ジョブコーチ等）を充実してほしい」「経営者や職場の同僚等に障害者に対する理解を深めてほしい」「仕事をするための訓練や講習等を充実してほしい」の割合が高くなっています。また、身体障害で「勤務場所におけるバリアフリー等を整えてほしい」の割合が、精神障害で「短時間勤務や勤務日数等をよく考えてほしい」の割合が高くなっています。



「その他」の働くにあたって充実してほしい取組	件数
障害への理解	5
給与の改善	3
休暇のとりやすさ	2
通勤時のヘルパー支援	2
休憩	1
手続きの簡素化	1
職場の施設	1
治療との両立	1
市の雇用	1
健常者との関係	1
タイムスケジュール	1
就労センターとの連携	1
臨機応変の対応	1
通勤方法	1

〔仕事に関するご意見欄：仕事について、あなたのご意見をお書きください。〕

仕事についての意見	件数
障害への理解について	23
就労したい	12
障害者雇用の増加	11
生きがい、やりがい	10
人間関係	9
給与、勤務条件	8
在宅ワーク	7
各個人にあった業務	7
現在の仕事の継続	5
研修、業務内容の説明	5
欠勤、早退への対応	5
職場のバリアフリー	4
障害による差別をなくす	4
職場体験	3
勤務時間	3
社会貢献	2
相談体制	2
業務内容	2
希望職種	2
家事・育児との両立	2
定年後の再雇用	2
働けない	2
サポート体制	1
自営業、フリーランスのサポート	1
趣味を仕事に	1
情報提供	1
コミュニケーション	1
退勤後のサービス	1
通勤方法	1
柔軟な体制	1
障害によるリスク	1
介護車の仕事	1
資格	1
税金	1
体力等、身体について	1

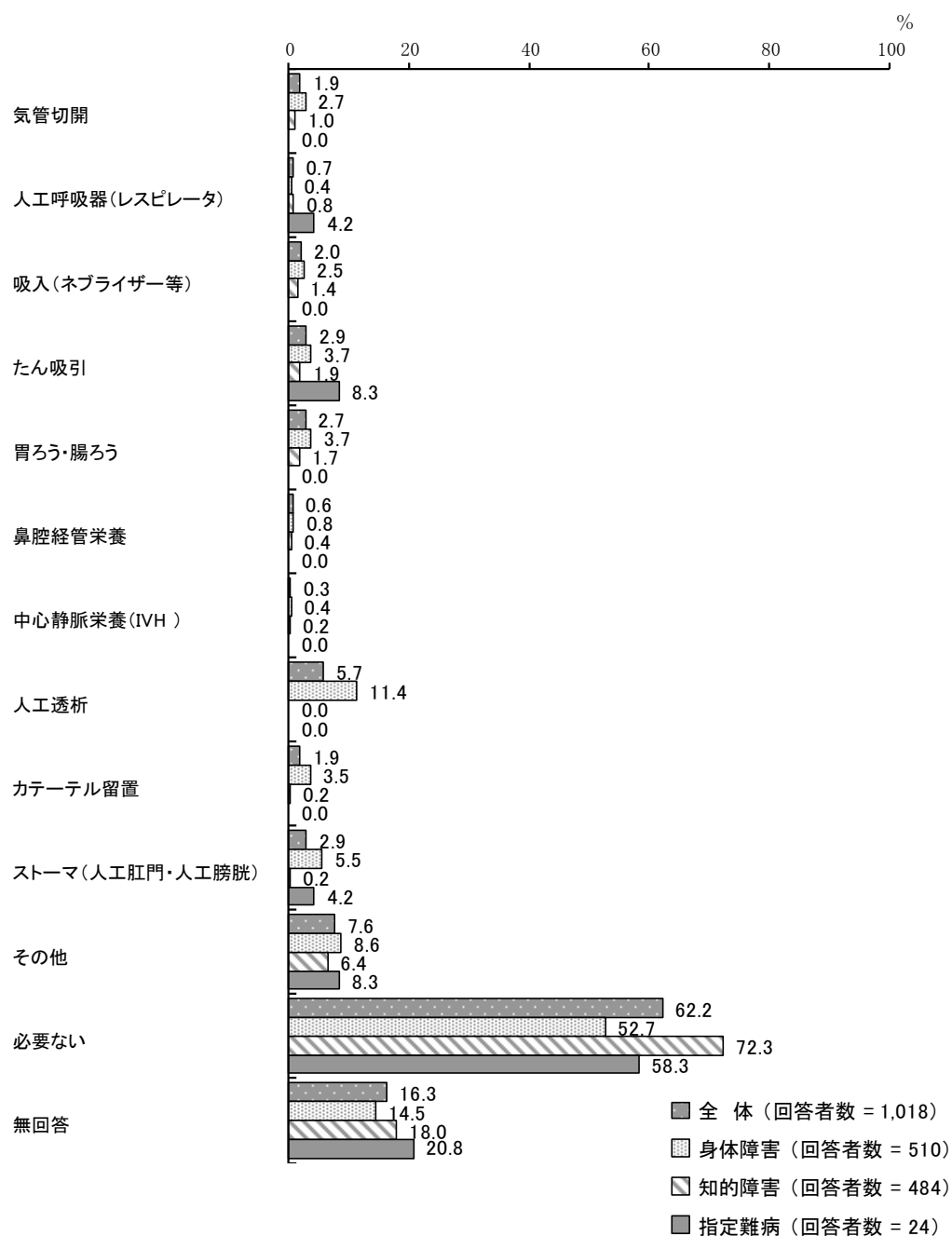
5 医療ケアについて

(1) 身体障害、知的障害、難病の方の必要な医療ケア

身体障害・知的障害・指定難病では、「必要ない」の割合が62.2%と最も高くなっています。

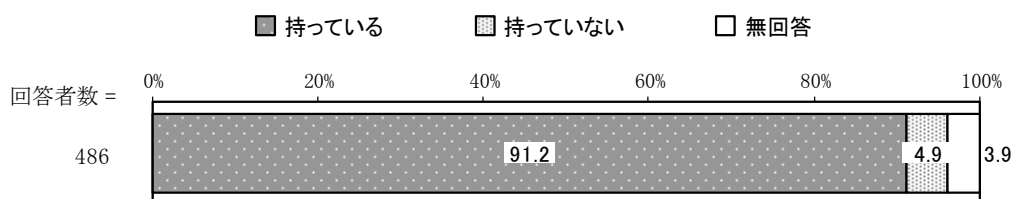
障害別でみると、他に比べ、知的障害で「必要ない」の割合が高く、約7割となっています。

また、身体障害で「人工透析」の割合が高く、約1割となっています。



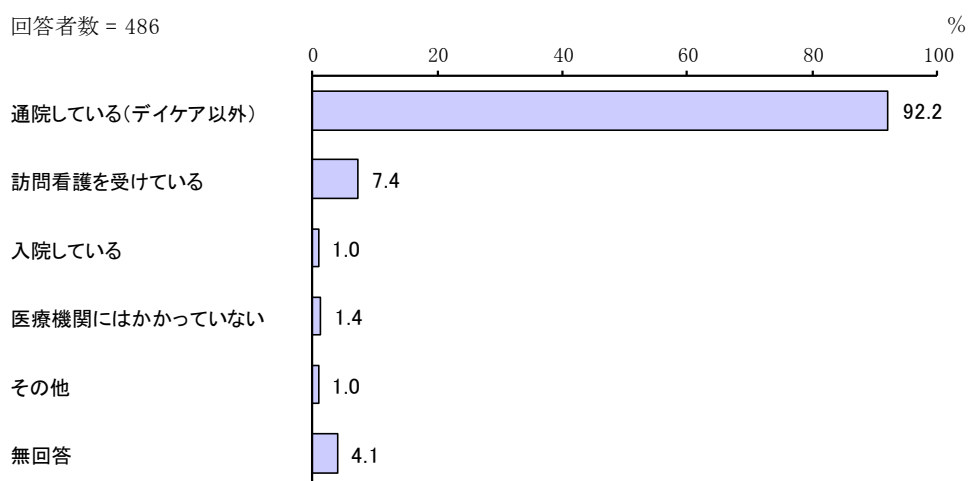
（２）精神障害の方の自立支援医療受給者証の有無

精神障害では、「持っている」の割合が 91.2%、「持っていない」の割合が 4.9%となっています。



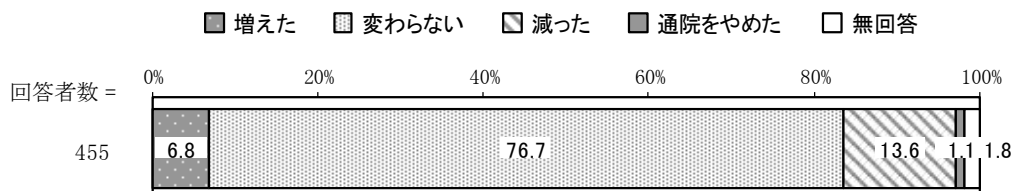
（３）精神障害の方の現在の医療の状況

精神障害では、「通院している（デイケア以外）」の割合が 92.2%となっています。



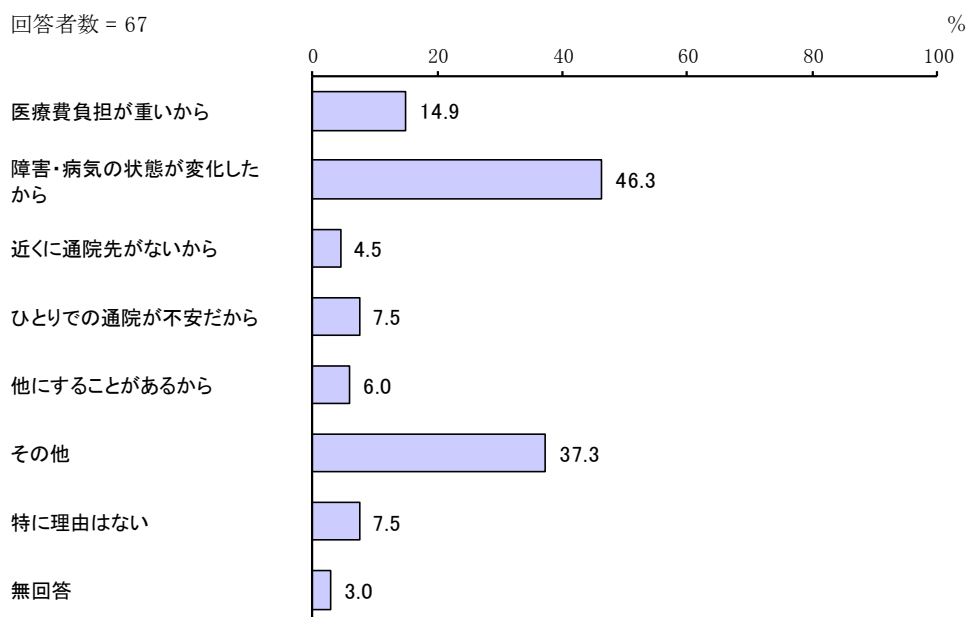
（４）精神障害の方の通院回数の変化

精神障害では、「変わらない」の割合が 76.7%と最も高く、次いで「減った」の割合が 13.6%となっています。



（５）通院回数が「減った」または「通院をやめた」事情

精神障害では、「障害・病気の状態が変化したから」の割合が 46.3%と最も高く、次いで「医療費負担が重いから」の割合が 14.9%となっています。



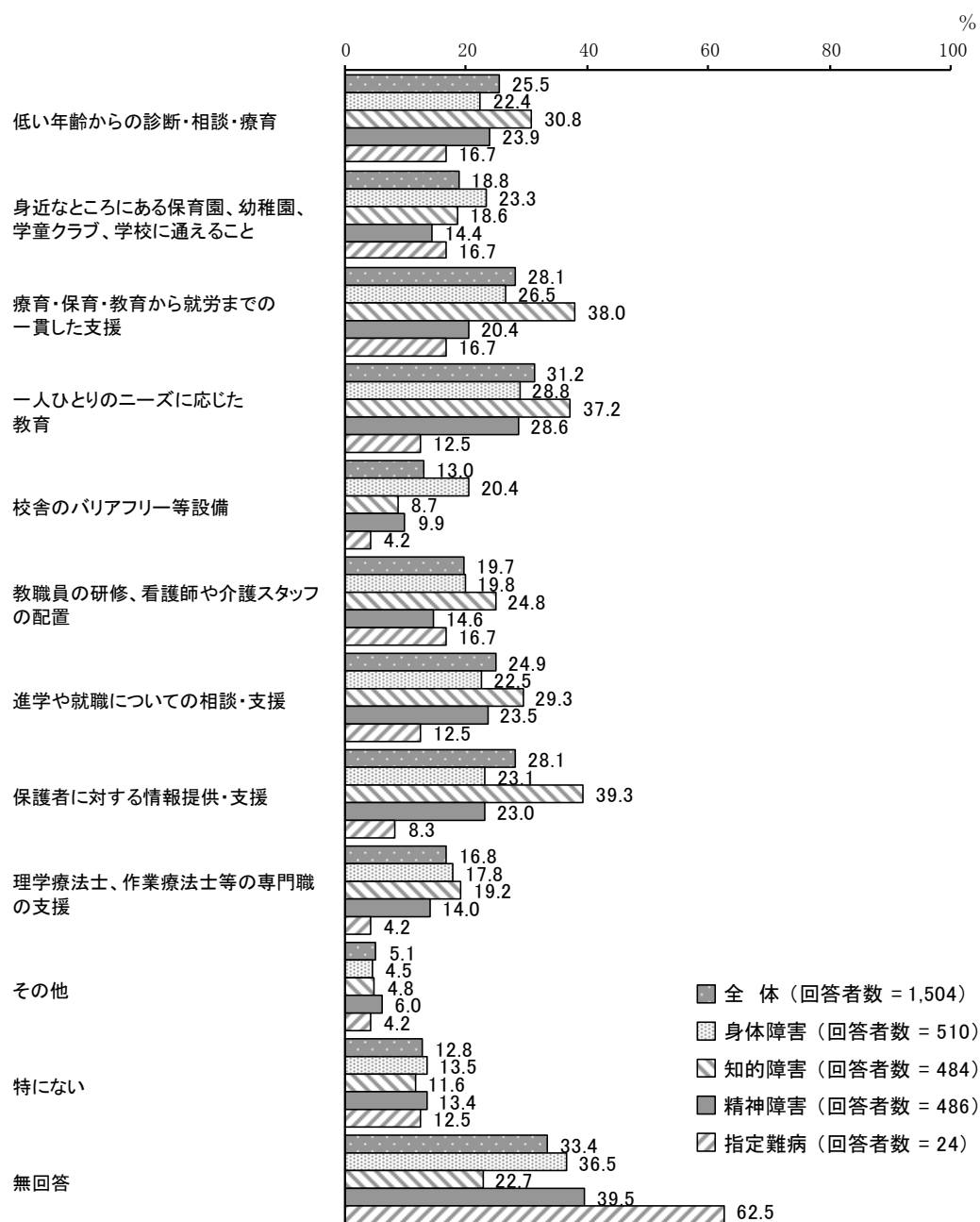
「その他」の通院回数が「減った」または「通院をやめた」事情	件数
新型コロナウイルス感染症	12
軽度のため	5
通院してもよくなるしない	3
交通費がかかる	2
投薬のみのため	1
体力的負担	1

6 教育・療育について

(1) 障害のある子どもの教育・療育で不足していること

全体では、「一人ひとりのニーズに応じた教育」の割合が 31.2%と最も高く、次いで「療育・保育・教育から就労までの一貫した支援」、「保護者に対する情報提供・支援」の割合が 28.1%となっています。

障害別でみると、他に比べ、知的障害で「療育・保育・教育から就労までの一貫した支援」「一人ひとりのニーズに応じた教育」「保護者に対する情報提供・支援」の割合が高く、約4割となっています。また、身体障害で「校舎のバリアフリー等設備」の割合が高く、約2割となっています。



「その他」の障害のある子どもの教育・療育で不足していること	件数
障害に対する理解	21
移動支援、送迎支援	5
愛情、やさしさ	4
学齢が上がっても続く支援	2
通常級への受け入れ	2
長く携わるスタッフ	2
障害児教育の見直し	2
教師の専門性	2
サポート全般の充実	2
情報提供	1
人権意識	1
就労支援	1
インクルーシブ教育	1
周囲の積極的支援	1
障害者施設スタッフの充実、待遇改善	1
差別をなくす	1
虐待防止	1
リモート学習	1
健常児の体験学習	1
性教育	1
医療との連携	1
厳しさ	1

(2) 通学している学校等への不安・不満

1. 保育所、幼稚園、認定こども園等

「その他」の保育所、幼稚園、認定こども園等への不安・不満	件数
教職員の障害に対する理解	10
障害に応じた対応	3
設備、バリアフリー	3
差別	2
教職員による差別	1
預かり時間	1
送迎バス	1
親への非難	1
入園拒否	1
ケガ	1
加配を受けられない	1
親の負担	1
障害に気づいてもらえない	1
道路の危険	1
いじめ	1

2. 小学校、中学校（通常学級）

「その他」の小学校、中学校（通常学級）への不安・不満	件数
教職員、児童の障害に対する理解	26
差別、いじめ	15
バリアフリー	5
学校行事への参加	2
不登校	2
他の保護者の理解	1
地域の交流	1
転校の圧力	1

3. 小学校、中学校（特別支援学級）

「その他」の小学校、中学校（特別支援学級）への不安・不満	件数
教職員、児童・生徒の障害に対する理解	19
職員が少ない	4
バリアフリー	3
支援がほとんどない	3
通常級との交流	2
生徒同士の関係	2
個性の把握	2
学童保育	1
進路の選択肢	1
学校での様子がわからない	1
担任が変わる	1
情報提供が乏しい	1
いじめ	1
読唇術の強制	1

4. 高校

「その他」の高校への不安・不満	件数
教職員、生徒の障害に対する理解	14
バリアフリー	7
いじめ	2
進路相談の充実	2
学校行事への参加	1
トイレの心配	1
衛生面	1
病気への配慮	1
教職員の不足	1
中退	1

5. 特別支援学校（小中高等部）

「その他」の特別支援学校（小中高等部）への不安・不満	件数
教職員の障害に対する理解	22
就職先がない、進路情報が乏しい	9
バリアフリー、設備の老朽化	5
いじめ、人間関係、体罰	4
通学手段	3
教職員の不足	3
送迎バス	2
コロナ禍下でのサポート	2
差別	1
ブールがない	1
読唇術の強制	1
手話が使えない	1
勉強のレベルが合っていない	1

6. 専門学校、大学等

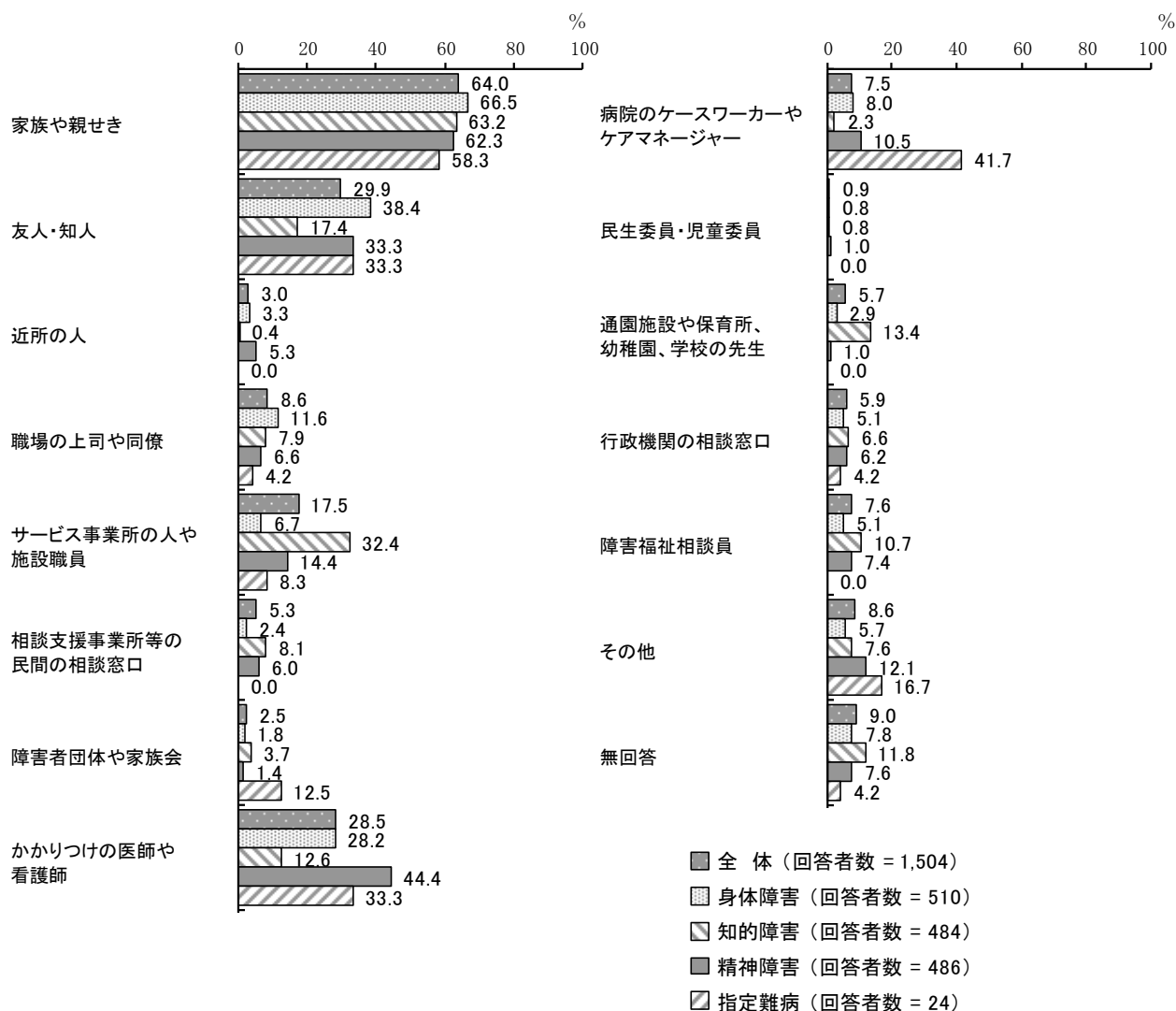
「その他」の専門学校、大学等への不安・不満	件数
障害に対する理解	13
バリアフリー	8
いじめ	4
就職活動のサポートがない	3
体力がなく実習についていけない	1
就職に適正を考慮してもらえない	1
読唇術の強制	1
プライバシー侵害	1

7 相談相手や情報の入手について

(1) 悩みや困った時の相談先

全体では、「家族や親せき」の割合が64.0%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が29.9%、「かかりつけの医師や看護師」の割合が28.5%となっています。

障害別でみると、他に比べ、精神障害で「かかりつけの医師や看護師」の割合が高く、4割台半ばとなっています。また、身体障害で「友人・知人」の割合が、指定難病で「病院のケースワーカーやケアマネージャー」の割合が高く、約4割となっています。

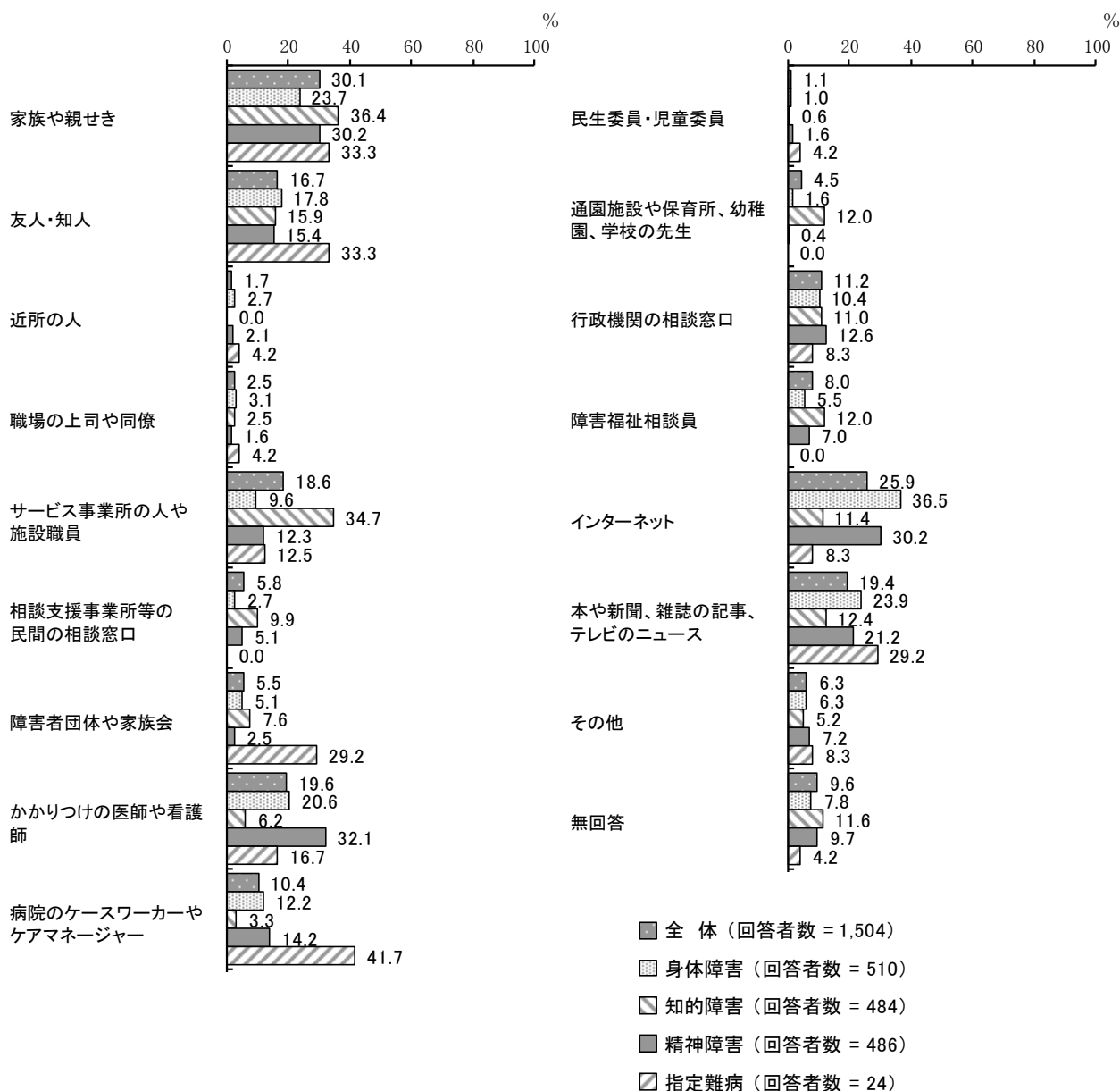


「その他」の悩みや困った時の相談先	件数
相談しない、できない	32
相談相手はいない	22
インターネット、SNS、メール相談	7
カウンセラー	7
就労援助センター	6
恋人	3
警察	2
同じ障害の人の集まり、家族会	2
教会など宗教	2
保健所	2
大切な人	1
成年後見人	1
教育委員会	1
大家	1
障害者相談サポートセンター	1
労災サポートセンター相談員	1

（２）福祉サービスなどの情報入手先

全体では、「家族や親せき」の割合が 30.1%と最も高く、次いで「インターネット」の割合が 25.9%、「かかりつけの医師や看護師」の割合が 19.6%となっています。

障害別でみると、他に比べ、指定難病で「友人・知人」「障害者団体や家族会」「病院のケースワーカーやケアマネジャー」の割合が高く、特に「病院のケースワーカーやケアマネジャー」の割合が約 4 割となっています。また、身体障害で「インターネット」の割合が、知的障害で「家族や親せき」「サービス事業所の人や施設職員」の割合が高く、3 割台半ばとなっています。



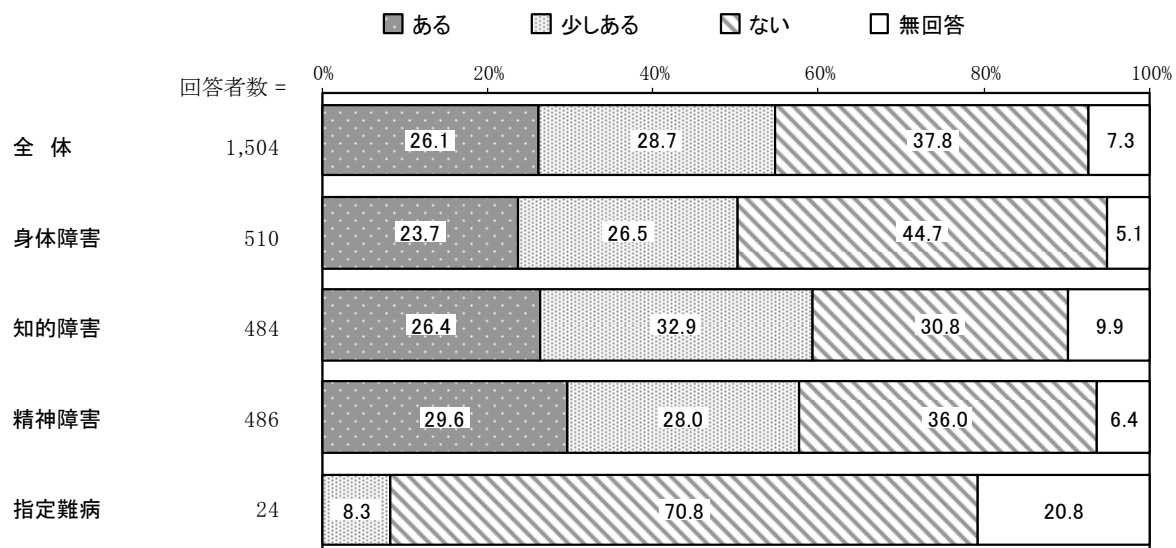
「その他」の福祉サービスなどの情報入手先	件数
入手先はない	27
同じ障害を持つ人	7
自分で調べる	3
学校の保護者同士	2
成年後見人	2
パンフレット（障害者の手引き）、広報	2
就労援助センター	2
カウンセラー	1
市からのアンケート	1
健康福祉センター	1
ケースワーカー	1
大学	1
点字図書館	1
教育委員会	1

8 権利擁護について

(1) 障害がある事による差別や嫌な思い、配慮や工夫がなく困ったこと

全体では、「ない」の割合が37.8%と最も高く、次いで「少しある」の割合が28.7%、「ある」の割合が26.1%となっています。

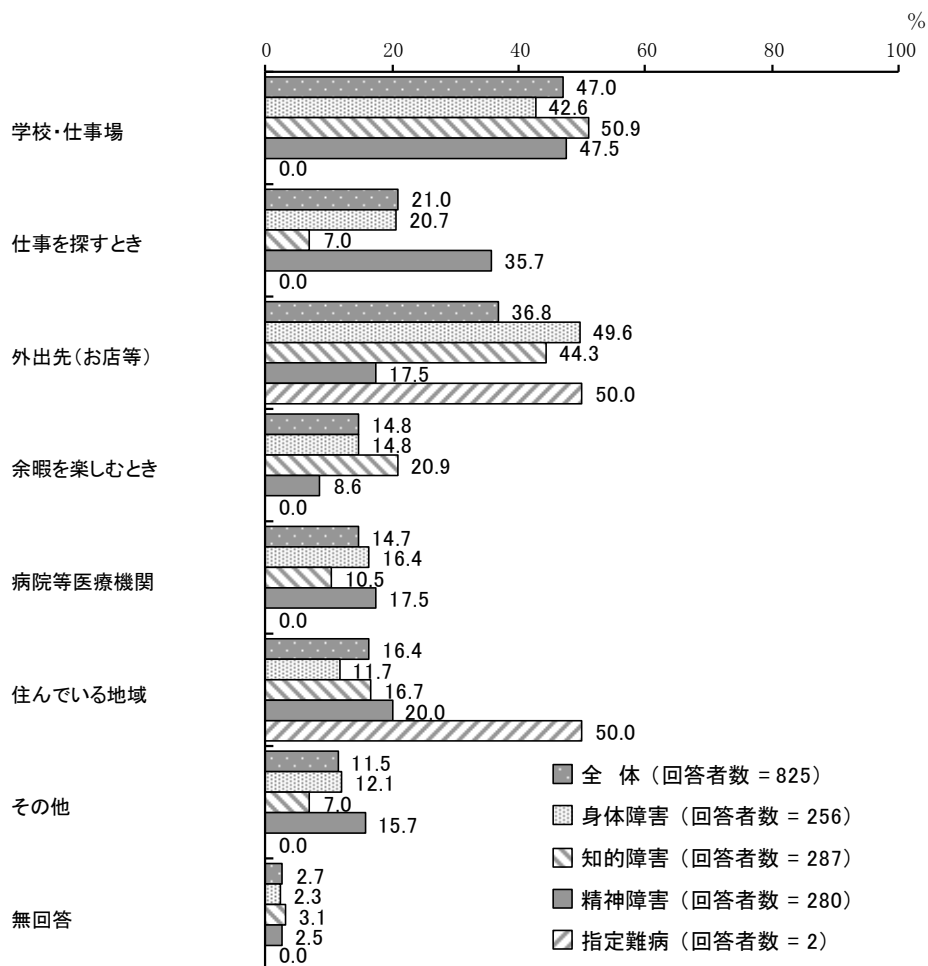
障害別でみると、他に比べ、指定難病で「ない」の割合が高く、約7割となっています。また、知的障害、精神障害で「ある」と「少しある」をあわせた“ある”の割合が高く、約6割となっています。



（２）障害がある事による差別や嫌な思い、配慮や工夫がなく困った場面

全体では、「学校・仕事場」の割合が 47.0%と最も高く、次いで「外出先（お店等）」の割合が 36.8%、「仕事を探すとき」の割合が 21.0%となっています。

障害別でみると、他に比べ、身体障害で「外出先（お店等）」の割合が、知的障害、精神障害で「学校・仕事場」の割合が高く、約 5 割となっています。



「その他」の障害がある事による差別や嫌な思い、 配慮や工夫がなく困った場面	件数
交通機関、タクシー	31
家族、親戚	17
市役所、市の施設	7
介護施設、障害者施設	3
すべての場面	3
友人、知人	3
家を探すとき	3
病院	2
神社	1
喫煙	1
復職支援事業所	1
講演会、集会	1
作業所	1
人にぶつかったとき	1
駐車場	1
幼稚園	1
トイレ	1
青少年活動	1
インターネット	1

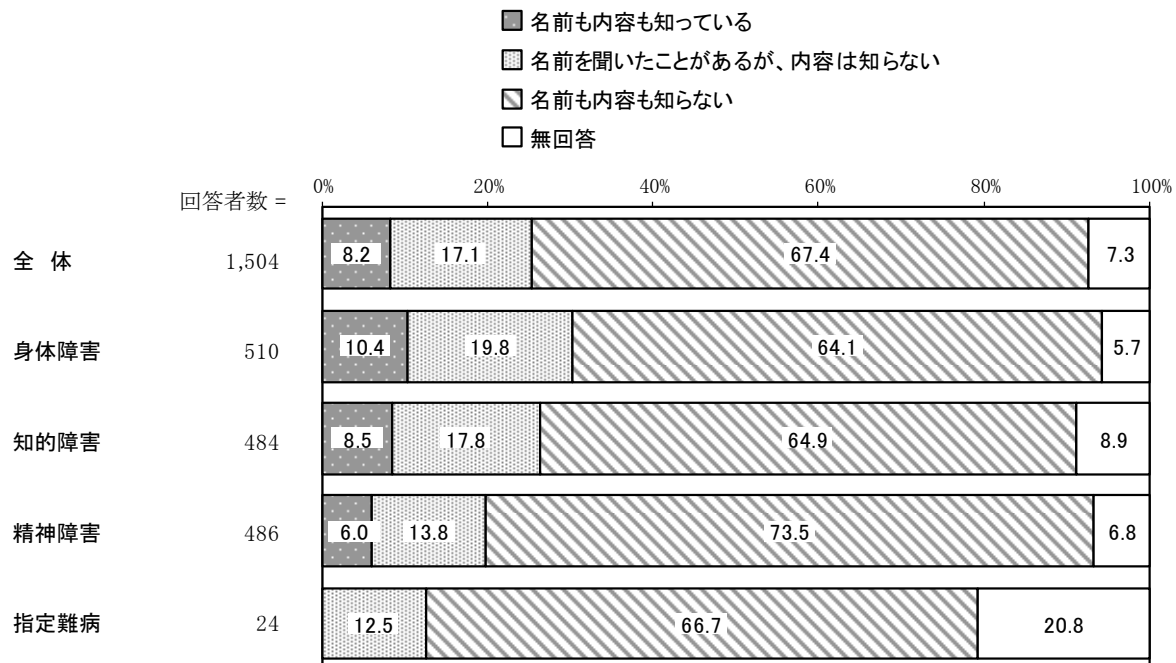
(3) 差別を受けたり嫌な思いをしたり、配慮や工夫をしてもらえなくて困った内容

差別を受けたり嫌な思いをしたり、配慮や工夫を してもらえなくて困った内容	件数
嫌味、いやがらせ、暴言、無視	100
障害への無理解	67
職場での差別、解雇、無理解	56
いじめ、差別	45
嫌な顔をされる	37
就職活動での差別	29
コミュニケーションがとれない	28
保育士、幼稚園教諭、教師の対応、言動	27
じろじろ見られる、奇異の目で見られる、指をさされる	27
病院での無配慮	22
入店拒否、施設の利用拒否	18
友人がいなくなる、悪口	17
公共交通機関での差別	13
書ききれない、書きたくない	11
設備、バリアフリー	10
トイレ、排泄	9
プライバシーの侵害	8
無関心	6
幼稚園・保育園等の入園拒否、退園の強制	6
障害者マーク、ヘルプマークが周知されていない	5
ストーマを嫌がられる	5
障害用駐車場が少ない、健常者が利用している	5
買い物がうまくできない	5
エレベーターが使えない	4
行動の制限	3
邪魔者扱いされる	3
逆差別	3
住宅を借りられない	3
地域社会での差別	2
ペースメーカーへの影響	2
放送による案内	2
引け目を感じる	2
障害者同士の関係	1
保険に入れない	1
自動車にひかれそうになる	1
調子が悪くても休めない	1
学校でのバリアフリー	1
就労環境	1
労災認定の却下	1

(4) 障害者差別解消法について

全体では、「名前も内容も知らない」の割合が 67.4%と最も高く、次いで「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合が 17.1%となっています。

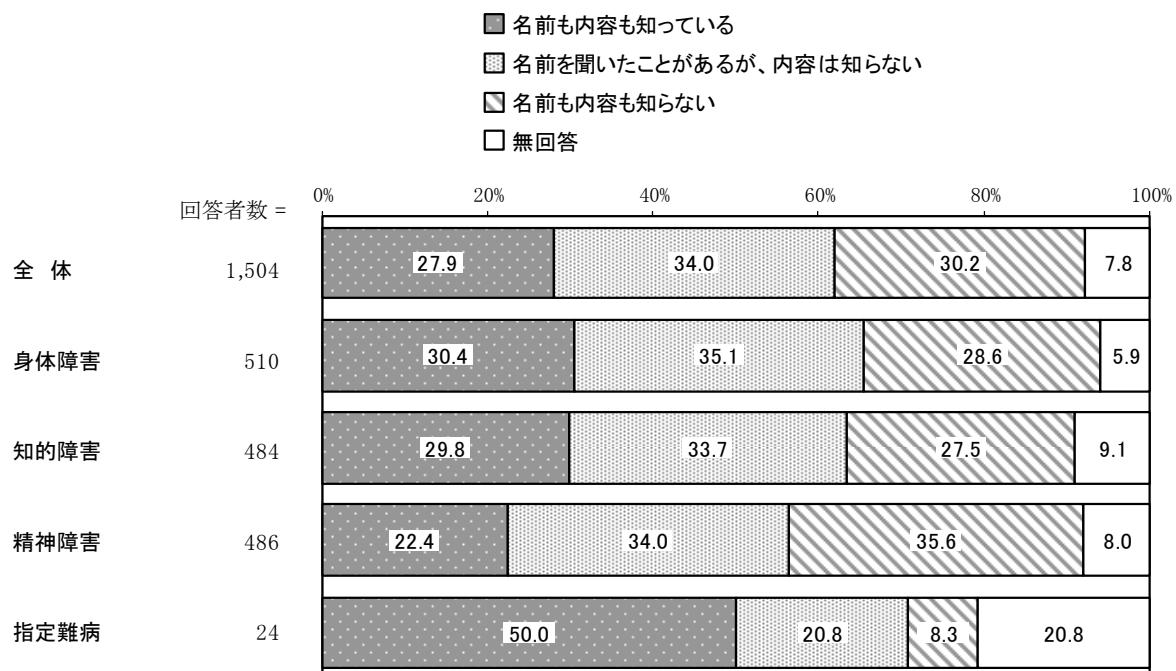
障害別でみると、他に比べ、精神障害で「名前も内容も知らない」の割合が高く、約7割となっています。



(5) 成年後見制度について

全体では、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合が 34.0%と最も高く、次いで「名前も内容も知らない」の割合が 30.2%、「名前も内容も知っている」の割合が 27.9%となっています。

障害別でみると、他に比べ、指定難病で「名前も内容も知っている」の割合が高く、5割となっています。また、精神障害で「名前も内容も知らない」の割合が高く、3割台半ばとなっています。

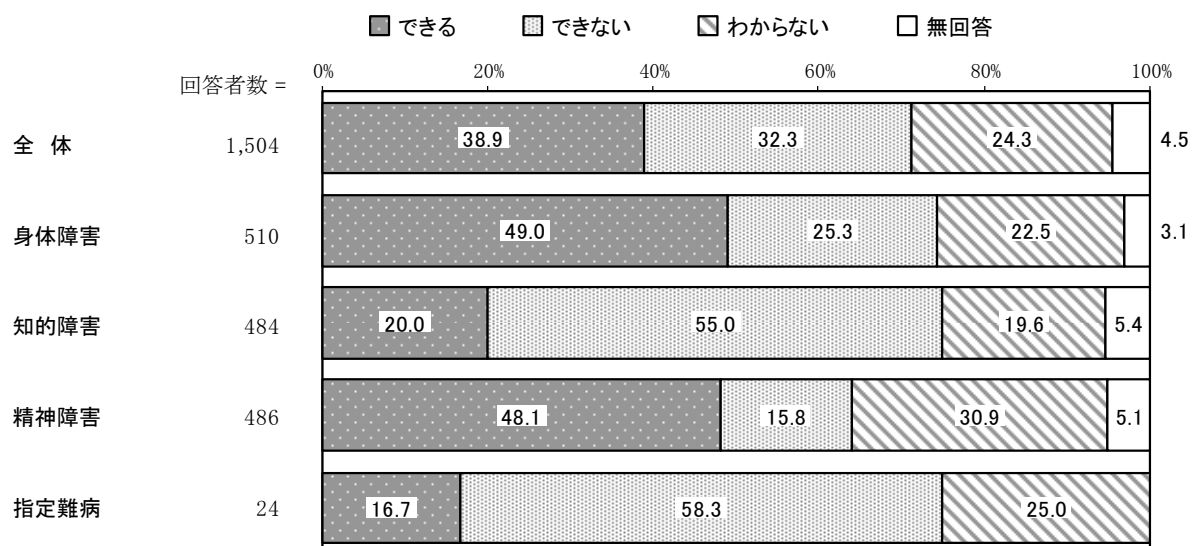


9 災害時の避難等について

(1) 火事や地震などの災害時の自力での避難

全体では、「できる」の割合が38.9%と最も高く、次いで「できない」の割合が32.3%、「わからない」の割合が24.3%となっています。

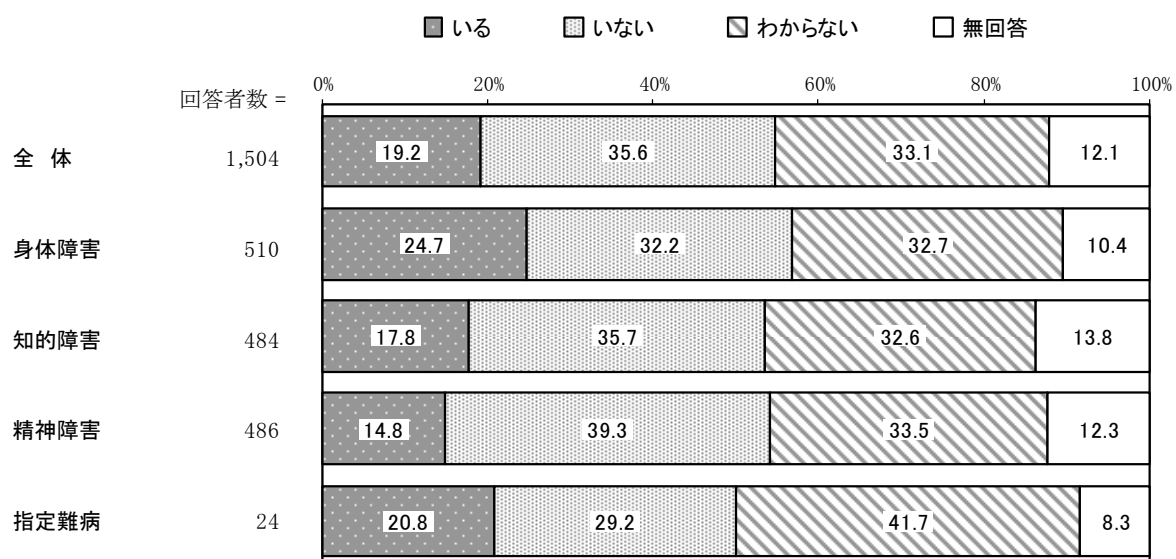
障害別でみると、他に比べ、身体障害、精神障害で「できる」の割合が高く、約5割となっています。また、知的障害、指定難病で「できない」の割合が高く、特に指定難病で約6割となっています。



(2) 近所の助けてくれる人

全体では、「いない」の割合が35.6%と最も高く、次いで「わからない」の割合が33.1%、「いる」の割合が19.2%となっています。

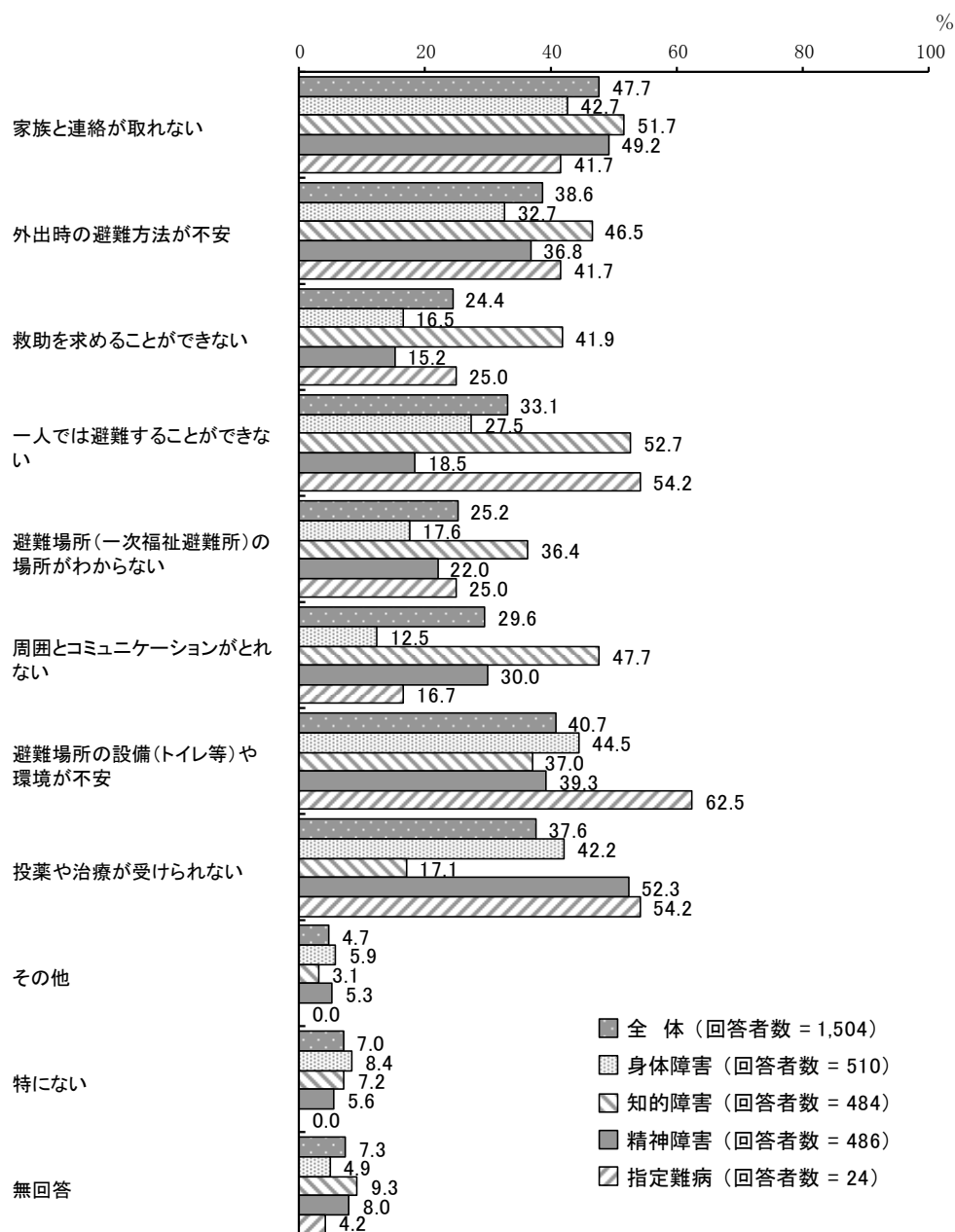
障害別でみると、他に比べ、身体障害で「いる」の割合が高く、2割台半ばとなっています。また、精神障害で「いない」の割合が高く、約4割となっています。



（３）火事や地震等の災害時に不安に思うこと

全体では、「家族と連絡が取れない」の割合が 47.7%と最も高く、次いで「避難場所の設備（トイレ等）や環境が不安」の割合が 40.7%、「外出時の避難方法が不安」の割合が 38.6%となっています。

障害別でみると、他に比べ、指定難病で「避難場所の設備（トイレ等）や環境が不安」の割合が高く、約 6 割となっています。また、知的障害、指定難病で「一人では避難することができない」の割合が、精神障害、指定難病で「投薬や治療が受けられない」の割合が高く、5 割を超えています。



「その他」の火事や地震等の災害時に不安に思うこと	件数
避難場所に行けない	7
他人と過ごせない	5
パニック	4
装具の入手・ケア	4
情報を得られない	3
迅速な行動ができない、避難行動がとれない	3
医療ケア	3
災害を理解できない	2
食事	2
避難用具	1
プライバシー	1
避難場所での処遇	1
助けてくれる人がいない	1
二次被害	1
薬の入手	1
ストーマのケア	1
状況を把握できない	1

問 その他の意見、市への要望等

<自由記載の意見数>

単位：件

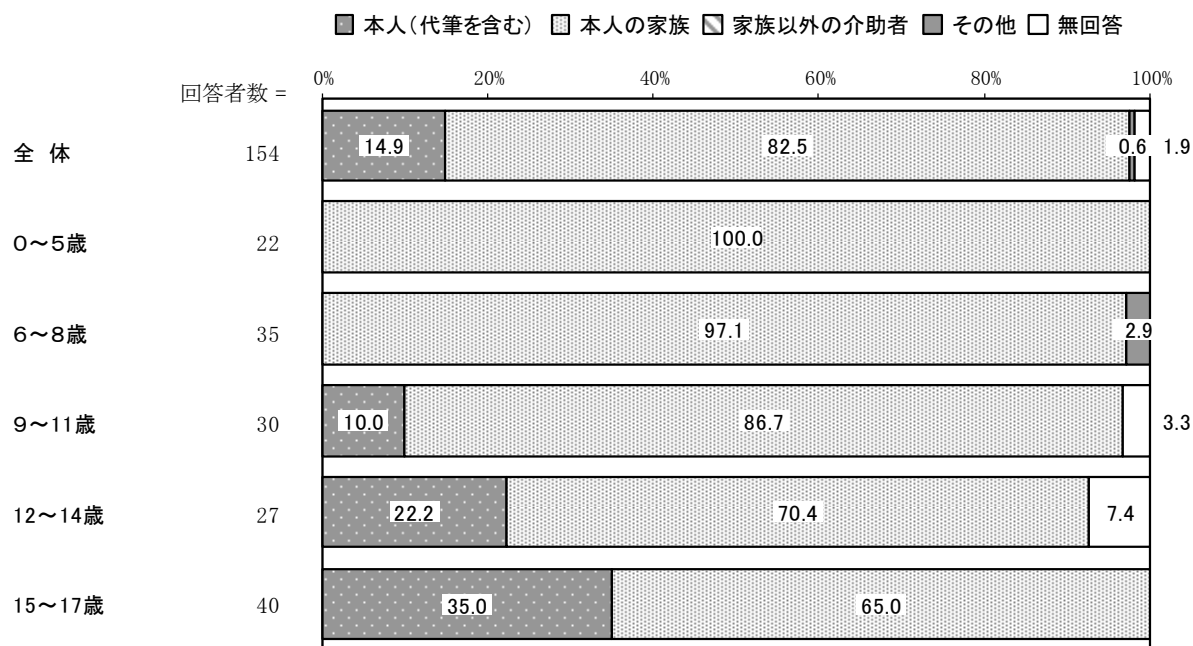
項目（内訳項目）	全体	身体障害	知的障害	精神障害	難病
1. 経済的問題・助成・就労	140	46	22	70	2
（経済的支援に対する要望）	76	26	14	34	2
（就労に関する要望や意見）	43	9	7	27	0
（経済的な不安・不満）	21	11	1	9	0
2. 障害者への理解・啓発、差別やいじめについて	49	15	20	13	1
（理解やサービスの周知についての意見・要望）	26	10	6	9	1
（差別やいじめについて）	23	5	14	4	0
3. 相談体制・制度運用に対する要望・市への要望	140	67	41	31	1
（計画・制度に対する要望・意見）	62	34	20	7	1
（相談窓口や相談体制に関する不満や要望）	43	15	14	14	0
（市政・市職員に対する不満や要望・苦言）	35	18	7	10	0
4. 設備・インフラ・施設等の苦言や要望	38	28	9	1	0
5. 将来不安・緊急時不安	52	16	24	10	2
（将来への不安）	35	9	19	7	0
（災害時等の緊急時の不安）	17	7	5	3	2
6. 人材不足・人材確保・スタッフへの不満や苦言	11	0	8	3	0
7. 申告書類の簡素化・手続省略要望	18	4	5	9	0
8. 医療・介護・教育・地域との連携および要望	15	11	2	2	0
9. その他	135	47	30	53	5
（アンケートに対する要望等）	36	11	13	10	2
（障害者施策に対する感謝の意見）	39	21	4	13	1
（その他）	60	15	13	30	2
合 計	598	234	161	192	11

Ⅲ 障害児

(1) 記入者について

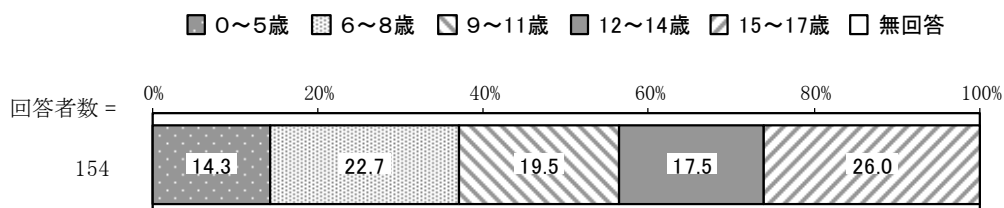
全体では、「本人の家族」の割合が 82.5%と大半を占めています。

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれ「本人（代筆を含む）」の割合が高くなっており、15～17 歳で 3 割台半ばとなっています。



(2) 年齢

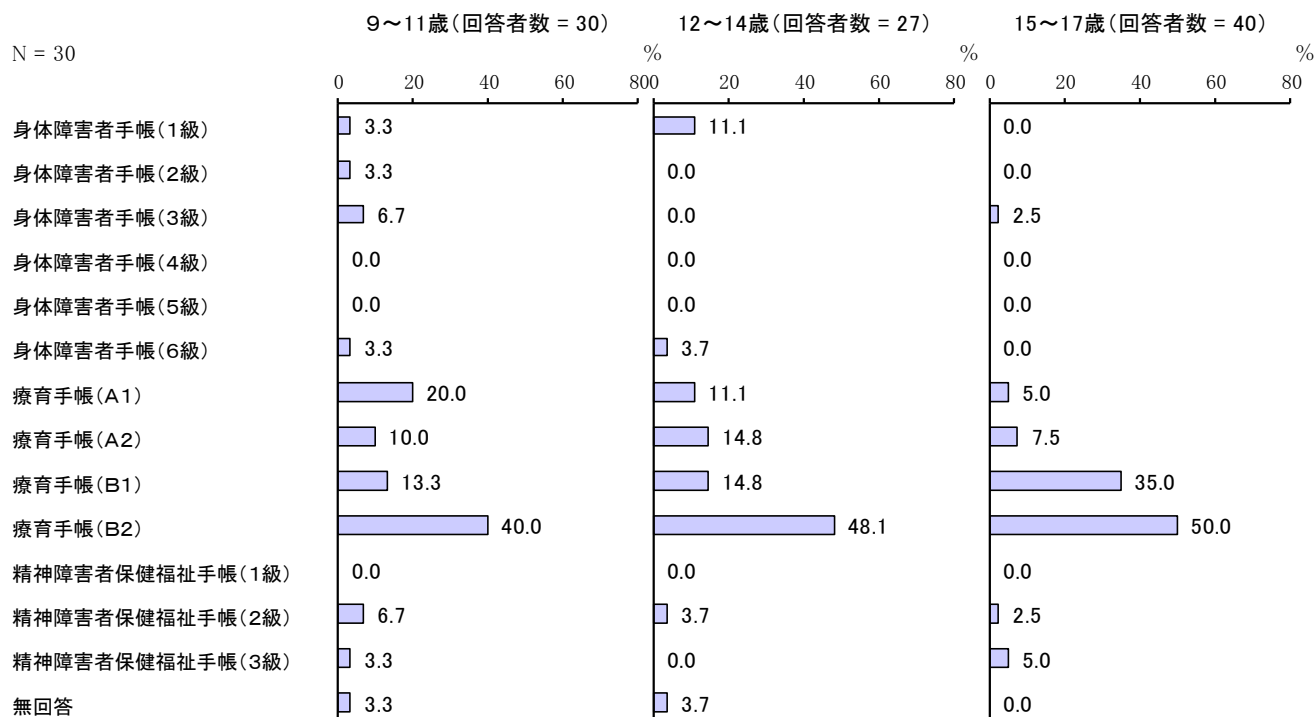
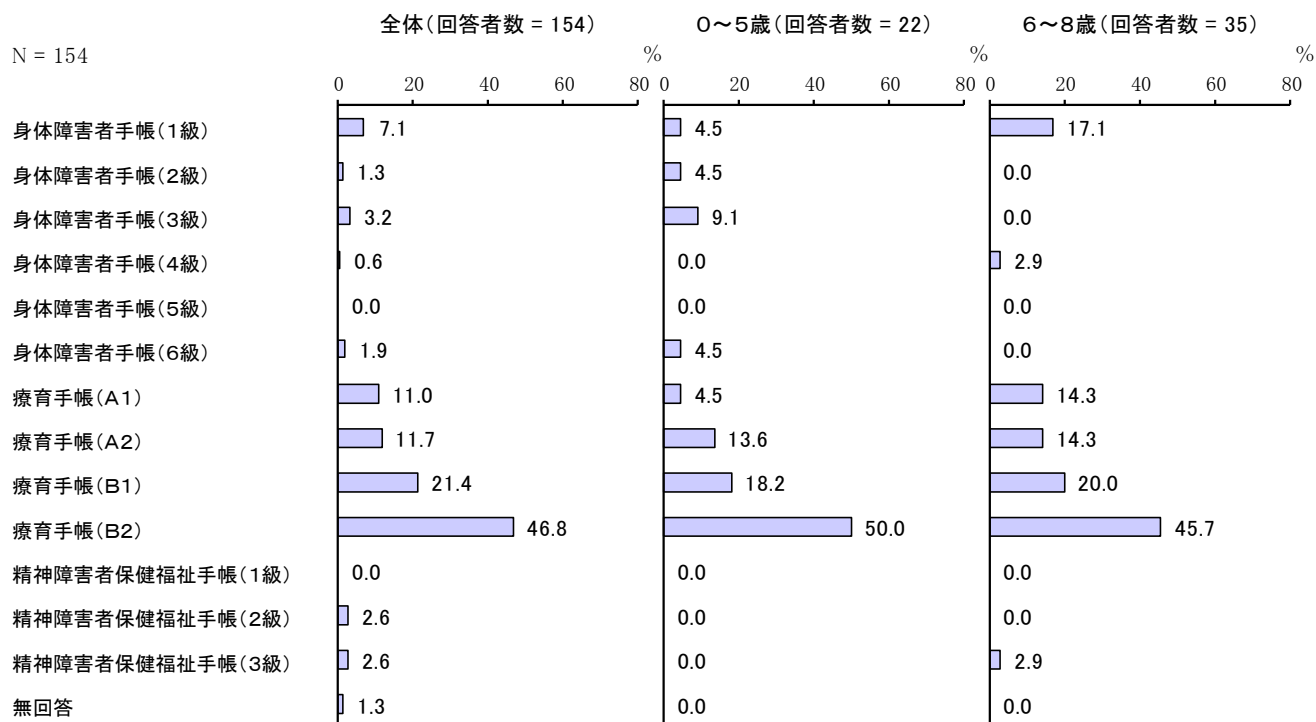
「15～17 歳」の割合が 26.0%と最も高く、次いで「6～8 歳」の割合が 22.7%、「9～11 歳」の割合が 19.5%となっています。



(3) 障害者手帳の手帳種別と障害程度

全体では、「療育手帳（B2）」の割合が46.8%と最も高く、次いで「療育手帳（B1）」の割合が21.4%、「療育手帳（A2）」の割合が11.7%となっています。

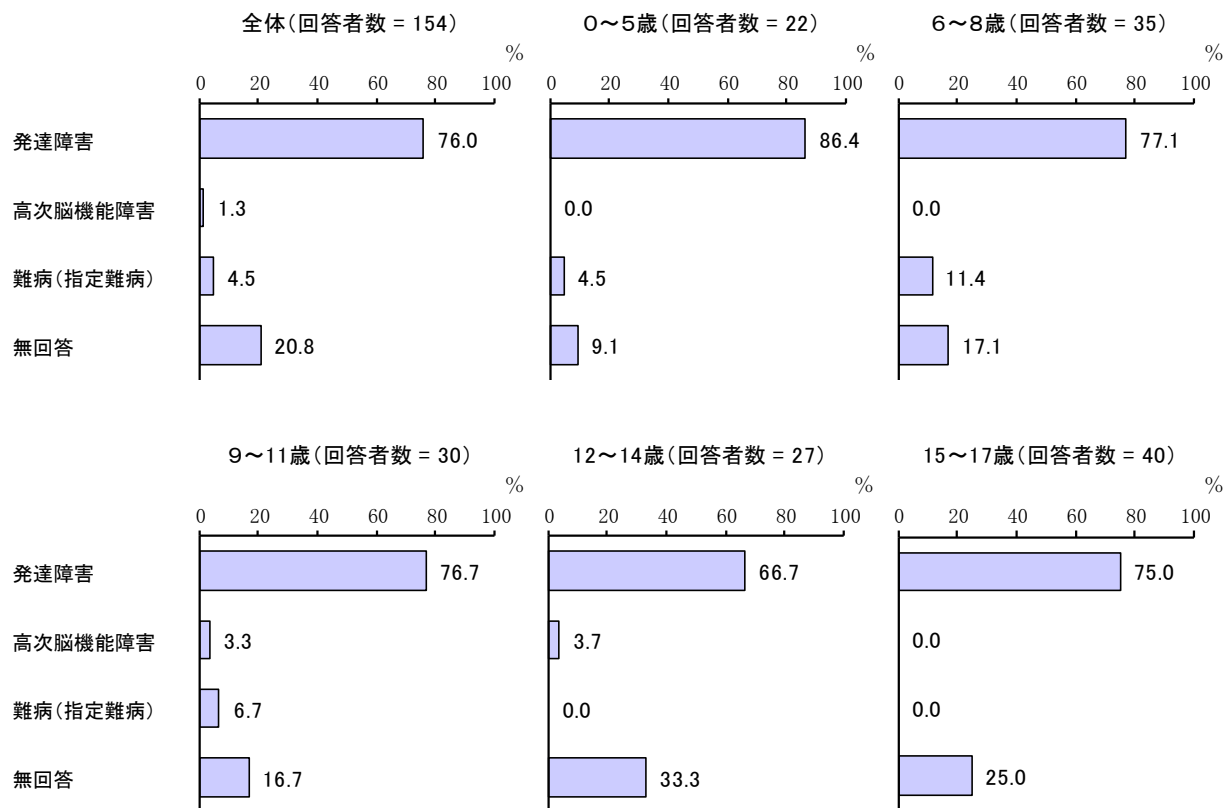
年齢別でみると、0～5歳、12～14歳、15～17歳で「療育手帳（B2）」の割合が約5割となっています。



(4) 発達障害、高次脳機能障害、指定難病等

全体では、「発達障害」の割合が76.0%と最も高くなっています。

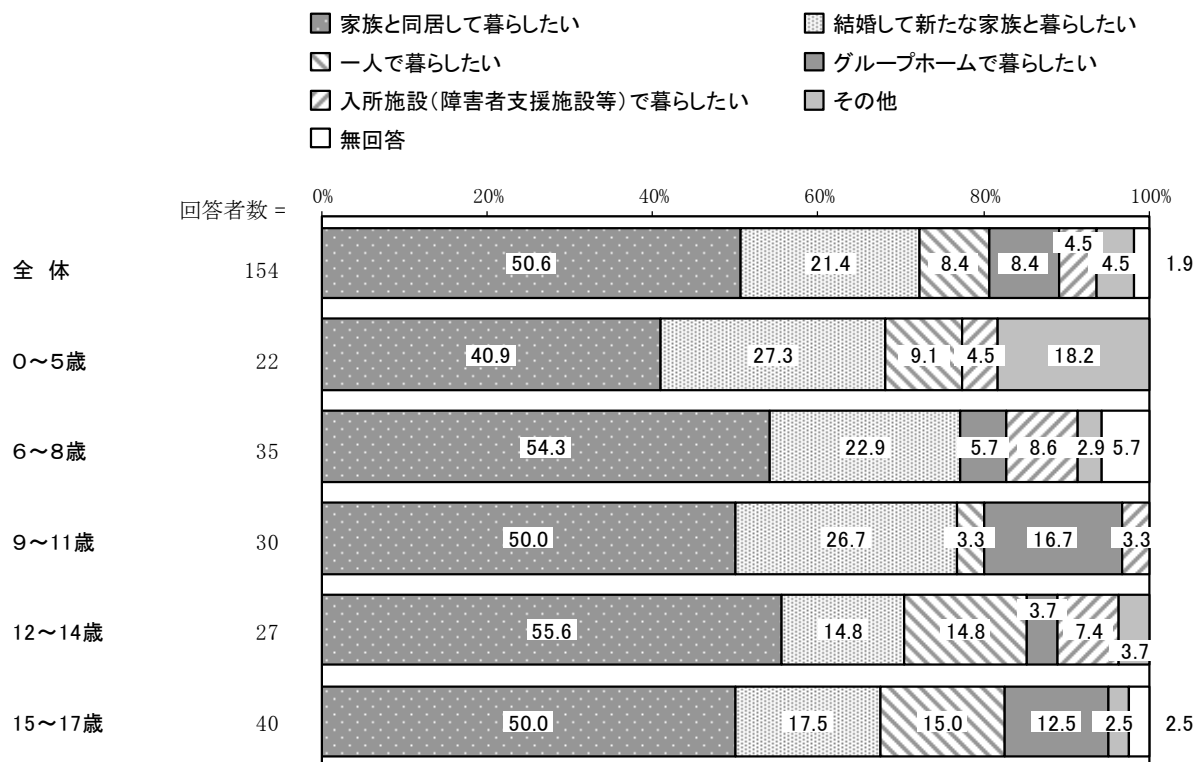
障害別でみると、他に比べ、知的障害で「発達障害」の割合が高く、約5割となっています。



(5) 今後の暮らしの希望

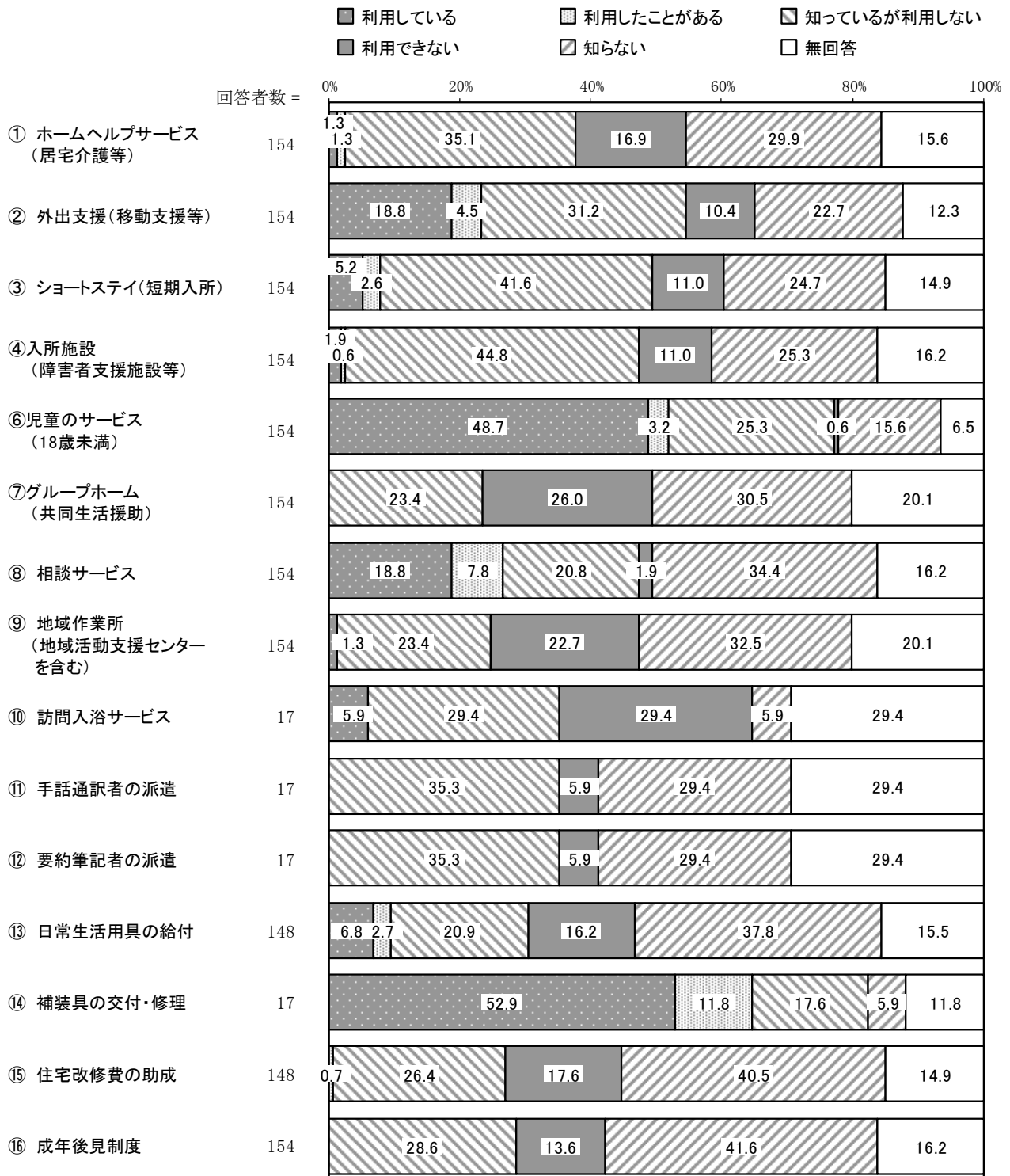
全体では、「家族と同居して暮らしたい」の割合が 50.6%と最も高く、次いで「結婚して新たな家族と暮らしたい」の割合が 21.4%となっています。

年齢別でみると、他に比べ、6～8歳、12～14歳で「家族と同居して暮らしたい」の割合が5割台半ばとなっています。



（６）福祉サービスの利用状況

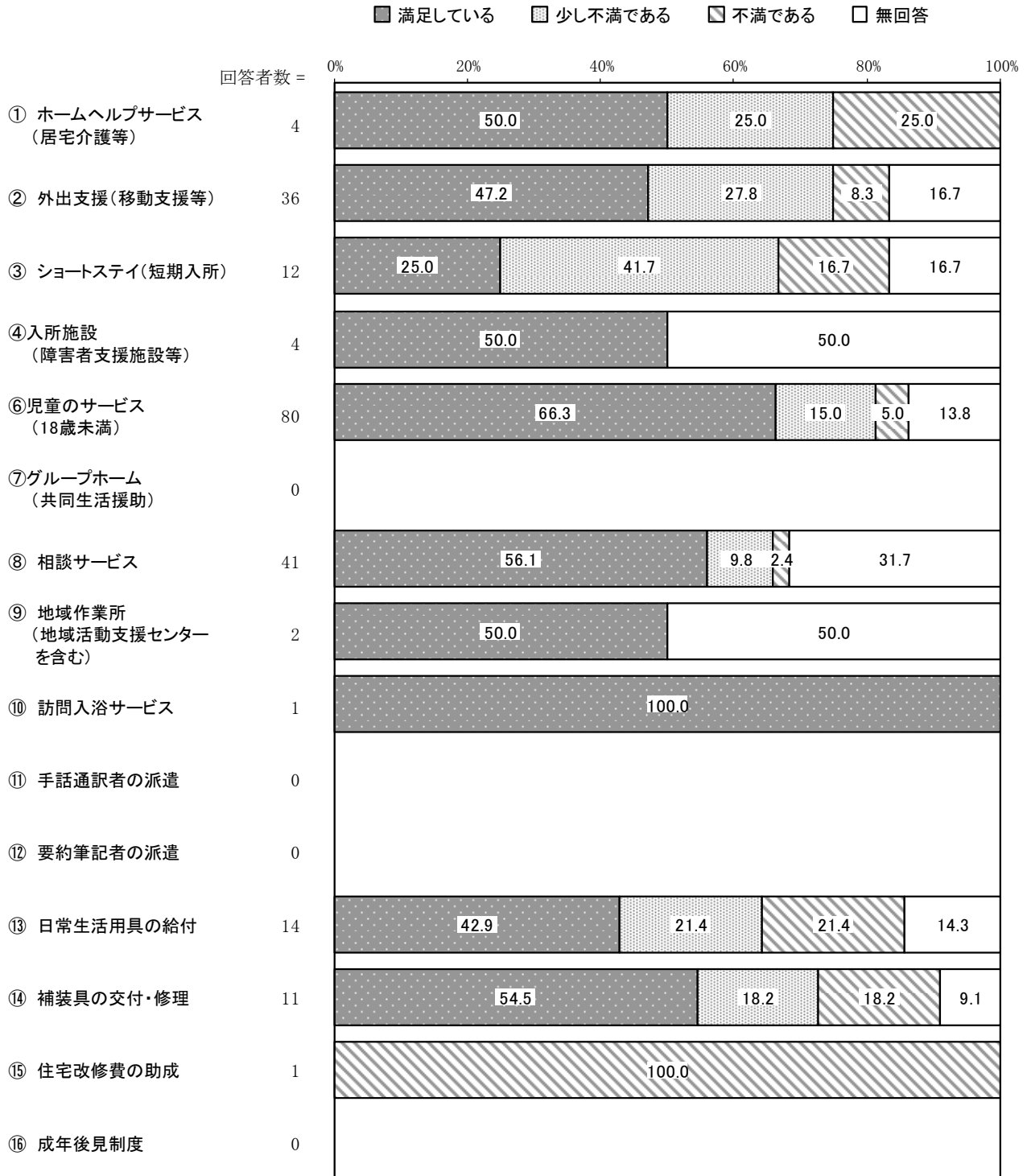
⑥児童のサービス、⑭補装具の交付・修理で「利用している」の割合が高く、約５割となっています。



（７）福祉サービスの満足度（利用経験のある方）

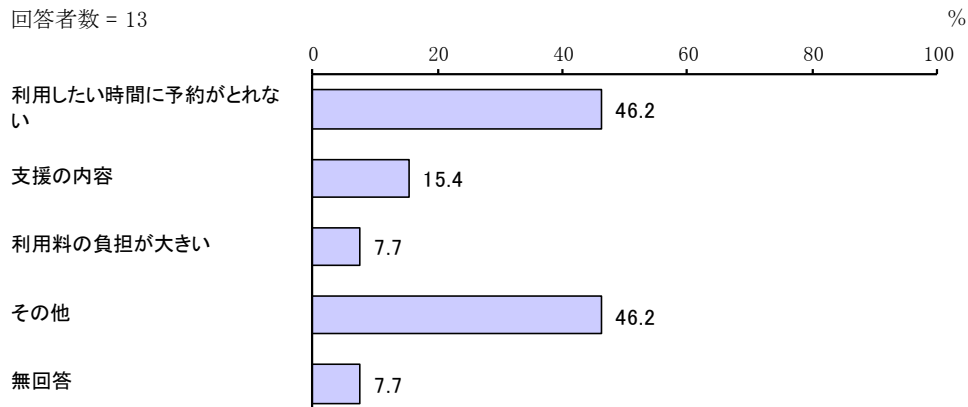
⑥児童のサービス、⑧相談サービス、⑭補装具の交付・修理で「少し不満である」と「不満である」を合わせた“不満”よりも「満足している」の割合が高くなっています。

逆に、③ショートステイ（短期入所）では「満足している」よりも“不満”の割合が高くなっています。



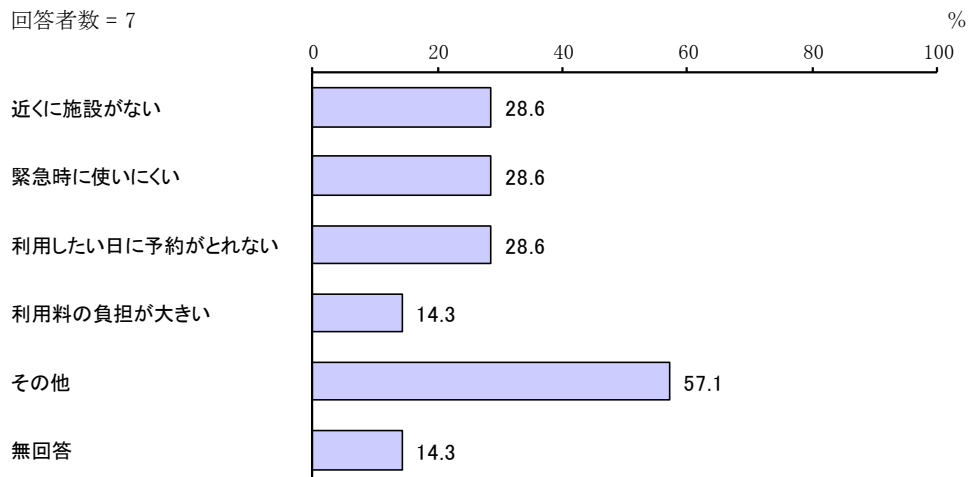
(8) 不満である理由(「不満である」または「少し不満である」方)

②外出支援(移動支援等)



「その他」の不満内容	件数
送迎の負担が大きい	3
気管切開しているから	2
なにが利用できるのかわからない	2
時間が足りない	2
送迎サービスを利用	1
施設がない	1

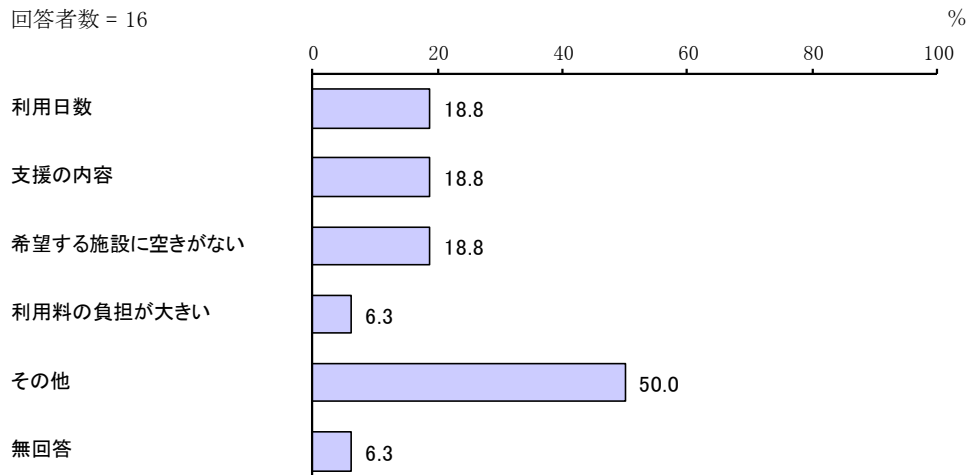
③ショートステイ(短期入所)



「その他」の不満内容	件数
手続きがわからない	2
時間が合わない	1
場所が遠い	1
利用日数が決められている	1

⑥児童のサービス（18 歳未満）

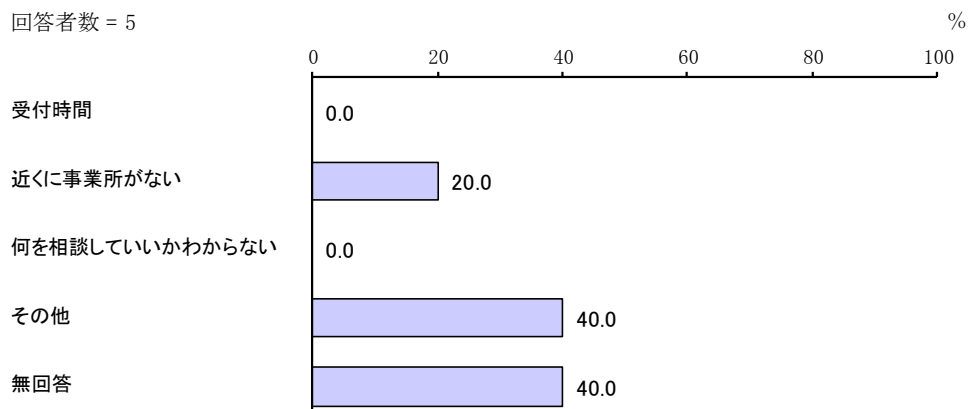
回答者数 = 16



「その他」の不満内容	件数
送迎の負担が大きい	3
施設がない	3
コミュニケーションの場が欲しい	2
希望する日に利用できない	1
新型コロナウイルス感染症が流行しているから家ですごす	1
行きたい曜日に移動の支援がない	1
中・高生時はいろいろ減る	1
必要日数の支援を受けていない	1
指導員の専門知識が少ない	1
内容がわかりにくい	1

⑧相談サービス

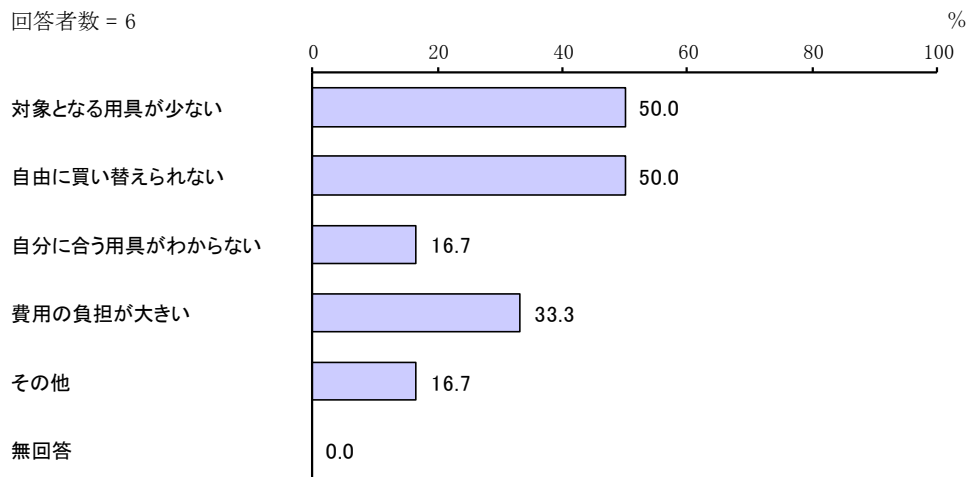
回答者数 = 5



「その他」の不満内容	件数
相談しにくい	4
サービスを利用できない	3
相談サービスのことを知らなかった	1
使い方がわからない	1

⑬日常生活用具の給付

回答者数 = 6



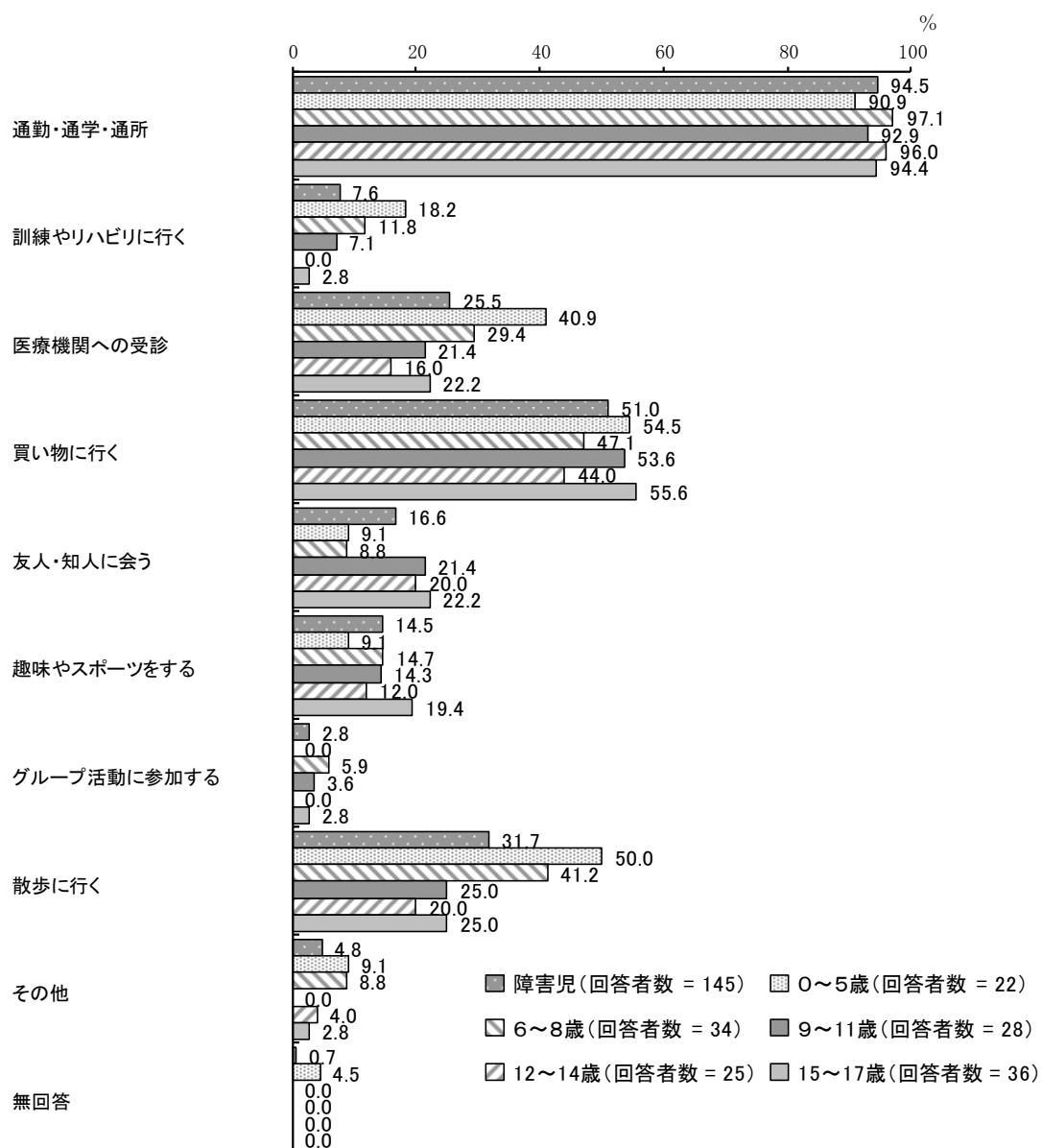
「その他」の不満内容	件数
負担が多い	1

(9) 福祉サービスを利用していない理由

全体では、「家族の介護を受けているから」が 3 件、「サービス等を利用する必要があるから」が 2 件、「他人の世話になりたくないから」「近くに利用できるサービス等がないから」「その他」が 1 件となっています。

(10) 外出時に困ること

全体では、「通勤・通学・通所」の割合が 94.5%と最も高く、次いで「買い物に行く」の割合が 51.0%、「散歩に行く」の割合が 31.7%となっています。

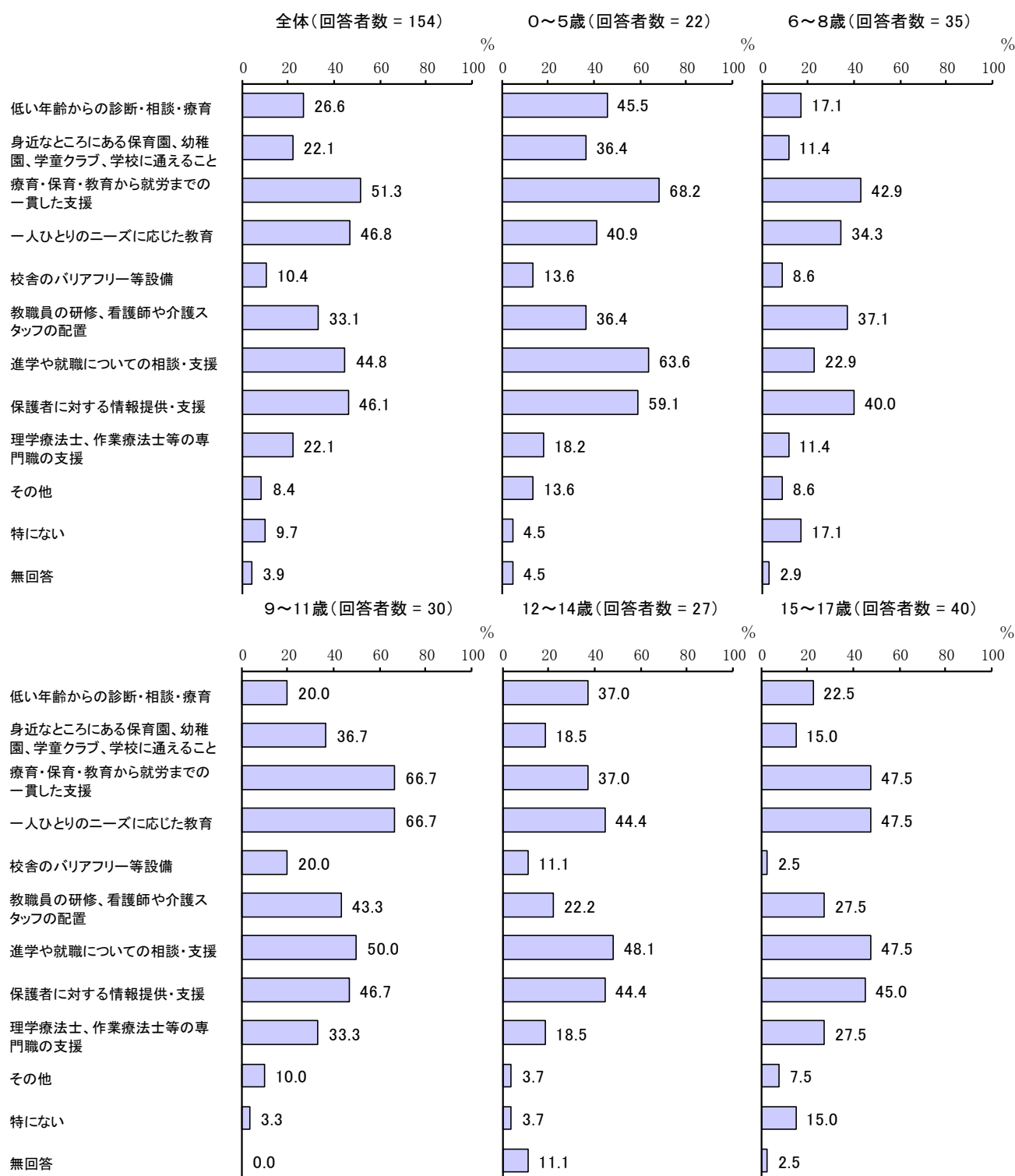


「その他」の外出時に困ること	件数
薬が切れた時が心配	1
不審者対応、災害等などに対応できない	1
さわぐ時がある	1
コロナ禍で公共機関利用をこわく思い、利用できない	1

(11) 障害のある子どもの教育・療育で不足していること

全体では、「療育・保育・教育から就労までの一貫した支援」の割合が 51.3%と最も高く、次いで「一人ひとりのニーズに応じた教育」の割合が 46.8%、「保護者に対する情報提供・支援」の割合が 46.1%となっています。

年齢別でみると、0～5歳で「療育・保育・教育から就労までの一貫した支援」の割合が高く、約7割となっています。また、9～11歳で「一人ひとりのニーズに応じた教育」の割合が高く、6割台半ばとなっています。



「その他」の障害のある子どもの教育・療育で不足していること	件数
障がいについての理解がもっと必要	6
通園通学バスなどの利用、移動支援	5
療育手帳の発行迄にかかる期間長い	2